



『 独身女が 集団で 』

(没原稿ファイル)

『 キャラ大賞 』 応募用。

だったんですが…。

(――；)

霧 樹 里 守

(K i r i g i r i s u

完成（投稿）原稿はこちら。

最終（投稿）原稿はこちら

⇒<https://novema.jp/book/n1585991>

ご笑読いただければ幸いです☆

<https://twitter.com/MasakoTsuchiya2/status/1213806125973266433>

固定されたツイート

《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 · 1月5日

返信先: @MasakoTsuchiya2さん、@shibuyanojirenさん

☆【！拡散希望！】（本日完成！）☆

『 独身女が 集団で 』

著／霧樹 里守

<https://novema.jp/book/n1585991>

#働く女性・シングルマザー

#子育て・介護・老後

#福祉作業所

#性的少数者

#農林牧畜水産・六次産業

#幻視毒発電所・ポーシャ毒

#S F

#I F設定

ご笑読いただければ幸いです☆

(第 3 稿)

(第 3 稿)

『独身女が 集団で』 (第三稿・〇) 改 (2020年01月04日)

霧樹 里守 (きりぎ・りす)

【 目次 】

起： パペルの塔

- 〇一・ 小説家： 美味賜 香子 (うまし・かこ) の日常。
- 〇二・ 調理師： 佐藤和子 (さとう・かずこ) の仕事。
- 〇三・ 清掃員： 円藤美奈和 (えんどう・みなわ) の通常業務。
- 〇四・ 漫画家： 宝剣 聖鈍 (ほうけん・せいな) の本音。
- 〇五・ 管理人： 置田多恵子 (おきた・たえこ) の観察。

承： かけこみ T E R A。

- 〇六・ 運転手： 富田都美子 (とんだ・とみこ) の日課。
- 〇七・ 支店長： 滝川明子 (たきがわ・あきこ) の業務報告。
- 〇八・ 副社長： 長野 緑 (ながの・みどり) の嘆息。
- 〇九・ 農業者： 吉野清次 (よしの・せいじ) の来歴。
- 一〇・ 校閲者： 佐賀 野絵瑠 (さが・のえる) の陰謀。

転： 本日沈没。

- 十一・ 秘書嬢： 細沼甲斐子 (ほそぬま・かいこ) の青天霹靂。
- 十二・ 統括長： 葉山 景 (はやま・けい) の驚天動地。
- 十三・ 技術者： 田中真理 (たなか・まり) の阿鼻叫喚。
- 十四・ 林業者： 狩野愛子 (かのう・あいこ) の決断。
- 十五・ 牧場主： 鷹野王也 (たかの・おうや) の煩悶。

結： 天国への会談。

- 十六・ 通訳業： 高原リツコ（たかはら・りつこ）の呼びかけ。
- 十七・ 原画家： アルノ涼子（あるの・りょうこ）の宣言。
- 十八・ 発明家： 土岐真扉（とき・まさと）の救済。
- 十九・ 大統領： 豪田行（ごうだ・ゆく）の統一。
- 二十・ 移住者： 過去 美味史（かこ・うまし）の墓碑銘。

=====

（表紙絵・七十歳ほどの元気な老女を先頭に、各世代の女たちが歩いて行く絵）

（巻頭句）

『 夢は具体的に書き出すと、実現しやすくなるという... 』

（裏表紙絵・車椅子に乗った元気な老女を先頭に、数十年後の女たちが歩いて行く絵）

【あらすじ】という名の、【あとがき】。

『独身女が 集団で』 (第三稿・一)

(2020年01月03日)

起・ パペルの塔

〇一・ 作家：美味賜 香子（うまし・かこ）の日常。

不滅の人気を誇る熟練エンタメ作家・美味賜香子（うまし・かこ）は筆がノッていて今夜も御機嫌だった。

もちろん、うまくいかない原稿の時だってある。

締切直前まで良いネタが出なくて、ねじり鉢巻きでうんうんと苦吟するSF短編とか。

書いてる途中でトリックが破綻していることに（自分で）気がついてしまって大絶叫する、苦手の中編推理とか。

でもいま書いているのは大得意の定番の、超がつく人気長編エンタメ小説の...続きで。

おなじみの連中がいつものごとく、ばったばたと！

跳んだり蹴ったり斬りあったり、

殴り合ったり罵り合ったり...の、大騒ぎ。

「おいおい、頼むから作者想定外の突発エピソードの乱入する新キャラだの、

(いつものことだが)勝手に増やしてくれるな...！！」

...と、抗議の作戦タイムを挟んで。

構成練り直しの全キャラ参加・脳内会議を展開するのも、また楽し...

なんとか新刊一冊分の、編集者から文句は出ないで済む程度の...枚数オーバーで。

それなりに読者さまをはらはらさせる起承転結と、次巻も絶対に買わせてやるぜ！

てな、ケレンミたっぷりの『引き』を作って...

無事終了。

「用件：『折れなきや曲げろ！』新刊。第三稿・完了。」

の文字だけつけて、添付メールでさくさく送信。

「返信：『おれまげ』拝領しました。これから読みます～！...徹夜で♡」

と、

担当編集から即返が来たのを確認して、やれやれとノーパソを閉じた。

予定時間を二時間もオーバーしてしまった。

二十三時じゃないか。

寝ないと、寝ないと...！

ざっくりシャワーだけ浴びて。

いいかげん痒くなりかけてた頭を丁寧に洗って。

薄い漫画を選んで。

暖かい、お気に入りの寝床で。

二十四時ちょっと前には。

楽しく寝落ちしました…。

*

…おっと、朝だ。

目覚まし時計は六時を指している。

うん。ちょっくら（予定通りに）寝過ごしたけど。

その分きちんと六時間睡眠はとれたね。

よしよし。

起き出して、カーテンを開けると…

快晴！

やれやれと、歡びながら、ざっくり洗顔と着替えだけ、済ませて。

ぬるめのカフェオレをがぶ飲みして、常備品のチョコクッキーを何枚か、かじって。

つっかけ引っかけて窓の外へ出ると、そこは、大好きな、

屋上庭園…♡

ハーブガーデンエリアは朝陽と朝露を浴びて元気に輝いているので…

今日は、世話は要らないね？

雑草エリアと化していた根菜コンテナの草引きと…

トマトの芽かきと、ナスの剪定も、しょうか？

（時間あるかな？）

土いじりが楽しくてやっているだけなので、収穫の出来不出来は、あんまり気にしちゃいない

。

無農薬で、堆肥も自家製で。（もっぱら飲んだ後のコーヒー豆の殻が主原料だ。）

『なんちゃって農園気分』を味わうためだけのものなので…

楽しい。

空は広いし、ペントハウスの柵ごしに、本物の自家農園と、自社牧場が一望できるし。

山は青いし、森は新緑の季節で、キノコや山菜や薪や木炭や、どんどん作れる季節だ。

…これに勝る、幸せはない…♡

深呼吸して、うーんと幸せを堪能しながら、のんびり農作業ごっこをしていると。

背後の室内から、ぴーぴーと、内線が呼ぶ音が響いた。

わざと無視していると…

数分して、わざわざ呼びに来る足音と声がある。

「先生～？ …先生～？」

「カコで一す！」

「…カコさーん。…朝食できてますけど、どうしますか～？」

「いま行く〜！」

わざわざ呼びに来てもらえるのが、嬉しい。

...ので。

わざと、内線を無視しているのは...

内緒〜☆

○二・ 調理師：佐藤和子（さとう・かずこ）の仕事。

朝は四時には起きる。週五日勤務の、仕事のある日には。

五時半までが自由時間で。

いつも話題の振幅幅がとて大きい先生に、後れを取らないよう。

幅広く、かつ自分なりに厳選したニュース速報群にざっと目を通しながら。

まずはトーストとコーヒーだけの、簡単な自分朝食。

時間が余れば読みかけの資格取得教材の続きをちょっと眺めて。

六時からが勤務時間。と、自分で決めている。

広いメイン食堂の広い調理場で。

オーブンに火を入れ、お茶用ポットの湯量と温度を確認し。

夜中に勝手に冷蔵庫を開けて夜食を食い散らかした連中の。

だらしなくも乱れ、とっちらかっている洗い物を...

（秘かに怒り狂いながら）ざっと洗って拭いて、収納（しま）って。

手早く仕込みにかかる。

...あ...ッ！！！！

ひどいッ...！

今朝のメイン野菜の予定だった、自慢のピクルスサラダ！

半分？ 食べちゃったの...

誰ッ！！！！？

...まあ犯人の目星なんか簡単につく。

怒り狂いつつも、溜息ついて、諦めて...

残ったピクルスサラダじゃ、見るからに量が足りない。

急いで...

作れるものは...？

...よし。

とっておきの梅干しを棚の奥の甕から出して。

ごりごりと。

すりこぎで、梅肉だけを手早くはがして潰して。

（種は、後でお茶にしよう。）

片手間で、小ぶりの新ジャガをたくさん。
皮ごと、丸ごと茹でて...
急いで冷まして、皮をぷりぷりはがして...

『茹で新ジャガの、ざっくり梅肉和え♡』

これなら...
先生の好物♡

*

ご飯は炊けた。パンも並べた。
味噌汁もスープも用意はできた。
和洋どちらにも合うよう味付けを工夫している煮物と漬物は、すでによそった。
肉や魚や卵や豆腐は、食べる人間が来てから。
リクエストを聞いて、用意するから...
...よし。七時。ジャスト。
全室一斉通報のインターホンを押す。

『朝食で一す！』

『...うおーい！』

『いま行きまーす！』

律義に返事をしてくれるのは、だいたい、二人だけだ。

『...先生？ 先生ー？？』

内線越しに叫んでみても、例によって、先生からは、
...返事なし。

...窓を開ける音は聞こえたんだから、今日は、もう起きては、いるはず...

一番近い直通の内階段に至るドアを開けて、パタパタとペントハウスに駆け上がる。

「先生～？ 朝食できてますけど、どうします...？」

「いま行く～！」

たいがい、先生はニコニコとすぐに振り向いて、待っていたように、応えてくれる。

...たぶん、自分が毎朝のんびりと眺めている、屋上からの...

広大な、朝の光景を。

一日厨房に籠りっきりの自分に、一目、見せたくて。

わざわざ....

呼びに来させて、くれている...？

...んじゃないかな？

...と、思う...。(嬉しい。)

*

その後しばらくは。

ちょっとした戦場だ。

「おあよう～！ あたしサカナー！ デカイの焼いてー！」

はいはい。魚種はなんでもいいんですよ知ってます。ホッケ特大でいーですねッ？

そんなことだろうと用意していた上物の生干しのホッケを網に載せてグリルにかける。

リクエストの主は、女性とも思えない大股で半あぐらをかいて。

どんと！ 真ん中の椅子に座って。

まず番茶をすする。

ワイルドとしか言いようがない、この蛮族のごとき。

寝乱れたままの男物のパジャマと、オヤジのごとき物腰の人物は。

これでも一応、（驚くことに！）...うちの敏腕有能・美人（女性）営業部長！

...であったり、する...

（食卓での傍若無人ぶりを観る限り。

常識的かつ社会的な、気配り？なんか、出来そうに、思えないのに...！）

深夜のピクルスサラダ大量窃盗犯も、二分の一の確率で....、

いや、今日の場合、間違いなく...

こやつが主犯であろう。

と、思うが。

「...だって、カコさんが最初に、

『自分の家だと思ってくつろいでね。』って、言ってくれたし～？」

...と、開き直られるだけなので。

へたに追及するだけ、無駄だ...

...と。

いつものように、怒りの拳をなだめる。

...まあ。

肝心の、カコ先生が。

いつものように。

歌うように、踊るように、ちょっと...お行儀悪く。

お箸を音楽家の指揮棒のように、振り回したり....、しながら。

「美味しい～♪ 美味しい～♪」

と、連呼しながら。

即席追加メニューの『新ジャガの梅肉和え』を。

みごとな勢いでがつつかっこんで。

「おかわり！」まで、要求してくれた...♡

ので。

まあ。

怪我の功名ということで。

赦すとしますか…。

*

「おはようございまーす！ 遅れてすいませーん！」

「べつに遅れてないよー？」

これも、いつもの会話だ。

「先生、原稿あがったんですね？ 次の打ち合わせの予定、確定しちゃっていいですか？」

「うん。明日以降ならオッケー」

「進めておきます」

「よろしく～」

「…卵はどうしますか？」

「具入りのダシ巻でお願いします♡」

…だいたい毎朝これだけ。

たまに違うリクエストも来るから、うっかり焼いておくわけにもいかない…。

ダシ巻用の縦長フライパンに手早く生卵を割り入れ。

しゃくしゃくとかきまわしながら、用意の茹でインゲンと、ニンジンの甘煮を投入…

「おはようございまーす！」

「おはよう～」

「おはようさん」

「はよー！」

「おはようございあーっす！」

うちの先生ほか、アシさん含め、漫画勢は全員ダメです！

起きられませんー！ オニギリにしたげて下さいー！」

「了解でーす。…十一人、いる？」

「十人ですw」

「アタシは炒り卵と～。ご飯大盛で。シャケのバターソテーも小さいやつ食べたいでーす♡」

「はーい少々お待ちをー！」

先生原作の長編小説を漫画にしている女所帯は現在合計三グループも同居しているので、常駐するメインアシさんだけでも、なかなかの大集団で。

ほぼ毎月末ごとに泊まり込みで進捗状況を見張りにくる各社の編集さん達と、

締め切り前だけ遠距離通勤で参加してくる派遣？のアシスタントさんまでふくめると、

総勢…三十数人。

そのほかの寮住みスタッフと、通いだが食事希望の社員を合わせると、

総計…約五十人？

独身女が、集団で。

「基本、朝ごはんは七時で～。なるべく全員そろって～。」

...というのが。

先生が、同居に当たって出した条件のうちの一つだった。

おかげで、朝・昼食担当の住み込み調理員、わたくし佐藤和子（さとう・かずこ）は。
毎朝、てんてこ舞いですよ...☆

(...いえ、もちろん、仕事は楽しいですが...！)

○三・ 清掃員：円藤美奈和（えんどう・みなわ）の業務。

「おはようございます。...あの、...いつもと同じでいいです...。」

「...はい。ベーコンかりかり卵三つサニーサイドエッグ。少々お待ちを～♡」

「...好きなもの頼んでいーんだよ...？」

いつものように、先生が、ちょっと困った笑顔で、『選べるメニュー表』を指し示す。

「ベーコン、好きなんで... この、美味しいんで... 高いやつ頼んですいません...？」

「...いや、そーじゃなくて。ね～...？」

...ふつう使用人というのは、御主人サマとは一緒にの食卓にはつかないだろうと思う。

清掃員という仕事は、使用人層の中でも、一番下っばの汚れ仕事ってやつだと思う。

でも何故か、あたしは先生というレッキとした雇い主サマや。

雇用主側の。

...側近というか、重役というか？

...難しそうな、ハイスペックな？

高給取り（たぶん）の、役職業務を担当している、偉い？人たちと...。

一緒に。

朝食を食べるハメになってる...。

へたすると、昼食も夕食も、夜食まで...（超豪華・高級メニューで！）

一緒だったりする。

...いいのかなあ？ と。

最初の頃は、落ちつかなかった。

でも、ご飯が美味しい。

部屋で自炊するより、（ここからじゃ遠くてそもそも不可能だけど）

コンビニ弁当やスーパーの閉店前の半額弁当を、買いに走るより...、

安くて、

...美味しい！

人間、ラクには、流される。

今ではすっかり『食堂で、みんなと一緒にのご飯！』が。

あたしの、『普通』になってる。

...美絵にも、食べさせてあげたかったな...

こんなふうに。

...大家族で。

温かい、美味しいご飯を...

...と、時々思う。

美絵というのは、あたしの娘だ。

先生にはとても可愛がってもらった。

今はアパート借りて大学に行っていて、就職活動をしている。

そんな風に美絵を立派に育てられるなんて、ぜんぜん思ってなかった。

これもみんな、先生と出会えたおかげだ。

*

先生が、そうじ係を募集していた。

まだ、デビューしてそんなに経ってない。

郊外に、古い一軒家を借りたばかりの頃だ。

『 清掃員、募集。

電気掃除機も合成洗剤も使わずに、
一軒家と庭をまるごと掃除できる、
綺麗好きのかた。

女性限定。完全禁煙。子連れ通勤可。

(住み込み応談) 』

そんな張り紙が。

母子家庭の公設避難寮の伝言板と。

そのすぐ向かいの自然食八百屋の店先に。

そおっと、貼られてた。

あたしはDV夫から逃げてきた、ばかりで。

重度アトピーの、泣いてばかりいる、

まだ小さい美絵を、預ける先も見つからなくて。

仕事探しも出来なくて。

でも生活保護の担当官からは毎日毎日、「働け！働け！」って、

...怒られてて。

毎日いつも、かさかさで赤むけした皮膚を痛がって泣く、

美絵と一緒に。

めそめそと、泣いてばかりいた。

『 掃除機も 合成洗剤も 使わずに 』

...掃除...？

...出来る。よ...！

だって美絵のアトピーに良くないって保健所で習ったからね！

がんばって...

覚えたんだよ！

住所を母子寮の管理人さんに教えてもらおうと、寮から歩いて通える距離だった。

さっそく、飛んで行って応募した。

面接、即『試験採用で。』ってハナシになった。

...『綺麗好き』ってところは。

イマイチ、先生の要求レベルには合ってなかったらしくて...

最初の頃は。

「...扉の上の埃も、ちゃんと拭いておいて下さいね？」

とか、

「視力の弱い私に代わって、きちんと掃除してほしいから、ひとを頼んでるんですよ？」

とか。

ちよくちよく、叱られてしまったけれども...

そうやって、先生に注意されたポイントを。

母子寮の、自分たちの部屋でも、きちんと掃除。

してみたら...

美絵が！

美絵の... アトピーと、喘息が...！

目に見えて、ぐんぐん軽くなってった。

...そうか！

ごめんね。

今までの掃除。

まだ、雑だったんだね〜〜〜ッ！！！！？？？

泣き笑いしながら、美枝を連れて行って先生に報告したら、一緒に喜んでくれた。

*

それから。

初対面の編集の人が、こっそり吸ってった煙草の臭いの追い出しかたとか。

嫌がらせで壁に書かれた赤ペンキの血みたいな染みの、安全な消し方とか。

こっちから、教えてあげられることも多くて。

だんだん、仲良くなって...

美絵を連れて、先生の買った（コットウ的に古い）木造洋館の離れというか、母屋とつながっ

ている車庫部分の二階？に作りつけられた、昔ながらの『使用人部屋』（と言うらしい）の、小さな部屋に。もちろん、美枝を連れて、一緒に...だ！

住み込みで、働かせてもらえるようになった。

そこから、空き時間には他のパートに出たり。

先生の事務を手伝って、バイト料を貰ったり。

がんばって、稼いで、お金を貯めて...

(その頃は、先生のご飯も時々あたしが作ってた。

ご飯の評価は、かなり、イマイチだったけど....)

美絵はそこから小学校に通った。

中学も、高校にも通った。

美絵が大学に行くって言って、親元を離れることが本気まりになった...

頃に。

先生は、このビルを...

どかん！と、おっ建てた。

「...これからは、この寮と一緒に住んで。

共用部分全体の掃除をお願いします... 大変だと思うけど。」

そう言って、笑った。

*

毎日の掃除は、週五回。

共有部分の各階の廊下とトイレと、玄関まわりと。

あとは天気と季節に合わせて仕事の内容は変わるからと、

あたしの勤務は完全フレックスタイム（自己申告制）ってやつになったけど。

週五日、午前十時から十一時の間だけは。

、基本、食堂担当の「代理」を務める。

和子さんの、ランチ休憩だからだ。

だいたい、そんな時間を狙ってやってくるのは、

マンガ家の先生たちと、そのアシスタントの皆さんだ。

こっそり和子さんが苦手なせいらしい。

...だって、熱いものは熱いうちに食べて！

とか？

箸はきちんと持ちなさい。

とか、

スマホ見ながら食べないで！

...とか？

食べかたを、厳しく見張ってる感じが...

するからね？

せっかくの炊き立てご飯を！と。

和子さんが（最初のころは）ぷりぷり怒りながら握ってたオニギリの山を。

好きな時に、好きなだけ、盗って食べて。

オカズは、好き嫌いして...

かじりかけで、半分以上、残してあったり...

して。

（さすがに、生ゴミ入れに捨てられていた時は、戻ってきた和子さんがブチ切れた...

「食べ残しは綺麗によけて、ラップかけて冷蔵庫に入れろ！

出来ないやつは今すぐ出て行け！」って。

真っ赤に怒って、泣きながら怒鳴りつける...

大騒ぎになって。

先生が、全面的に和子さんの味方をしたんで。

漫画家さんたちは、みんな恐縮して...

ちゃんとする。って約束して、一件落着になった...)

...の。

それでもやっぱり、忙しくて、寝不足だと、乱雑に食べ散らかして。

お皿も自分で洗わないで、シンクやテーブルに乱雑に放っていたりするのを、

慌てて、片づけて。

和子さんが戻って来るまえに。

一見、こぎれいにしておく...

...のが、もっばらのあたしの、『追加』業務だ...。（苦笑）。

*

あとは。

通称『パペ寮』とか『パペルの塔』とか呼ばれてる。

この、お城の。

（あたしにとってはお城だ。）

（※ 名前の由来は、先生たちが「紙」に色々と書いたり描いたりして稼いで建てた、『紙のお城』だからだそう。...パペルって『ペーパー』のスペイン語？の読みかたらしい...。）

上から下まで、毎日綺麗に。

はたいて掃いて、拭いて磨いて。

毎日だいたい同じ繰り返しだけど。

季節に合わせて、曜日を決めて。

天気を観ながら、所々を。

順番に『部分大掃除』して。

秋の終わりの『雪仕度』の時期と、年末と、
春の始めの雪解け直後の忙しさが、終わった頃、には。
みんなが手伝ってくれるから、仕事を割り振りして。
人数分の道具を、たくさん用意して。

「あたしが一番偉い！」の
『総指揮官の日！』になって...、
先生本人まで、アゴで使って。
大・大・大掃除...！
して。
終わったら、和子さん担当聖域の、大食堂で...
大・宴会だ...♡
...それが、最大の、楽しみで。
生きてる...。
...毎日、楽しいよ...！

○四・ 漫画家・宝剣 聖鉦（ほうけん・せいな）の本音。

いや最初に聞いた時にもう「基本それ無理！」って思いましたわ。
朝七時に、毎朝？
全員そろって、朝食...？
...あんたそれ本気で漫画家に言ってますかウマシカ先生？って、
目が点。
だって、寝るのが朝の五時過ぎとか...、
ザラだよ？
締め切り前には、ごはん食べに？
わざわざ、ほかの部屋に...移動する？
とかの、時間的なロスも...惜しいよ？
...片手で、食べられて！
味なんか、どうでもいいから！
この締切を！（とっくに期限が過ぎてるけど）
最期まで闘えるだけの！
チカラをわたしに頂戴！
...ってな場合。
スポドリと栄養ゼリーとカロカロメイトで...
いっしょ？！
「揃って毎朝ご飯！」

...って...

なにソレ！？？

*

...でも一応「なるべく」って... 条件で。

ソレー一応呑まないと入居だめ！って言うし。

まあ一応「うん」と言いましたよハイはい。

シメキリ守れるかー？って、編集の質問に、
対応するのと、同じ扱いで... です。

はい。

...だって家賃が！ 格安だし！

コピー機とかで電気ガンガン使っても、

自家発電機の発酵メタンガスの？堆肥の対比が？どーのこーの？

光熱費も、自給自足でコストが格安だから、

家賃にコミでいいよって...

言うし！

自分の部屋と、仕事部屋と、フロアが一緒に！

廊下を渡ればもう部屋！ すぐ仕事場！

雨でも雪でも快適！

アシのみんなが全員余裕で手足伸ばして横になって寝られる...

超でっかい...雑魚寝部屋！

二段ベッドに、毛布とシーツも？完備で！

掃除と！

...共用寝具の、洗濯まで...？！！！！

...してくれる、専門の家政婦の人？

まで、常駐するって...

言うし...！！！！！！

...釣られるでしょ？ そりゃもう。

*

まあ期待したほどは、うましかセンサー本人と、

会う機会はそんなにはないんですけどね？

(まあそりゃ滅多にあたしが朝食時間に行かないんだから... 自業自得か！w)

絵コンテ切るのに煮詰まった時とかに。

「センサーこの時のコイツの科白。この真意はいかに...！？」 とか。

「これここのこやつの怪しい動き。

こっそり内緒の、のちのちのための... 伏線だったり...、しますか...？」

とか。

夜中に突撃取材で？

ペントハウスの先生自室をじかに訪問しちゃえるのは...

ちょー便利♪

(いやー応ウマシカ先生御本人サマが原稿中でないことは、確認してからですよ。もちろん?)

*

食堂のおばちゃ...、

おねーさまは...、

ちょっくら怖いけど。

ご飯は...

文句なしに、美味しいし！

経理だの税務だの各種支払いの振り込み請求だの、

原稿料だの印税だのの入金確認と受領証の発行だの、だの...

雑務のすべては？

『本社』の経理専門の部署が...、

まとめて代行してくれるし...！

毎日『原稿だけ』に集中できて...、

休みは、すぐ近くで、ほんっものの！

大自然が満喫できてー！

...最高！♡

○五・ 館長・置田多恵子（おきた・たえこ）の観察。

歳はそこそこ行っているとはいえ途中入社早々の新人が出社当日即いきなり社運をかけた新設『パペルの塔』の周辺施設もすべて含めた総括管理責任者という重職に配置されたのはきっと『名前選ばれた』んだね？とは、多くのかたから御指摘を頂いております。

『敷地内諸施設管理保全運用総括』というのが正式な肩書のはずですが。

たしかに、社長がいつも、とても嬉しそうな顔で

「オキタ館長～！」と呼んで下さいますので。

この名字は、採用と配置先の選択において重要なポイントだったのかなとは思いますが。

漢字は違っております、置田多恵子（おきた・たえこ）と申します。

『パペル塔』一階正面玄関脇の管理人室主任総括席に常駐しております。

白色灯の老朽化点滅時や水道栓のポタ漏れや凍結、ガス漏れ疑いや痴漢や泥棒の侵入時など、諸々の御用の際には、最寄りのインカムから遠慮なくお呼びつけ下さい。

より正確には、館長ではなく『管理人さん』と。

普通に呼んで頂ければというのが、唯一個人的な希望でございます。

*

最初はきちんと毎朝〇七時ちょうどの五分前までには食堂に入室完了し末座に着席して待つようにしておりました。

しかしこれは失敗でしたね。

調理員の和子さんを慌てさせたり恐縮させたりします。

次には〇七時の五分後ちょうどを狙って入室するようにしてみたところ、今度は、ほぼ同じタイミングで美味賜香子社長を始めとして他の主だった重職スタッフの皆さんが次々に座って、それぞれが好みの主菜の注文を勝手に繰り出すので、やはり和子さんの仕事が立て込んでしまう時間帯に当たり、非常に大変そうで申しわけありませんでした。

そこで朝の館内見回り業務を一カ所先に片づけることにして、〇七時十五分を自分なりの定刻と決めましたところ、初日こそ美味賜社長に「あれ？」という顔をされた他は何の問題もなく。

その後はその定時を原則きちんと守るようにしております。

ご飯はとても美味しいですね。おかわりも自由なところが良いです。

*

さて時間を少しずらして朝食を摂るようにしたところ、ひとつ気がついたことが。

美味賜社長は毎朝〇七時一〇分ころから食べ始める習慣のようですが、基本がかなりゆっくり食べる人で、さらに、食べ終わった後もかなり長い間、食堂から動かない。

まれに漫画家スタッフ一同が何故か〇七時台に勢ぞろいするという珍事が発生することがあって、おもに徹夜明けで原稿を編集者に渡した直後、という事例らしいですが、そうすると、想定外事態なため大食堂の普段使いの卓だけでは、席が足りなくなります。

気がつくと、そういう場合、美味賜社長はカウンター席のいちばん左側の隅っこという社長とは思えない末座の定位置から素早く離れて。

廊下との境目にある軽食談話スペースの丸椅子に、さりげなく移動をするわけです。

すぐ向かいの事務室エリアに入れば御自分専用の整えられた執務ブースと大きな接客ソファがあるし、あるいは上階の専用私室であるペントハウスに戻ったほうが、食後の一服という意味ではくつろいで過ごせるでしょう。

でも、食堂の隅がお好きなようなんです。

食事が一通り終わった後でも、お茶を淹れてもらったり、デザートをおかわりしたりしながら、かなり遅れて来るスタッフが〇七時五〇分頃から慌てて食べ始めるのに寄り添って座り直して

声をかけたりして過ごし、だいたいいつも〇八時一五分過ぎくらいまでは、食堂にいらっしやいます。

なるべく、入寮者全員の顔を見て挨拶できるまで待つ、というお考えではないかと思います。

普段あまり管理職とか社長という肩書が似合う人のように思えませんが。

できるところで、そうやって全体の空気とスタッフ各個人を観ている。

そういう、感じがしますね。

今朝もいつもの『校閲&社史編纂室』長が、毎度の徹夜明けらしい真っ赤な眼をしてよろよろと自室から這い出していらっしゃるまで、〇八時三〇分過ぎ頃まで、食卓の隅で、のんびりと待ち構えていらっしやいました。

お二人はとても仲がよろしくていらっしゃるようですが。

どうも、仕事の内容からなのか、生活時間帯が、完全にずれていて。

なかなか直接に顔を合わせる機会がなく。

同じ寮内に棲みながら、普段はメールでのやりとりが主になってしまっている、というお話を社長から伺ったことがあります。

それもあって、いつもお待ちになっているのかもしれないね。

*

遵守せずとも怒られるわけではありませんが、基本のルールとしてはマルナナ...午前七時から八時までが、寮内在住スタッフの朝食時間、午前八時から九時までが通勤組で食事希望の社員の食事時間、と一応区分けされております。

午前九時には一旦『全社朝礼放送』が流され、食堂が簡単な朝礼の場となって、情報伝達と打ち合わせなども続けてこの場所で行われます。

食事をとりながら耳だけ参加している者も案外多いようです。

そのあとも午前十時までに来れば和子さんお手製の主菜をオーダーして作り立てを出してもらうことが出来ます。

昼食時間は住所の区分なく午前十一時から十三時まで。

その後十四時からがホットドッグや作り置き冷凍総菜などを使った簡単な軽食のみの『ハイヌーン・タイム』となっており、十五時が和子さんの退勤時刻になります。

交代で、こちらは日替わりの『夕夜食スタッフ』が敷地内併設レストランから派遣されて十四時五十分までに出勤して参ります。和子さんと簡単な在庫管理などの引継ぎと打ち合わせの後、十五時からが手作りジェラートや焼き立てホットケーキなどが食べられる『本格アフタヌーン・ティータイム』となります。

和子さんはこの時間帯に御自分の昼食を採られますね。

よく注文しているのが『フランス風ソバ粉のガレット』の『何とか風』です。

一度ご相伴に与かりましたが、大変美味でした。

名前が憶えられなかったため自分では注文できないのが、目下の懸案事項です。

承・ かけこみTERA。

〇六・ 運転手： 富田都美子（とんだ・とみこ）の日課。

ふつうは『母子（ぼし）寮』って言うよね。

シングルマザーと子どもだけが、集まって住む寮のこと。

パペル社では『母子母寮』って書いて、『もしも寮』って呼んでるんだ。

可愛いっしょ？

好きでシングルマザーになるわけじゃないけど、もしも、なっちゃったら。

好きで独り身の老後になったわけじゃないけど、もしも、なっちゃったら。

「安心して、ここに入居してね♡」って、センサーが作ってくれた、施設だ。

だから、『もしも寮』。

あたしは双子と荷物をぽんぽんぽーん！と、保育棟に放りこむと、急いで駐機場まで走った。

預けた双子は、預ける荷物を、自分たちで当番先生（有資格責任者・有料）に渡して。

わらわらと大歓迎！モードの全開笑顔で集まってくる『仮祖母』（もしも）の皆さん...

（資格の有無は問わず、出産・育児の経験者。死別・離婚に拘わらず何らかの事情で老後に単身化。身の回りのことはまだ自分で出来るか、または軽い要介護（認知症含む）状態だけど、とにかく小さい子どもが可愛い！ かまって遊びたい！...という。

ボケ防止の日中活動も兼ねて、無料で育児ボランティアに毎日有志参加の皆さん。）

...に、もみくちゃで大歓迎されながら...

本人たちの主な通園目的は大好きな「お砂場！」に突進するころなので...

どうやらそのためにはたんなる「邪魔な障害物」だと考えているらしい、

おばーちゃん集団を相手に...

なでくり回されて...

苦戦しているw

そんな姿を遠目の横目で眺めて、思わず笑っちゃいながら。

...おっと！

見落としやミスは、赦されないよ～??

厳密に、チェック表を脳内で暗誦しながら。

社用最新式の小型『飛空車』...つまり『空飛ぶ自動車』...

通称『空飛ブータ号』の。

起動前の安全確認をきちんと完全に済ませる。

...あたし？

富田都美子（とんだ・とみこ）。

カコ先生おかかえ。...

運転手！（...操縦士...？）

*

なんで、この仕事に就いたかって言うと...

あたしあんまりモテたこと無かったんだよね～。

けどなんか、あたしのこと「好きだあ！」とか？

しつこく言ってくる男がいたんだよね～。

まあ悪い気はしなかったんだよね～...？

まあ一緒に酒呑んだり、ご飯食べたり...

旅行に行ったり？

遊ぶ相手としては、まあ気楽で気軽で。

無責任につきあえて。

まあ、ラクだったし...

んで。

なんか気がついたら、お腹に仔っこが出来てたわけさ！

まあ、しょうがない！出来たからには産むべ！ って、思ったわけさ。当然。

けど、相手の男がね？

ばかでねー？

役に立たなかったわけさ！

ひとが慣れない育児でひーひー言ってる最中に。

「俺と子どもと、どっちが大事だ！

そんなブサイクな餓鬼どもはさっさと捨てる！」とか...

言い出すからさ？

そんでまあ、色々あって、修羅場あって。

けっきょく捨てたわけさ。

ポンって！

...男のほうを、だよ？

んで。

もともとパペル社の関連従業員だったから。

双子連れて、『もしも寮』にすぐに入れてもらって。

最初は、授乳休憩もらいながら、農場で選果や箱詰めなんかの仕事をしてたんだけど。

前は『空キタ便！』の配送員だったから。

空飛ぶ自動車の全開免許、持ってたし。

先生が、わりと人見知りというか...

同乗する相手の、好き嫌いをする人で。

何人か、というか、かなりの人数、専用運転手が...

代替わり、してて。

...あたしのことは、農場で一緒に収穫作業とかやってた時に。

意気投合したというか...

気に入って、くれてて。

仲良くしてくれるんだよねー♡

んで。

双子の授乳が終わって～、あたしの体調が戻ったところに～。

「専用運転手」つう、

肩書をもったわけさ♡

...さて。

安全確認、終了。

急がないと！

約束の時間だ！

...今日もがんばって飛んじゃうよ～♪

よろしく！ 空飛ブータ号♡

ぶい～ん...！

〇七・ 支店長： 滝川明子（たきがわ・あきこ）の業務報告。

滝川明子と申します。姓は滝川ですが、住所は数代前からパサミカワです。

パベル社直営『ポッポ口庵』支部パサミカワ支店長を務めております。

今日は先生が定期訪問というか、巡回視察と称して、差し入れに来てくれる日でした。

原稿は昨夜のうちに無事にあがっていたそうです。良かったですね。

(あがらないと訪問中止になる場合もあって...スタッフたちがガッカリしますので)

...いえ、原稿もとても楽しみです。次回作、なるべく早く出版されるといいですね...。

ウマシカ先生...カコ先生は、御自分では「三角貿易」と呼んでいるらしいんですが。

パサミカワに来店される時には必ず、ポッポ口本店やパコタテ支店の名産品を何か、大量に買い込んで来ては、スタッフ全員に配ってくれます。

今日の差し入れは本店特製キャラ菓子『くっきー』サンドでした。

御馳走さまでした。

とても美味しいし嬉しいです。

後発のパサミカワ支店としては、先輩他店は「追いつき追い越せ！」の目標というか。

僭越ながら、秘かにライバル視。しておりますので。

本店オリジナル商品を味見させてもらえるのは、大変いろいろと勉強にもなるし。

よし頑張ろう！という励みにもなります。

それでパサミカワ作業所からは...

自慢の新商品！

『自社製チーズの天然フリーズドライ』加工品各種を大量に！

(先生個人の自費で！) お買い上げいただきました。

やはり大人気なのは自家製チーズのフリーズドライをパン粉のような形状に、丁寧にクラッシュして仕上げた『チーズ粉』ですよ！

(粉チーズとは、違うんですよ！)

これをトンカツとかザンギとかコロケとか。

揚げ物の衣として、たっぷ〜り！まぶして！

揚げてみて下さい...。

まちがいなく、体重が一気に増加します... (笑)

あともちろんカットチーズをフリーズドライにして高野豆腐風に加工した試作品も。

これからいろいろ工夫できそうだと、試食をお願いした地元料理家の皆さんからは、ご好評を頂いております。

どうぞご賞味下さい。

この作業は、世間様からは「聴覚不自由」と呼ばれる身体的特徴を持っているスタッフ一同が

。スマホの文字画面で連絡を取り合いながら、冬季休耕中のジャガイモ畑の大雪原に散らばって

手作業で天日に当ててはひっくり返し、吹雪の時には急いでザルを回収格納し。

また晴れたらせっせと出し広げて、丁寧に干し上げて...。

根気のいる作業を繰り返しながら、心をこめて成型加工や粉碎作業をしました。

それで。先生は、御自分たちで本社やパベル寮で召しあがる以外の分は、ポッポ口本店やパコタテ支店のスタッフに、「個人的に差し入れ」して下さるんですよ...。

で、パコタテ支店からは主に「知的に不自由のある」スタッフたちが中心となって、手作業で加工した海産物などを、色々とお買い上げになって。

やっぱり、他の店舗のスタッフに、配って回っていらっしゃるとか...。

毎月の各支店ならびに本店の売り上げのうち、実は5%くらいが、こうしてカコ先生個人の財布によって、賄われております...

重ね重ね、ありがとうございます...。

*

併設の、パサミカワ福祉作業集積センターについてもご説明しますね。

島北や島東の出身者を中心に、各種「心身知的に障害がある」人たちや、一人親家庭や病児親やで定時の勤務が難しい方々や、不登校による低学力のため成人後に通信制で補習中の生徒など

。 何らかの理由で「一般就業が難しい」と認定されているスタッフたちが、主にそれぞれの特徴傾向別の生活寮で共同生活をしながら。農林作業や加工品製造や調理や店舗販売、また配送作業や配送経理事務などを分担しあって、運営を続けております。

もちろん行政からの補助金や、短時間スタッフにとっては生活保護などの福祉収入が頼りの、苦しい運営収支ではありますが。

なんとかそれなりにご利用者様にもお客様からも、愛され盛り立てていただいて。

そこそこ繁盛しており、みな、楽しく忙しく、一生懸命に働いております。

ポッポロ本社直営の既存の郊外型施設を拡張更新して就業可能人数を順次拡大する、という当初の案を、カコ先生が却下して、各地分散して新規複数の同時立ち上げをという、運営的にも金銭的にもたいへん厳しい道を選んだのは。

震災津波がくれば全域海没の恐れのある平野部に位置する首都ポッポロ市への一極集中を避けたい。また、直近に建設されてしまった幻視毒発電所に事故があれば、大量被毒の心配もあるし。というお考えの他に。

ポックル島の西端に位置するポッポロからだ島北や島東の遠隔地出身のスタッフは、連休時などに帰省で往復するための費用と時間が大変だから、というお気遣いがあったそうです。

障碍を持つ者が、親元を離れて寮に住んで、一人前に働く、ということと。

地元や血縁者から切り離され、その存在を「恥」として隠されて寂しい老後を迎える、ということは、別！

と、かねてから主張をしていらっしゃいます。

パサミカワ農場では新造の巨大ドーム型ハウスをフル活用して、通年収穫が可能な液肥トマトや蔓浮きメロン、また埋雪冷蔵による越冬甘味強化野菜の通年販売など、手作業・小規模ならではの高付加価値化が可能な作物の研究生産に励んでおります。

また、冬季の強風と夏季の日照時間を活用して。

なるべく、エコなエネルギーの自給自足（可能なら転売収入に！）チャレンジ中です。

そして、なるべく無添加で、アレルギー対応で...と。

ポッポロ島内外から幅広く通販でご利用くださる常連のお客様がたの、ニッチでコアな今風のニーズにお応えするべく。

工夫を凝らした商品開発を目指しております。

まだまだこれからですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

...こんな風で、良いでしょうか？ どうも作文は苦手で... もうしわけありません。

*

え、私のことですか？

七十七歳、現在単身です。カコ先生と同年代。ですよ？

交際相手というのでしょうか、異性の茶飲み友達は複数沢山おりますので、それなりに充実した毎日ですが。再婚は、もういいですねえ。夫はとても良い伴侶でしたから。あれ以上の同居人は、もう望めないと思います。

今は仕事が一番の恋人ですねえ。

スタッフたちはみんな、我が子のように...

いえ、我が子よりも手がかかる分、もっと、ずっと、とつても。

可愛いです。

実子たちは皆それぞれ勝手に育って勝手に各地に散って。

勝手に元気に愉しそうに暮らしておりますので。

からだとあたまが効かなくなったら、『もしも寮』への入寮希望です。

ちょっとボケながら、車椅子でミニトマトの収穫作業なんか参加しながら、ぽっくり。逝けたらいいですねえ...

(まだたぶん、夫が待っていてくれる。と、思いますし...!)

え、ノロケですよ？ もちろん？

〇八・ 副社長： 長野 緑（ながの・みどり）の嘆息。

一昨年秋に公開されて全国的にもそれなりの興行成績を収め、地元収録のエキストラ大量参加とあってか、ポックル島内では記録的な観客動員率と録画ダウンロード数を誇った『ウマシカせんせい遁走記』実写映画版の、続編『うまうまシカジカ奔走記』の公開予定は今秋に決まり。

特典付き前売券のプラチナ予約枠はすでに完売したと報告があって関係者一同はエビス顔でほくほくしている。

続く第三弾『かくしか疾走記』の収録現場の進捗状況視察と雑誌取材陣の案内役を兼ねて数日間の島東めぐりをした後、今日でやっとパペルに帰れるという日に。

ちょうどカコさんがブータ号でパサミカワまで来るといっているので、帰りは同乗させてもらうことにした。

取材陣をパサミカワ空港まで朝早くに見送って、市内に戻ってからレンタカーは手近な営業所に返却し。

徒歩でポップ口庵支店のスタッフ昼食（時間的にランチ休憩）を狙って合流する。

ご飯と豚汁と漬物だけの簡素な昼食が。

出張のあいだずっと続いていた高級高額・高カロリーの連続旅館料理！ぷらす連夜の地元勢による手作り接待宴会な深酒続き！に。

疲れが溜まりまくっていた胃袋に、じ〜んわりと浸みて。

とても美味しい。

数日ぶりに拝むカコさんの笑顔も、密かに癒される〜。（本人には言わんけど）。

ついでにパサミカワ支店の収支予想や新商品販売戦略書なども、手渡しで受け取った。

*

邪魔だが役には立つ自称「空飛ぶ運転手」の。

隣の助手席に（不本意だが）乗り込む。

最初の頃こそ（秘かに）大喜びで。

カコさんと一緒に飛空車に乗りこむ時には。

もちろん。当然ながら後ろの幅広な座席に。

カコさんと一緒に、並んで。

あれこれとおしゃべりしながらの空中散歩♪

...を。楽しもうと思っていたのだが...

カコさんは、七十代後半、（のはずだ）という実年齢をすっかり裏切っていて。

見た目も若いが、中身は...

完全に子ども！

飛空車に乗った瞬間から、もう全身でわくわくしていて。

飛び立った瞬間から、あっちを眺めて叫び、こっちを見おろして感嘆し。

またあっちにこっちにと、首をぶんぶんと振り回して。

三百六十度を一度に見渡たそうとして、目を回して。

自分で自分にポケツッコミをかましながら、さらなる大騒ぎと、大絶叫を繰り返し...と、忙しいのだ！

私が隣の席に座ろうとしていた最初の頃こそ、いちおう気をつけて。

反対側が観たければ、遠慮がちに、そおっと身を乗り出したり。

こちらが振ってみた会話に、きちんと返事をしようと、努力。

してくれたり。

は、していたのだが...

はっきり言って、わたし邪魔？と、すぐに気がついた。

試しに、後ろのシートを断って、前の助手席に乗ると...

カコさん、飛んでる間じゅう。

後部座席の...詰めれば三人は座れるはずの、横幅を。

右に跳び、左に跳ねて... 両方の窓におでこの形の脂のしみがついて...

ひたすら歓声をあげまくっていて...

騒がしい！

そのたびに急な重心移動でぐらぐら揺れかける飛空車のバランスを「待ってました！」とばかりにスライドさせて。

素早く安定させながら何食わぬ顔で運転...操縦?...を続ける、

自称「お抱え運転手」の富田（とんだ）。

「...あのさ、カコさん、いつも...、こんな調子？」

最初こっそり聞いてみた。

「うんそうだよー。かわいいよね〜♡」

...なるほど...

過去何人の「運転手」が、カコさんと気が合わなくてクビになったかという...

人事担当総括も兼ねる副社長の私の苦勞も察してほしい。

彼らは一様に主張したのだ。

「危ないからじっとしててください！て、言っても聞いてくれないんですよ！」と...

そしてカコさんは主張したのだ。

「だってお説教ばかりしてて、煩いんだよ！ 社長はあたしでしょ！？」と...

...言って聞かせてもダメなら、黙って相手に合わせろと。

...なるほど...

「...よくこれで、揺らさないで飛ばせるねえ...？」

「うん、だってうちの双子も、こんなもんだし〜w」

...なるほど...

(カコさんは、...三歳児か！)

*

今日はいつもの『支社支店作業所巡回一周視察コース』の他に。

イレギュラーで社外の提携企業の何ちゃら屋外イベントにも寄って行くという。

提携というか、今はカコさんが個人で支援出資していて、生産が安定してきたらポッポ口庵のどこかの作業所に、定期的に加工原料を安く卸してもらおう...という、計画構想段階の相手だ。

有機農業というと今では誰でも何となくのイメージは持っていると思うけど。

まだまだ知名度の低い「有機林業」とかいう。

一見荒れ放題の、原生林かと思うような...

広大な、山林。

シカの食害は防ぎつつ、人手も電気網も使わずに。

環境負荷を考慮して、持続再生可能な低コストで。

高品質な林野材の安定生産供給...による...

地域おこしプロジェクト？

...なるほど？

環境保護だの有畜複合循環農法だの地方再生だの基本的幸福権だの。

カコさんの好きそうな（実は私はあんまり興味がない）

社会派キーワードが...満載だ。

「はじめまして副社長！ どうぞこちら詳しい資料です！」

...とか言われても。

私は、関心は無いんだってば。こっちの分野には....

(苦笑)

まあ本来かなりの人見知りのはずのカコさんが。

林業従事者のこわもて泥だらけの小汚い恰好の。

おっさんおばちゃん達に取り囲まれて。

嬉しそうに、笑っているの... よしとするか。(嘆息)

まあ、獲れたて? 鹿肉の自家製炭焼き串は、とっても美味しかったよ...

(タレも旨かったよね。アレ何ていう木の实を使ってたって??)

...カコさんが買い込み過ぎた、木炭と木酢液と、鹿肉と熊肉の燻製と、ハムと塩漬けと? えとせとらエトセトラのせいで、飛空車の制限重量を、軽くオーバーしちゃって。

危うく、

「予定外の方は、降りて歩いて帰って~?」とか、

言われちゃったけどね...!

(慌てて空ビット急便を手配したので、「予約済みにつき乗車拒否」は免れた...★)

*

その後は予定を詰めて最速で。

パコタテ支店とポッポロ本社と本店と。

それぞれの併設作業所を「巡回視察」して....

(はっきり言ってカコさんのやってることは、

「三角貿易」だそうな各店商品を「お土産」と称して配ってまわって。

挨拶してお茶して、笑って帰ってくるだけ。

なんだけど...

スタッフはそれで喜んでるので、まあいいか...)

経営状況報告や経理資料は、基本すべて、私が受け取る。

カコさんに渡しても、たいがい、パラパラ~っとめくって眺めただけの、素通りで。

私のところに届く。

副社長。なんて肩書だけどねえ。

雑用係。なんだよねえ。

要するに。カコさんの。

...面倒ごとは、全部丸投げ。という...

ワタクシ、『ザ・ペーパーカンパニー』パペルの、

取締役副社長・長野 緑 (ながの・みどり) は...

そういう、係。(嘆息)

「あ～、やっと帰って来た。遅かったね～？」

駐機場に戻ると、待ちかねたように体格の良い筋肉もりもり細マッチョなイケメン男が寄ってきた。

男、としか見えないが、原則男子禁制、を掲げるパペル寮の住人で、正社員である。

「うん。いっぱい食べてきた～♡」

「あ～、そっか～w」

どさどさと。

卓上鍋用ミニ木炭だの間伐木材の細かい端切れ詰め合わせの徳用大袋だの。

木酢液シャンプー＆リンスのお徳用大詰めセットだの。

稀少ジビエの常温保存加工品だの海産無添加ツマミの詰め合わせ大箱だの...を、降ろすのを手伝って。

(さっき積みきれなかった重量分はちゃんと先に「空キタ急便」で届いていたそうだ。)

「こっち農場にくれる分？ こっちは？」

「『輪っか』のみんな食べてー。あとこっち、『もしも寮』に持ってってくれる～？」

「おっけーおっけー。」

地上作業用の電動農場車に片手でらくらく、のっしのっしと筋肉男が積み上げていく。

「んではいカコさん。今季の作付進捗状況と品目別収量予想と、概算販売計画書～。」

「ありがと～。...はい、副社長、よろしく～。」

「...あ～。はいはいはい...」（これだよ。）

「んじゃ五時なのでアタシは上がりまーす！」

「はい。今日もありがと一気をつけて帰ってー。双子によろしく～！」

「先生も～。ゴハン食べ過ぎないで～！」

「むり！」

笑って手を振って、元気な運転手は定時あがりだ。

「...ヨシノさんは？」

「まだまだこれから！ 夕飯食ったら、夜食までまた一仕事！」

「農場たいへん！」

「なんの！ 冬に遊ぶし、シゴト楽しいし！」

*

...廃線に伴って人口が激減し、離農者が相次いで、広大な農地と牧草地が空いた。

そんな閑散とした風が吹きすさぶ、美しく厳しい空と大地と景観だけがとりえの。

極寒で辺鄙なプキパタ地区が、もともとカコさんの「憧れの土地」だった。

数年分の印税収入と。

すでに軌道に乗りかけていた『パペル庵』（ポッポロ本店）と関連作業所群の。

社運をすべて傾ける勢いで、土地をどかっと、まとめて買った。

幸いなことに、映画と漫画化と海外版權とで、かなり儲かっていた、時期だった。

最初に、虹寮と月寮を建てた。

「性別不詳とか～、トランスとか～、同性愛者とか～？」

街中で、ふつうの就職がなかなか難しく、採用されづらくて。

生まれた土地でも暮らしづらくなちゃって。

でも、「夜の仕事」（水商売）には、心身が、合わなくて...

という、人たちを。

「大雑把でいいから、カラダとココロの状態？別に～。」分けて、居住棟を区分して。

「性別いろいろ」系の人たちがグラデーションを描いて、半円状の「虹」寮に住んで。

「同性大好き」系でカラダは女性の人たちが、お向かいの半円状の「月」寮に住んで。

「同性大好き」系で肉体的に男性の人たちが、ぐるりを取り囲む「金環」寮に住んだ。

（ほんとは「金環蝕」って書くんだけど、「蝕」は「職」に表示変更されてる）。

三つまとめて「円環寮」（通称『輪っか』）の人たちは、それぞれの適性に合わせて。

農畜業・加工業・通販&経理事務・調理&接客&販売...エトセトラエトセトラ...の、
パベル社の各種直営事業の仕事に就いてる。

もちろん、空キタ便の配送員もいる。

その真ん中に、『もしも寮』を建てた。

介護と保育のスタッフも移住して来た。

金環職員の一部は、正式に「自宅警備員」という名のガードマン業務に就いた。

（だって、母子と老女だけの施設を荒野の真ん中に...って、色々と、危ないからね...?）

一部、「性的少数者を商業利用するな！」的な、

反対の声も上がった。らしいけど。

住んでる人間が。

生きやすくて、働きやすくて。

ご飯が美味しいから...

...いんでないかい...?

（もちろん、性的にぜんぜん少数者ではない、「結婚相手のイイ男を探してまーす♡」な独身女性とか、「ふつうに女が大好きだー！特に巨乳がw」なんて主張する独身男性と、既婚者や子育て家族で。

都心のポップロ本社より、ど田舎のパベルで働きたい！という希望者があれば。

市街地の空き家を「借り上げ社宅」として用意して、通勤できるように、なってる。

（そして予想外にそういう移住希望のメンツは多く。

カコさんは「人口増加に寄与してくれた！」と。町役場から、表彰状一筆と一緒に。

特産の地元ワイン秘蔵品一ケースを貰って、ほくほくしていた...)

農畜部門総責任者の通称「ヨシノ」は、元は水商売あがりて本名は吉野清次だが。
カラダは変えていないので、ガタイはかなりいい。
前は自分の体が嫌いだったが、パペルで農業に就いてからは、持って生まれた性別特性...筋力が強い！...が、肯定できるようになった。
自分ではいわゆる「心は女」系だと思っているが。
無理して「女言葉」を使って、似合わないのに、無理に化粧して。
不自然にきわどいミニスカはいて。
筋肉だらけの細い腰を振って歩くのも、
「...自分らしくない...」と、思う。
今どきはみんな「自然に女に生まれた系」の人たちだって。
働く時にはパンツスタイルが多いし。
「だわ」だの「なのよ〜」だの、無理して言わないし。
化粧だって...「すっぴん派」も、ありアリだ。
ただ、自分には、「男らしさ」は、強制しないでほしい...
(見ためは、あいにく... マッチョ。なんだけど...！)

女性と、恋愛とか？ 結婚？ ...無理。
で。
結果として、人間関係は、...苦手。
夜の水商売は、ほんとうに苦手だった。
でも他の就職も、いろいろ難しかった。
パペル社で「性別あいまい系のかた優先」と、わざわざ明記して。
『住み込み農作業従事員』（通年）の募集を開始した時。
一も二もなく、参加した。
だって、実家は農業だった。
跡を継げない、次男だったけど...。
「おめえなんかオカマは、おれの息子じゃねえ！」と。
...絶縁された。けれど...。
畑仕事は、好きだった。
牛や馬や豚の世話も、大好き。だった...。
就職して。
パペルの実験農場で。
地元の老練農家さんたちからの、熱心な指導のもとに。
最初に、採れた芋を...
実家に送った。
「うまかった」と、親父から。

無骨な手書き文字の、ハガキが。届いた…。

ここでなら、このカラダのままでも、
生きていける。と。
最近、ヨシノは思う。

一〇・ 校閲者： 佐賀 野絵瑠（さが・のえる）の陰謀。

「たっだいま～！」 へろへろのにこにこで、ようやく主様が御帰還だ。

「おっかえり～！」

すでに出来上がっている気の早い酔客どもと、まさに夕飯をかつこみ中の空腹餓鬼連中は、そろって歓声を挙げた。

「はいこれ今日のお土産～！」

「…うわ、今日もすげええええ！」

「どれどれ… うほおうおお！」

「…カコさん、すぐ食べますか？」

「着替えてくる～。十五分後に戻る～！…予定っ」

「了解っす！」

パペル塔のメイン食堂の朝・昼の平日週五日は主任調理師にして栄養管理士資格その他もろもろも色々保持する四年生大学栄養学科卒の才媛にして定番和食とアレンジ和洋食をメニュー展開の基本に据える、佐藤和子の担当だが。

平日午後十五時以降のいわゆるアフタヌーン・ティータイムから夕食・夜食の時間帯にかけてと、土日祝の朝昼晩の終日は、敷地内併設の一般&宿泊客向け知る人ぞ知る超有名シェフ兄弟が担当する直営レストランから、交代で調理要員が派遣されて来る。

初めのうちこそ、

「寮住み社員の休日ご飯と、平日夜の呑み兼用めし…。要するに、たんなるまかない？」

と考えて、下っ端が交代で担当する、「新人の仕事」と考えられていたのだが。

早々に、その新人たちが泣いてギブアップして。

『変人だが名人シェフ』として知られるレストラン『爆』（ハゼル）のオーナー店長たる近重（このえ）師匠三兄弟を呼びつけた。

「…だって！ こんな凄い稀少な絶品、おれが料理したら台無しにしちゃいます～っ！」

と、いうわけだ…。

一般読者層の最大多数派からは人情地元エンタメ小説の主役？の名前をそのまま使って「ウマシカ先生！」と呼ばれることが一番多い『カコさん』は、なにしろ人気者だ。

島内半周旅行（だと『視察』は呼ばれている）を回って帰ってくるたびに、何やかやと地元の人から「漁師飯のタネ」だの「今朝うちの山林で採れたて」だの、貴重で稀少な食材を、山ほ

ど貰って帰る。

幻の魚！とか

幻の茸！とか

超高級！黒豚の、自家製できたてハム（のさらに）燻製！（試作品）とか。

非売品や秘蔵品や、密造品？の、

アレやこれや...

...まあ、そんなものを、...色々だ。

タダで贈って頂いた御好意の品だから、いくら稀少で高価であろうとも、一般外来者向けのレストランで、高値をつけて他のお客様に転売するわけには、いかない。

...と、というのが、カコさんの主張で。

基本、『社内のみんな』で。

通常の『定額徴収食費』（お代わり自由）の範囲内で。

ふつうに。

毎日のご飯の一環として。

ありがたく頂く。

「...うっわあああああああ！」

*

今日の食材は何だろう。何やらとても美味しそうな匂いがするが。

美食、などという余裕や贅沢とは、ここへ移住するまで無縁な生活を送っていた。

地味に激務で薄給の校閲者・佐賀野絵瑠（さが・のえる）は小鼻をひくひくさせた。

長らく隣国ポンニツ島国の首都・宝京（ホウキョウ）で。

校閲専門会社の外注職員として。

部屋に引き籠もって、ひたすら各種多ジャンルの文章を、赤ペン握って読み続ける、という仕事を担当していたが。

職場にはひた隠しにしていた、秘かな趣味は...

同人誌で。

『嵯峨野エル』の筆名で。

『美味賜エンタメ』群の登場人物たちの。

『イケナイ同性恋愛』作品の数々を...ネット上梓やイベント販売。していて。

それなりに、けっこうな売上と熱烈愛読者数は誇っていたり、...して。

じつは、契約委託先の『美味賜香子作品専任担当』校閲者『佐賀野絵瑠』が。

同時に、公認ファンクラブの重鎮オピニオン・リーダー『L』その人にして。

さらに、熱烈ストーカー級の著作権侵害しまくり同人誌作家『嵯峨野エル』で。

かつ、公序良俗的にどうなの？級えろえろイラスト描き『佐野エル画』でもある。

という事実が。

うっかり。

発売前の新刊の内容をパロった作品を、発売日より一日早く。

(正確には、わずか二十二時間だ...!)、間違えて、公開時間を設定、してしまった。

という痛恨のミスによって、関係者すべてに、一斉に発覚...

職場雇用主と直属上司と。

出版社法務関係者と、担当編集者と、編集長と。

さらには作者本人と。

その著作権管理人! などなどが、ずらりと居並んだ...

『お白洲の場』で。

リアル本人の目の前に、ずらずらと。

いけない作品の、うっかり直視したら恥ずかしくてたまらない

(いや自分で描いたんだが!)

絵柄の表紙を、...山ほど並べての。

事実関係の糾弾には、及ばないで欲しかった...!

完全に逆恨みなのだが。

今でもその時の全身高熱発火寸前の恥ずかしさは、夢に視ては飛び起きて悶絶しているくらいだ。

「...えへ♡」

と、その時。...ウマシったら笑ったのだ! 嬉しそうに!

「はじめまして『嵯峨野エル』先生!

ファンで一す♡

ご本人様に、お目にかかれて嬉しいで一す♡

じつは、そこに並べてあるのは、あたし個人の、コレクションなんですよ...♡」

がたがたがた...★ と。

周囲の、ごくごく真剣にしまっとうな、怒りと。

真摯な...職務上背任行為?

賠償請求?

訴追? ...という、社会人たちの当然な、撃墜斬殺モードを。

総崩れに、してさった...。

「エルさんには、かねがね、お願いしたい仕事があったんで一す♡

今度、正式に、ウチのスタッフに、なってくれませんか~????」

...憧れの。

ひそかに、熱愛した。

あの、キャラたちの...

作者。本人に!

スカウト... されたのだ！

じきじきに...！！

狂喜乱舞、したのに...。

*

結局、ひそかに勇躍して、トキメキながら移住。

してきて、見たらば...。

社内最重職幹部複数から取り囲まれて嚴重監視の元。

以後の脱法違法著作権侵害行為は厳ッ重に戒められて。

破ったら即退社退寮&巨額の賠償請求！

という脅しを突きつけられて...

念書にサインも拇印も獲られた。上で。

ひたすら、一室に籠って、美味賜の新作を校閲し続ける。という。

業務内容的には...

まったく変わってなくて。

ひたすら、一室に籠って。

めったに、ウマシ本人の顔なんか... 拝めなくて！

(多くても一日...二回？ 話せても、一回、五分か...そこら？ が、せいぜいだ...っ)

完全に逆恨みなのだが。

佐賀野絵瑠は、もうひとつ任された担当職務である『美味賜香子デビュー三十周年！に向けた総作品リストと総登場人物名鑑&作中総合年表エトセトラ + パペル社史』編纂、という激務の傍らで。

ウマシの恥ずかしい顔（超・豪華めし食事中的！陶醉のあまり崩壊顔！）写真を...

ひそかに撮り溜め。している。

いつか...

いつか。

大公開、してやるっ

この、恥ずかしい、エロ顔の...

老女の....

ばか喰い写真っ！

*

「...また撮ってますよ〜？」

「...ま、好きにやらせておけ...」

監視スタッフからは面白がられて、泳がされているだけ。とは。

本人は、気づいていない... w w w

*

そろそろ日が暮れて。

初夏とはいえ北国ポックル島の南北の半ばあたりに位置するワインの名産地プキパタ町のはずれのパペル寮では、夜になると肌寒い。

室温が下がると自動で。

道産木質端材を燃料に使うペレットストーブに火が入る。

明々とした灯が点ると、自動で室内の白色灯の光量が落ちる。

炭火焼の炎がぼおっと燃え立って人々の影を壁や窓に映して。

窓の外は満天の星空と、真っ暗な大地の、森と畑の...闇に。

点在する円環寮の灯りと、真ん中にハート型の『もしも寮』の安全常夜灯。

その向こうに宿泊コテージやレストランや、観光施設の誘導灯...

仕事は順調で。

美味しい飯と旨い酒！

楽しい仲間と...

老後の、保証。

すべてが。

そこには、あった。

『独身女が 集団で』 (第三稿・三) 改 (2020年01月04日)

転・ 本日沈没。

十一・ 秘書嬢： 細沼甲斐子（ほそぬま・かいこ）の青天霹靂。

細沼甲斐子（ほそぬま・かいこ）の名刺の肩書きには一応『秘書』と記してある。

主な担当業務は。

押し寄せる大量の執筆依頼や取材申し込みやらインタビューやら出演やらへの打診を。締切と枚数と要望ジャンルと対象読者層と。原稿料や出演料の有無と多寡と。期待できる出版後の印税収入額などなど別に。

解り易く分類列挙して、リストアップしてプリントアウトして、カコ先生に渡して。

書くか書かないか、出演するか否か、まだ検討中か？のマルバツサンカクや質問事項を赤ペンで（手書きだ！）記入してもらって。

きちんとしたビジネス文書に意識や超訳？して返答したり。

時期や内容の調整を引き受けたり。

確約した分の。

締切日と枚数とジャンルと対象読者層と。

つきあいの浅い出版社や編集部の場合には、担当編集者への連絡先や手土産に望ましい品目リストや、既存刊行物の傾向やら初版発行部数やらやらを、リストアップした上で。

逆算して、「早めの執筆開始予定日」を設定して。

執筆部屋のカレンダーに、大きな字で（手書きだ！）記入しておいたり。

一応完成して渡した原稿の校了予定を把握した上で。

専任校閲係との赤修正やら何やらのやりとりの日取りを調整したり。

はたまた締切延長の調整依頼や、ドタキャンの謝罪役を引き受けたり。

原稿料の振込日と予定金額を事前に把握して経理部に報告したり。

カコ先生の「経費分の領収証」を整理して、経理部に申告したり。

馴染みのない出版社との初顔合わせや、無関係なイベントの際を狙って急襲してくるアポ無し突撃取材の傍若無人な雑誌記者や盗撮カメラマンなどから、人見知りのカコ先生をガードして救い出したり。

無理な契約や出演依頼やを押しつけてくる輩にはきっちりお断りして「法務を通せ！」と突っぱねてみたり。（実はこっそり護身術も習っていたりするのは、内緒だ。）

取材や出演に要する移動所要時間や、事前事後の周辺観光スポット情報や宿泊予約候補地までも含めた日程案を作成して、スケジュールを管理したり。

頼まれれば切符の手配やホテルの予約や。

カコさんがアバウトに立てた海外旅行の日程が実現可能かどうかのチェックを本職に依頼したり。

引き受けた写真撮影付きインタビュー取材や講演会の前には。

日ごろ身だしなみにほとんど構わないカコ先生の臨時のスタイリストと化して。

こっそりボタン付けやほつれの繕いやなんかも、しておくし。

緊急で出演衣装の買い出しに走ったり。

靴の磨きや修繕や「即便！通販」を頼んだり。

専門のプロがいなければ、ヘアメイクも引き受けたりなんかする。

予定を忘れてお寝坊してたら部屋まで起こしに行くし。

頼まれれば散らかった執筆資料の整理収納や、簡単な掃除も手伝うし。

寂しがってればご飯も一緒に食べたりするし。

私室に「お泊り」なんかもたまにして、眠くなるまでの話し相手を務めたり、するし。

取材や休暇旅行のお供をしたり。

まあ、雑用係で。

本人はファンタジックに、「おつきの者」でございますと、自己紹介をしている。

*

次の予定の書きおろし単行本の出版社との打ち合わせは明後日に決まった。

...ということは。

「今日と明日は完全オフ？」と、目を輝かせて、カコ先生は笑った。

「そうなりますね。」

「じゃ、お風呂いこ〜っと！ ...一緒にどう？」

「お供します！」

「んじゃ一道具もっといで〜。十五分後に玄関集合〜」

「はい！」

こんな場合、カコ先生が日帰り入浴施設の意味で「お風呂」と言うのは、徒歩五分。

パペル塔の地下駐車場通路をまっすぐ抜けるか、その上に広がる地上庭園をつっきるかで簡単に到達する、自社直営施設である。

ふつうの「お風呂」は「男・女」の二種類か、多くても「家族風呂」という別室が併設されているくらいだが、ここのお風呂はちょっと変わっていて、入浴エリアが六つある。

「カコ専用」というのが屋上階のペントハウスの的に設けられている。

地上階と二階部分は、それぞれ縦に区切られている。

「一般女性・女性系・中間・男性系・一般男性」の、五つのエリア別。

自己申告制だと絶対に痴漢だのセクハラだののトラブルが多発するので。

中三つのエリアを利用できるのは「輪っか」寮の住人か、その連れだけだが。

他の（大き目に造られている）「一般」二つなら。

地元民や観光客や、カコ先生の「聖地詣で」に来た熱心な読者の皆さんも、もちろん利用可能。

あいにくだが、天然温泉では、ない。

カコ先生は天然かけながし温泉が大好きだが。

出るか出ないか判らないものを（確率的には出る可能性は低い地域だと専門業者さんからは言われた）、闇雲にボーリングしてまわるほどの予算の余裕は...、無かった。

その代わりに、敷地の外れの丘陵地帯の既存の農業用水の横穴井戸からパイプを引いて。

農場と牧場エリアの境目にある堆肥発酵施設の熱い屋根の下を、ぐねぐねと折り曲げてパイプを通して加温して。

四十五度ほどに温まった褐色植物泉を「天然水の沸かしたて、かけ流し風呂」にした。

入湯料は普通の銭湯よりちょっと高いくらいか。

地元にも観光客にも、密かに人気のスポットだ。

「...あ〜。生き返る〜♡」

カコさんはざっと洗髪とシャワーだけ済ませると、どぼ〜ん！と寝湯に転がった。

「カコ専用」スペースは、本人と一緒に、本人の許可をインカムで確認しない限りは、他人は利用できない。

ひとり分サイズの寝ころび浴槽が高温・ぬる湯・温水の三つと、同じく温度別の壺湯が三つと、あとはプールサイドのような寝椅子が二つあるだけの、小さいスペースだ。

お空が青い。

「...い〜ね〜。幸せだね〜...♡」

「ですね〜♡」

カコ先生と、うまくやっていくためには簡単なコツがある。

よけいなことは喋らない。どうでもいい自分話や、他人の噂は、なるべく少な目に。

大事なことには必ず相槌を打つ。

「いいね」

「美味しいね」

「可愛いね」

「かわいそうだね」

「素晴らしいね！」

なんてキーワードが出た時には、タイミングを逃さず、かならず反応だ。

（自分の意見と異なっていると思う時には、きっちりと反論するのは可。）

「...あ〜。幸せだな〜...♡」

カコ先生は、もう一度しみじみと呟いた。

...その、時。

「...あら？」

相槌のタイミングを逃した甲斐子は。

一瞬、自分が貧血かなにかで眩暈を起こしているのかと思った。

ぐらっ...

「あれっ?!」

カコさんが素早く立ち上がった。

「あら... エッ? 揺れてますッ??」

「揺れてるッ！」

びい〜〜ッ! びい〜〜ッ! びい〜〜ッ!

聞き覚えのある、不吉なサイレンが響いた。

『緊急地震速報です! 間もなく強い揺れが来ます!』

「うそッ！」

...数秒と待たず、本震が襲い掛かった。

...揺れる...

揺れる!

「つかまって！」

「カコ先生ッ！」

揺れる!

...数分は、続いただろうか...

お風呂のお湯が、津波と化して、数メートルもの水しぶきを立てて、跳ねる跳ねる!

階下から男と女と子どもと性別不明をとりまぜて、悲鳴と怒号と絶叫が響く。

がつーん!

がちゃーん!

ばしゃーん...!

がしゃーん...ッ!

悪夢かと思った。

甲斐子は恐怖で涙が出てきた。

お風呂のなかで、少しちびったかも、しれない。

*

数分して、揺れは...

とりあえず、大きいのは...

...収まった...???

カコ先生が、まっぴのままだだっど駆けだして、内線電話に駆け寄った。

備え付けの、非常用インカムを素早くはずして手早くかぶって。

余震で揺れても飛ばないように、しっかりと、ヘッドバンドをかける。

...の、一連の動作と同時に。

びっくりするくらい大きな声で。

「みんな無事ッ？ カコは無事ですッ！ 避難手順に従って行動してっ！

ポーシャ毒測定班！ ただちに安全確保の上、大至急、状況報告願いますっ！」

...大変な、日々が始まった...

十二・ 統括者： 葉山 景（葉山・けい）の驚天動地。

びい〜〜ッ！ びい〜〜ッ！ びい〜〜ッ！

聞き覚えのある、不吉なサイレンが響いた。

『緊急地震速報です！ 間もなく強い揺れが来ます！』

葉山 景（はやま・けい。旧戸籍名：景子。）は、飲みかけの熱いお茶をあやうく噴き出しかけた。

...いや、むせこんでる場合じゃないッ！

死ぬ気で咳をこらえて、インカムに飛びついた。

『空キタ便！ 全機、緊急浮上！ 安全確保！』

滅多に使わない全機一斉開放ボタンを、正確に押せて良かったと安堵するのもつかの間。

...揺れた！

言語に絶する... 揺れだった。

まず小刻みにカタカタ揺れた。

それから横にゆさゆさ揺れた。

(...大きい...！)

と、思って体を両腕で机の下に固定しながら、様子を見ていると...

縦に。

ガン！ と、...

突き上げられた...！????

それからはもうジェットコースターかと突き嘔いするような。

笑ってたら舌を噛みそうな...

地獄のような...

あれこれ倒れたり飛んだり、崩れたり落ちたり割れたり。

...でも。

まだ、本社の建物自体が壊れるほどじゃ... ない？

震源は、けっこう遠い。（たぶん）。

それでこれだけ、揺れた。（...おおごと、だ...！？）

...揺れがとりあえず収まった...？ 時には。
思わず、安心？して。
気が遠くなりかけた...

*

「みんな無事ッ？ カコは無事ですッ！ 避難手順に従って行動してっ！」

...すげえ。

...カコさん、すげえ...。

ちょっと涙が出かけた。

いやいや...

感心してどうする。

七十過ぎの御高齢者に、敗けてどうするよ...

オレ！

「空キタ便！統括、葉山景、無事です！ キタ本社一階、損害軽微！重傷者ナシ！

空キタ便！全機応答願いますッ！」

非常回線の全社開放で報告だけして。

途中からキタ内線の双方向通信に切り替える。

『空ビット一号、鹿毛妙子、無事です！ 配達先に向け飛行中！

目標家屋が損壊してます！ 人影あり！ 手を振ってますっ！

このまま救援活動に移ってもいいですかッ？』

『安全確保最優先！気をつけて行動して下さいっ！』

『了解ですっ！』

そもそもが、空キタ便は、前の全島震災の時に。

あっちもこっちも道路も鉄路も墜ちたり崩れたりしまくって交通網が遮断され過ぎて。

とり残された人たちへ、せめて水と薬と食糧だけでも、急いで届けたい！...と。

救援活動のためにカコさんが自費を投じて緊急レンタルした車体を。

ボランティアで集まった運転手と、日頃のカコ先生の社会的な活動を支えてくれている熱心な『ファン祭徒』からのクラウドな供出物資と資金とが、支えて。

運用しまくって...

いざ事態が収束して機体を返却しようと思ったら。

飛ぶには支障が無いんだけども...

細かい、傷だらけで。

「これ返却受領するなら多額の修理費用請求が発生しちゃいますよ？」

と、営業マンに...困惑された...

ので。

それくらいなら！と、開き直ったカコさんが、そのまま長期リースに切り替えて。

急遽立ち上げられた...という来歴を持つ、事業だ。

配達員はその時に救援ボラで動いていた人財が多いから、話も反応も速い。

ついでにみんな、カコさん原作の漫画『奔れ！国際救助隊！』の大ファンだ。

良かった...

*

『空ビット七号機、小破！ 飛べます。

鈴木美恵子、軽傷です。

配送完遂の上、状況判断して動きますっ』

『了解。慎重にお願いします』

『空ビット十三。遠野了子、無事です。

ポッポ口上空。何か所か煙が上がってます。酷いです...

...家族が心配です。一旦離脱していいですか？』

『気をつけて！』

『はい！』

次々に報告が入って来る。ありがたいことに死者も重傷者も大破もなし。

非常緊急電源が入ってPCが復活したので。

急いで、直通無線で繋いで。

災害時の連繫出動契約をしている防災省の、救援要請者の分布地図を、急いで開く。

...真っ赤。だ...

一面の、真紅に点滅する、救援要請記号と。

高速で移動中の、緑の救急車と、朱色の消防車。

黄色はガス会社がガス管破損箇所を把握したという印。

水色は水道管の破損箇所。

紫は火災の発生現場だ。

黒はさらに有毒ガスの発生危険性を示す火災。

...無理だ。

市街地とせいぜい近郊だけで、正規の消防署の対応は、手一杯だろうと思う...

数点、離れた場所で青く輝やいているのが。

救援参加宣言を済ませた空ビット号たちらしい。

遠隔地、へき地、辺境郊外への。

応急配送。こそを得意とする、

われらビット...！

ちゃらら〜ん♪ と、脳内で。

思わず自社のCMソングが流れた...

...全員、無事で、戻ってほしい...！

...一人でも多く、生かして、救出してほしい...！

＊

...さて...！

飲みかけだったペットボトルのお茶のキャップを。

無意識に、ちゃんと閉めてた自分に気がついて、ちょっと笑った。

すっかり冷めてしまっていたけれども。

緊張しすぎた喉にはちょうどいい。

一口飲んで、体の震えをなんとか収めて...

...また、長期戦になるぞ...！

気合を入れろ、オレ！

十三・ 技術者・田中真理（たなか・まり）の阿鼻叫喚。

パペル塔の『オキタ館長』は名前つながりの半分冗談で任命されただけの小柄で小太りの昼行燈な？実直誠実だが真面目過ぎてお堅くて融通の利かない？

ごく普通の一般中年女性だと、思っている観光来館者や末端スタッフらは多い。

実は元職が、ポックル島国『護島隊』のプロの凄腕の防災救援レンジャーで。

じつはカコさん命名『自宅警備員』なるパペル全域のガード業務スタッフに、武術や捕縛術を指導しているのも、この人だ。

元職場内の男性中心社会の真ん中で、酷い性暴力に遭わされて。

不正やセクハラやの数々をもまとめて告発したら、嫌がらせで退職強要されて。

裁判で闘って敗けて。

心身ともにボロボロになって路頭に迷ったところを、人権的立場から裁判の支援者だったカコさんに拾われた。という経緯は、意外に知られていない。

＊

敷地内施設管理全般の通常業務を職分とする、堆肥ボイラー温度管理主任にして自家発酵メタンガス燃焼発電機整備技能士も兼務の、ごく普通の『農業副産物等総合転利用技術者』認定国家資格保持者の田中真理は。

「ぴぎゃあああ！」とひたすら叫びながらしがみついていた机の下から、ようやく這い出して来た。

すでにオキタ館長はインカム装着済み。『非常即応』態勢バッチリ。

カコさんの声に伝えて素早く「こちらは全員無事」の報告を済ませて。

状況把握している。

「震源... ハッカシヨ村？」

「えっ？」

「ポップロには、津波は来ない予測と。」

「ふああ」

「ポーシャ毒、震災か？ ...またか.....！」

「嫌〜！」

「泣いてる場合じゃないぞ田中！」

全館非常時仕様！ 地下ダンジョン開放と、避難者収容の準備！」

「はいいッ！」

のそのそと這い出して、こぶしで涙をぐいと拭き、垂れて来る鼻水をすすりながら。

毎月のしつこいほどの避難訓練で。

何度も、手順の確認だけはしてきた、緊急用の機材を取り出して...

震える手をなだめながら、なんとか的確に画面を開いて、ボタンを押して行く。

『 パペル塔と寮の地下は、ダンジョンになっている。』

本当の広さと構造は、誰も知らない。 』

...というのは、よく知られた都市？伝説で。（カコさんが面白がって広めたのだ。）

普段は本当に、ただの娯楽アトラクション用の「迷走迷路」として。

観光客や「聖地」訪問のファンの人たちには有料で提供されている。

カコ先生の原作マンガやアニメのキャラの絵柄の、記念撮影用の等身大ボードや。

探索用懸賞クイズの、ヒントや案内の画面が点在している、

その地下の...

廊下の。

壁に埋め込まれたドアをスライドして開けると、

中は非常用の、頑健な、避難者長期滞在用室になっている。

一部は平常時から一般観光客にも開放されてて、

『避難生活体験訓練』名目で。

安く泊まれる施設として貧乏旅行者たちに活用、されてて。

地元の人には、自治体を通じて、通常時から、周知はしてある。

災害時、家が壊れた人は...

パペルの足元へ。

と...

がこん、がこん...と、軽い震動音とともに。
地下ダンジョンの隔壁が、上がったり下りたり、斜めに移動したりして。
震災時・長期耐久仕様に、変更されていく。
入浴中だった休日スタッフや客たちが、ぽたぽた水滴を垂らしながら。
とりあえず服だけ着て頭はズブ濡れのぼさぐしゃのままだったり。
荷物を預けたロッカーがどうにかして開けられなくなったのか、浴衣のような貸出館内着や、
それも足りなくなったのか大判バスタオルだけ、羽織ったような姿で。
がくぶる涙目で膝が笑っていて。
それでも職務熱心な当番スタッフたちに、誘導されて。
ぞろぞろと、地下に向かう映像が...
目の端の安全監視カメラに映る。
「食糧その他、備蓄状況は良し！ 敷地内設備、地上地下ともに大破はなし！」
「空ビットがもうすぐ人を連れてきます。受け入れ対応お願いしますね。」
「了解です！」
カコ先生...『ウマシカ先生』と...オキタ館長が。
小説や漫画の中のように、カッコよく、冷静に。
事態の収拾に、当たってくれてる...。
田中真理は、ぐちゃぐちゃになっていたポニーテールをぐいと。縛り直して。
どうにか探し出したティッシュボックスからペーパーを山ほど引き出して涙をふき、鼻をかんだ。
大丈夫だ...
今度も、きっと。
きっと、何とかなる。
何とかなる...！

十四・ 林業者： 狩野愛子（かのう・あいこ）の選択。

「まさか、そんなことは、な～...い、...よな...？」
とは思いつつ、みんな気にはしていた。
ポックル島国の対岸というか、ごく狭いプガル海峡を挟んだお向かいというか。
お隣の島国ポンニツの北の果て、つまりポックルに面したプツ湾岸には。
超巨大な幻視毒発電所が、ある。
ポンニツ三島のエネルギーを賄って余りあるとかいう超巨大な幻発ネットワークは。
使えば使うほど、ポーシャ毒、という有害な副産物を出しまくっている、らしい。
このポーシャ毒は自然分解するのに何百万年という長大な時間がかかるので。

人工的に解毒を時短化する方法が開発されるまで、ということで。
とりあえず、一か所に集めて埋設保管をしていた。
一カ所では収まらなくなったので、次々作って。
現在では八カ所に、巨大な穴がある。
その、巨大なポーシャ毒ゴミ埋め場が、八カ所も、ある村が...
地震や津波に、
遭ったら。
風向きからして、主な被害は、ポックル島国のほうにくる...
さらには、往時のポンニツ（旧統一）島国政府が。
何をトチ狂ったのか、ポックル島内の、しかも首都ポッポロ市の、すぐ近郊に。
同じくらい、超巨大にして超！危険な。
幻視毒発電所を、建設。して、しまった...。
「安全です。安全です！」という大宣伝の、影で。
有害なポーシャ毒が、ひそかに。
撒き散らされていた。
次々に...
死者と病人と。
障碍を持って生まれて来る、子どもたちが相次いだ。
...せいで。
怒れるポックル島民が全島を挙げて立ち上がり。
ポンニツ（旧統一）政府からの『絶対絶縁宣言』を出して。
すったもんだの末。
比較的短時日のうちに、無血で。
ポックル島協和国、という名の独立国になった。
...その経緯の細かい話は、この際、置いておくとして...。

*

ポーシャ毒素は、いちど憑りついたら、なかなか取れない。
分解できない。
解毒もできない。
秘電子というものを持つ、すべての生命体に有害で。
病気になるし、死にもする。
以前の...若い人はもう覚えていない世代がほとんどだが...
ポンニツ本島を襲った幻視毒大災害では。
多くの農地や山林や野生の動物や家畜や、人間が...
飛び散ったポーシャ毒の、犠牲になった。

今でも、その傷跡は、完全には癒えていない... と、聞く。

それなのに...

前々から、カコ先生や、地震予知とか災害対策に関心の高い人たちが。

「あそこは危ない危ない」と、騒いでいた。

まさにその場所が。

今回の震源らしい。

ポックル島とポンニツ島のちょうど中間の。

海峡湾内のごく浅い場所で、超・巨大発震。

幻視毒発電所の建屋と、

ポーシャ毒ゴミ捨て穴の。

もろい護岸は一瞬で崩れ去り。

そこへ次々と...引いては襲いかかる... 多重津波が。

覆い尽くした。

『 原型を留めず全てが海の下に沈んだようだ、
まるで伝説の悲劇アトランティスのように... 』

と。

普段はカコ先生のエンタメ作品の熱愛ファンクラブ活動をしている

「ポーシャ毒監視班」の。

最寄りの地域の測定班の人々が。

超望遠レンズで、対岸から撮ったという画像を、全世界に公開した。

地球上すべての人々が、現在ちょっくら「ポーシャ毒パニック」中らしい。

...それも、気持ちはワカルが...

*

もっか当面の、自分たちの、火急の、焦眉の、喫緊の...

問題は。

...と、実家の稼業の伐採専門林業従事者という、跡目は継ぎつつ。

業態変換して、育林中心...それも有機林業で...

再生産可能な、持続的地域産業へと。

夢の実現に向けて、着々と地歩を固めていた...

狩野（かのう）兄妹は。

涙目でニュース速報を観ていた。

幸いまだ晴れているので太陽電池で充電しながらだ。

家と事務所はものすごく揺れたけど倒れはしなかった。

家族と親戚と友人と知人と、職員すべてと取引先関連その他も含めて。
地元には、大きな損壊も死者も重傷者も出なかった。
乾燥中だった木材山も、崩れたけど折れたり割れたりはしていない。
むしろ災害復興に向けて建築資材の需要と価格は高騰が見込めるだろう。
...ただ。
明日から、この地域には、大雨が降るといふ。
まさに、ポーシャ毒が絶賛噴出中の、プツ湾。から。
雲が...
津波で幻視毒発電所とポーシャ毒性ゴミ捨て穴がもろともに海没して。
水中で、幻滅現象を起こして。
幻視妄想劣化烈火崩壊熱で。
ぼっこぼこに沸騰している...
海から。
雲。
というより水蒸気爆発的。な？
ものすごい、煙柱が...
沸いて、蠢いている。
最中だと、いう...

*

「...みなさん無事ですか〜？」

「うましか先生ッ！」

「...カコです...」

午後もだいぶ遅くなってから、パルパレ有機林業帯発足準備基金の支援『雲助』集団の筆頭募
金主たるウマシカ先生が、電話をくれた。

全員無事、と状況をざっと伝えと、

「ああ良かった！」と心の底から安堵した笑顔で、言ってくれつつ。

カコ先生の緊急連絡の主眼は、そこじゃなかった。

「明日から雨ですよね？」

「はい...」

「森、守りたいんです。」

「はい...」

「用意してあったものがあるんですけど...」

副作用というか想定外の副被害も、出るかもしれないんですけど...」

「...はい？」

「試してみても、いいですか...??」

*

とりあえずお願いしますと言ってみたら、一時間も待たずに、空飛ブーツ号と僚機が連れだ
って、ぶんぶんぶい〜ん！と。元気に。飛んできて降りてきた。

「今から〜、森の上に〜、天幕を張りまーす！」

「はいい？」

「こっちのブーツ号と〜、あっちの子ブーツ号で〜、...こう？」

実は自分もまだよく理屈は解っていないらしい運転手の富田さんが、簡単な図面を開いて、作
業予定を説明してくれる。

二機の飛空車のあいだにロープというか一定間隔で噴霧穴の開いた長い長いホースを張って飛
んで。

よくある、広い田畑の上空から農薬散布をするのと同じ要領で、『粟泡幕撒く（あわあわまく
まく）液』とやらを散布するという。

「作業手順は〜。大丈夫です！ さっきパペルの屋敷林でも、同じことを〜、小さいやつでした
けど、実験して成功済みです！」

「...いわゆる『煙タイソレイヤ』の逆版... いいもん成分のやつってことですか？」

「ポーシャ毒の、ヒバク直前のユース剤の予防対抗服用、的な...？」

「噴霧と違うんです。」と、『親よりでかい仔ブーツ号』の運転手の前田園美（まえだ・そのみ
）さん。

噴射された薬液が、空中で酸素に触れると、あっというまに広がって固まって。

何というか、プチプチシート？のような多層構造の、軽くて頑丈な多層膜状になって。

広く山林の上をビニールハウスのような形に、数キロ平方単位で覆ってくれるという。

「カコ先生が〜、言うには〜、初期被毒を避けられると〜、予後がかなり違くと〜...？」

「一ヶ月ほどで幕は自然に融けて消えるそうです。素材はトウモロコシの茎とジャガイモの皮な
ので、生分解性は高く、環境負荷は少ないはず、と」

前田さんのほうが比較的専門的に、説明を補足してくれる。

「想定される副被害としては、融けるまでの約一ヶ月のあいだ日照と呼吸を妨げて、植物を枯ら
してしまうかも知れないこと。

それでも推奨したい理由は、葉と表皮と土壌を、直後の直接の汚染から、かなりの確率で安全
に防護できる可能性があるということ。...だそうです。」

有機林業計画の関係者一同、三分間ほどだけ。

額を集めて協議した。

ウマシカ先生が言うことだ...

試作品でも、トライする価値はある...

なにより、日暮れがもうすぐで。

飛空車は安全に飛べない時間になるし。

それまでに作業を終えてもわらなきゃならないし。

それより一刻も早く人命救助活動のほうに戻って。

ひとりでも多く、救けてあげてほしいし…。

「…お願いします！」

プロジェクト言い出しっぺにして最年少者の狩野愛子（かのう・あいこ）が。

代表して、ふかぶかと頭を下げた。

「ぶい～ん！」

「かっこいいとは、こういうことさ♡」

とか、二人してポーズを決めて、にやっと笑って。

空飛ブータ親子号は、すぐに元気に発進して、小一時間で。

無事に任務を終えた。

十五・ 補佐役： 鷹野王也（たかの・おうや）の煩悶。

「パサミカワ農場のドームハウスは無事だそうです」

カコ先生が言った。ああ良かった。

「作業所事務所は損壊したそうですが、人は無事。資材も野菜も無傷。」

ヨシノさんがぼやいた。

「ツキパタも、素直にドーム化しておけばよかった…」

「今からします。」

「へ？」

「とりあえず応急の仮設措置なので、台風級の強風が来たら破れますが」

「ほえ??」

あくまでも、『天然の太陽と雨と風』という厳しい北国の気象条件の下で。

完全無農薬・不耕起有機栽培…は、現実的には無理だが。

なるべくそれに近い…理想に近い農法がやってみたいと。

こだわっていたヨシノ以下主要メンバーが、反対し続けてきたせいで。

いままでパペルの敷地周辺に広がるプキパタ農牧場の、広大な田畑と山林は。

雨ざらしで吹きさらしの、天然の。

大地の上、空の下にあった。

「冬季休業中の収益性が～★」とかで。

早期全面ハウス化を熱烈希望する副社長らをはじめとした経営効率最優先したい勢との間では、喧々諤々の応酬が繰り返されてきた。

「このままドームハウスで定着するかどうかは、今回のポーシャ毒災害の騒ぎが一段落してから、また落ち着いて話し合うということで… いい？」

「…っす。」

第一陣の大雨災害が降りかかって。

農地と生育中の作物すべてが、激烈なポーシャ毒にまみれてからでは...
遅い。

ヨシノさんは少し哀し気な眼をして、覚悟を決めて潔く頷いた。

*

(ああ... オトコらしいわ...♡)

心の奥で懊悩にまみれて...

呟くのは。

ヨシノと同じく自称「心はオトメ」系だが。

見た眼はハードゲイだと勘違いされている、

農牧場管理補佐の。

本名は鷹野王也（たかの・おうや）だ。

彼女？の恋路と農場の明日は、

前途多難だ...

*

もだえる巨大な筋肉質の可愛らしい彼女？の、

わかりやすい仕種を横目で眺めて。

苦笑したり鳥肌たてたり、しつつ。

パペルの施設整備班は総出で。

無事だった電動農作業車をすべて集めて来て機材を着々と積み上げ。

素早く展開した。

消防出初式のホースの色シャワーのような。

鮮やかに輝く水の柱が立ったかと思うと。

すぐに固まって。

それなりに強度のある、風船の柱のようなものが...

出来上がる。

そのアーチを畑から畑へと何本も、一定の角度と間隔を保って、正確に...

しかけてまわる。

そのアーチ群の上から、中型の作業用ドローンが。

ぶんぶん飛び回って泡あわ膜幕とやらを噴射する。

...固まる。

「ほえ〜...」

ヨシノとタカノの名物コンビは、並んで呆然と作業を観ていた。

「こんなこともあるかと。」

カコ先生は、定番の科白を呟いた…。

*

地下ダンジョンへは着々と。

地元住民が自家用農業車や空キタ救援便で。

詰めかけて、来ている。

結・ 天国への会談。

十六・ 通訳業： 高原リツコ（たかはら・りつこ）の呼びかけ。

ついに【F I F S】が発動した。リアル発動だ。

これまでの、ネット上の意見交換や、あくまでも『架空の』事態を想定しあった上での、机上の空論的な対策検討案の発表会では...ない。

【F I F S】とは『SF & IF』のアナグラム...というか、『悪魔的な』逆読みだ。
その実態は。

元をただせば『SF作家とIF設定愛好家によるリアル世界救済計画検討会』なる、
いわゆる単なる『同人（ファンジン）活動』に端を発する。

ただし、参加メンバーはハンパじゃなかった。

不朽の名作『パリー・ホーター』シリーズの作者とその子孫たちや、名だたるハリウッド映画の監督やら脚本家らを初めとして。

SF & FT界の大御所やら重鎮やら長老やらと呼ばれる超人気クリエイターたちや。

はたまたSF（フィクション）とは無関係に、実際的な政治的発言を続けてきた著名なポール文学賞受賞者や、社会派的関心は低いのかと思われていた各国の人気エンタメ作家や、アニメ監督やら、漫画家やらが。

早期から、錚々たる名前を連ねて、検討会に参加していた。

もちろん、われらがウマシカ先生が末端に籍を置いていたのは、言うまでもない。

議題はひたすら、「今のまま放置していたら、人類と地球は、どうなるのか。

我々はどこから来て、どこへ行くのか。何が出来るのか。...いや、するべきか？

なさざるべきか？ はたはまた...??』という...

遠大な、もので。

(『何も。なにも。せんほうがええ!』というポンニツ島国からの声は、常にあった。)

しょせん机上の空論だと。

実際に命を張った活動をする環境保護家や人権家、非暴力直接行動を主張し続けて、殴られ拷問され、殺され続けている...市井の人々や。反政府武装闘争を闘う独立革命軍人などからは、当初は嘲笑された。

しかし。

リアル発動した。

クラウド（雲）ファンディングの向うを張って、

計画名は『ネビュラ（星雲）ファンド』と発表された。

人類救済計画だ。
生命と、文化と尊厳の。
そしてできれば、現存する、全生態系の。
せめて、健全な個体が生きているうちに...
遺伝子情報の、採集と保存を...

*

はじめ、ハッカショ村が海に沈んだ、当初。
世界はそれを『人類史上最大最悪の天害人災の悪夢』と名づけて、嘆き悲しんだ。
ポーシャ毒を大量に含んだ雨や風で甚大な汚染の被害を蒙った各国政府は、ポンニツ島国政府
を相手どって激烈に非難し糾弾し。
『地球に対する罪』と称して、国際法廷で欠席裁判を行い。
天文学的数字にのぼる損害賠償請求を...
突きつけた。
国際司法警察が鼻息も荒く、ポンニツ島に乗り込んだ時。
ポンニツ政府首脳陣は、すでにすべて遁走した後で。
国会はもぬけの殻だった。
緑の衣をまとった軍部が速やかに後を引き継ぎ、実権を掌握し。
「賠償支払い義務はない！」と、声高に主張して、世界を敵に回した。
大紛糾、した。
しかし。

*

後に『炎の七年間』と呼ばれる悪夢の日々が、突如として始まった。
数々の小隕石が飛来し。あるものは地表に激突し。あるいは月面に巨大な穴を開け。
衝突回避のために結集した超常力技能集団は、一般人類からは悪魔教だのサバトだの魔女だの
狂信団体呼ばわりされて、忌避され、激烈に排斥された。
各地でありとあらゆる人種対立と民族紛争と階級闘争と独裁弾圧と反政府非暴力闘争と武装革
命と無政府『逃散』運動が...互いに互いを非難しあって激突し。
地震と噴火と津波と異常気象と幻視毒発電機の連鎖的暴走事故の多発と。
次々に発生するポーシャ毒霧雲やその他の化学毒物の嵐や津波や。
さらにさらにさらに...
色々カクテルされた挙句に濃縮された複合汚染の竜巻やら汚染海域が。
全地球上を、ところせましと席捲しつつし...
悪夢。としか言いようのない世界になった。

*

不思議と、一部の世界通信システムだけは、かろうじて存続していた。

生命への災害！と非難され続けた、既存の大手企業主導による6G通信網に対抗して。

『無我システム』とも呼ばれる全く新しい通信技術の民間ボランティアによる開発チームを、FIFSが秘かに資本支援して立ち上げ、草の根に普及させていた...

おかげだ。

FIFSに賛同する者らすべてに対して、生き残った無我システムを通じて、

『ネビュラ・ファンド』への全力支援が要請された。

世界が、動いた。

『 無能無策な上に、庶民を苦しめる役にしか立っていない、

各国政府や国連には、もう任せておけない！

すべての生命のサバイバルのために。

あらゆる国境も、人種も性別も、経済力も、超えて...

手を、つなごう。 』

...リアル異世界的な、本物の『おとぎ話』だと、

みんなは喜んだ。

もはや、それしか、希望が、無かった...

*

持てる者は全私財を投じて、資金援助した。

持たざる者はそれぞれなりに、おのれに出来ることを探して動いた。

すでに定着していた『宇宙旅行』（無重力高度まで往復二泊三日程度の娯楽とステイタス自慢のためだけの観光体験だ）用だった、超高度到達飛宙機の大量生産技術と設備が。

全権利を放棄して、全世界に開放された。

世界中から技術者がボランティアで集まった。

心ある企業は、蓄積していた資材を放出した。

次々に、厳しい訓練を短期間でクリアした人々が、続々と宇宙へ上り。

急ピッチで、巨大宇宙港が建設された。

名前を、『ポート・オブ・ピープルズ・パワー』

...『3PS』（スリーピース）と称した。

最大二十万人ほどが、収容可能だった。

続々と移住した。

そして次々と、宇宙移住希望者のための、受け入れ居住施設の新規建設が...

終わることなく続いた。

美味賜香子社長を筆頭として。パペル社からも。

多くの人員が、『3 P S』建設に参加し。

また、初期移住者に名前を連ねた。

*

ポックル・ポンニ・ポキナワ列島連邦（旧単一国／ほぼ同一言語圏）に対する、『F I F S』からのネビュラファンド参加要請の呼びかけ代表は。

もとよりパペル社とは何かと縁の深かった、パサミアモリ学園出身の多言語間同時通訳技能者・高原リツコ（たかはら・りつこ）が務めた。

ポン語圏からの資金供与と技術援助ボランティアの受け入れ窓口の実務総括は、パペル社の元副社長・長野緑が補佐した。

十七・ 原画家： アルノ涼子（あるの・りょうこ）の宣言。

パペル社員のすべてが宇宙へ移住したわけではない。

「あたし高所恐怖症だし～。骨も弱いし。

打ち上げのGに内臓だけじゃなくて脳も心も。

耐えられない気がするし～。」

という理由で。

パペル社のなかで残留希望を最初に正式表明したのは、原作アニメのメイン原画を担当していた、アルノ涼子（あるの・りょうこ）だ。

「地底に潜っても、宇宙との通信網は生き残るって聞いたし。

コンテンツ産業って意味では、通信網さえ生きてれば。

今は少人数でもアニメ動画は制作可能だし？

...カコ先生やみんなとお別れするのは寂しいけど～。

...母なる地球とお別れしてまで、宇宙で生きていきたくない。...気が、するし...？」

同調する者は、案外多かった。

*

パペル社独自のプロジェクトとしては、急遽『ネビュラ』に傾注したせいで資材と人材不足で頓挫しかけていた、『プウパリ炭鉱遺跡利用巨大地下城塞掘削開発計画』に。

『F I F S』からの、公式認定支援がついた。

『プウパリ補完計画』と呼ばれた。

実際問題として、宇宙空間に全地球人類と生態系を短期間ですべて移住させきるとするのは、無理だ。

穴を掘った。掘った。掘った。

掘っては岩石を溶かして壁を造成しながら掘り進める、『ミミズ型』掘削機が大量生産されて

。

ポックル島の頑丈な土台岩盤の上を、掘り彫りしまくった。

いずれ何万年か後には、大陸移動に伴って、海底に沈むけど。

それまでの間には、地表に戻れるような環境再生技術が。

開発されることを、

信じて...

閉鎖炭鉱プウパリ跡地の地下は。

ポックル島民の、

希望の聖洞となった。

ポーシャ毒と有害紫外線と溶岩と噴石と隕石と宇宙デブリが。

雨あられと降りまくる、危険な地表を避けて。

地下交通網がポックル島内に張り巡らされた。

植物の育成に必要な不可欠な波長の太陽光だけ、反射孔を通じて地下街に導入され、拡散された

。

地下通路沿いに街路樹のように、長く幅広い森林帯が育成された。

有機、林業で。

原生態系と土壌と土壌菌をそっくり、保全移植して。

農場と牧場も、地下に移った。

今は公認の恋人同士？となったらしい...

ヨシノとタカノは。

二人で仲良く。

地底に残留組を、選んだ。

十八・ 発明家： 土岐真扉（とき・まさと）の救済。

後の話であるが。

パペル社『もしも寮』の子どもで、相次ぐ災害のうちに親を亡くしてとりあえず美味賜社長の仮養子の扱いとなり。孤児優先枠で『3 P S』に運ばれた初期の数十人のうちの一人が土岐真扉（とき・まさと）であった。

彼は『3 P S』内に設けられた新設『宇宙大学』を驚異的な速さでステップ進級して最初の卒業生となり。彼のためだけに（と誇大宣伝された）大学院が急いで開設された。という伝説が今

も残る。

十代前半のうちから『騎士世彼方』（きしよ・かなた）の名でSF同人活動に乱入して先達の大人たちから大いに可愛がられて引き立てられ、幅広い人脈を築く基盤となったというエピソードも、世に知られた話だが。

高校在学中からは家電や新素材の工夫発明家としても名を馳せ、旧パペル社系の若手人材と資金を引き継ぐ形で『銀河映遊 電設』と称し学生起業したのが十七歳の時。

当初のヒット作は『NEO・CHEESE』（寝落ち椅子）など中型家電製品が主体であったが。

そもそもそれらを商品化して販路を開拓するための最初の立ち上げ資金は、『カコ母さん』から毎月『発明用の資材を買うのに使いなさい』と振りこまれていた『普通より少しばかり多めのお小遣い』を『こつこつ貯めておいて』だったという話。

やがて宇宙デブリに強い外郭構造の宇宙船舶や月面居住基地を安価かつ簡易に大量に製造可能とする『ニット工法』と『ジップアップ工法』の二種を相次いで発表し、巨額の特許料を手中に収めた。

そこから、『第二次ネビュラ・ファンド』と誤解されているフシもあるが本質的には土岐真扉個人の発願による『地球上全生命救済サルベージ計画』快進撃の始まりだった。

『ニット工法』で月面にどんどん居住基地を建てては売り。

『ジップ工法』で軌道上に次々と居住基地を建てては売り。

新造船群を投入して基地間に定期航路を開設して船賃を徴収し。

潤沢な資金を次々と巧みに回転させて、

巨額の富を得て。

次には。

「自力で宇宙移住する経済力がなく、もはや締めきられた地下居住空間にも入れずに。

あてもなく地表をさまよっている、とりのこされた困窮生命たちをすべて。無償で。」

『宇宙に御招待する！』という計画案を...

呼びかけた。

後追い承認ではあるが、FIFSもパペルも豪田行も、その他の著名人も既存のNGO群も。全面的に賛同支援した。

そこからは、確かに『第二次ネビュラ』現象と言っても良かった。

大量生産で急ピッチに簡易輸送船と安価だが安全な居住基地が作られ。

地球上各地から、とにかく大量の生存者が（無償で）宇宙に運ばれた。

数十万人単位で打ち止めになるかと思われていた宇宙居住者人口が、

いっきに百万人単位にまで、増えた。

「とりあえず、人類保全のための『遺伝的多様性』は担保できたよね？」

というのが、本人一番の喜びポイントだったらしいが。

月軌道上『L1』ポイントに位置する『3PS』と、『L4』ポイントの『月2』。

この二つの主要塞を中心に、人類居住基地は「連なる真珠の首飾りのように」

煌めいて、宇宙を賑わした。

宇宙開拓黄金時代の始まり。と、人々は賞揚し、奮起して辺境に挑んだ。

十九・ 大統領： 豪田行（ごうだ・ゆく）の統一。

お定まりのように内紛があった。

旧地表での国籍や民族や人種や。

はたまた思想や宗教にこだわって。

覇権争いや領土紛争を。

「おこしたくてしかたがない」としか思えない連中は、宇宙空間にまで沸いて出たのである。

一喝し、まとめあげた者が。

本系人・豪田行だった。

やはり旧パペル系企業群も資金援助した。

初代『宇宙生活者連合』大統領に就任した。

薄氷ではあるが。

平和と平等を目指す宇宙統一法治体制が始まった。

＊

この頃になると、初期移民はみな、かなり老いてきた。

しかし医療の進歩も目覚ましく。

人口が少なく人手が足りない宇宙社会。

高齢者といえども可能な限りは長く働いてほしいと。

健康状態は常に管理され保全され、長寿命化が図られた。

「...ETか、ヨーダ様のような、外見になってしまった...」

カコさんは最近そう呟いては、高齢者仲間の定番の笑いを取る。

宇宙移住の際に背骨と神経を痛めて歩行がやや不自由になり、遠出する際にはもっぱら自走式車椅子が頼りだが。まだまだ頭も心も健在で。

発行間隔はやや間遠になりつつあるとはいえ、人気シリーズの新刊や続編は断続的に発表され続けており。

ファンたちは新旧とりまぜて、

『長寿と繁栄を！』という季節のカードメールを雨あられと贈ってよこす。

とはいえ、櫛の歯が欠けるように、かつての『地表パペル』全盛期の重鎮スタッフたちは、そろそろ静かに、表舞台から姿を消しつつあった。

＊

月の重力に釣られて移動する『3 P S』では、真上から見下ろせる地表のポイントも、それにつれて移動する。

母国の真上を通過する時には、民族系飲食店ではリアルタイムで画像を床に投影して、皆で集まって懐かしむのが新しい習慣になった。

月面にもそれは転送された。

月面では天井に投影された。

今では『ポックル・ポンニツ・ポキナワ』略して『ポポンポ』または『ポン系人』と呼ばれる老女たちは。

そんな集まりの時、かぼちゃのパイを食べて、シナモン入りの紅茶を楽しむ。

「...え？そこはアズキのマンジュウと、緑のポン茶でしょ!？」

という、若い人たちからのツッコミは、ものともせずに...

シナモン...

(死なんもん!)

そういう、ダジャレだ。

宇宙移住初期。

地表の惨劇を、眺めおろしては。

自分たちだけが「救かってしまった」という自責と後悔の念に責められて。

鬱状態になり、みずから命を断ってしまう者たちが続出した。

そういう、時期が、あった。

そんな葬儀の時には。

満地球の見える大画面の下にみんなが集まって。

同郷の老女たちは、皆で口ずさんだのだ。

懐かしい...

若いころに流行った...

今では、誰も知らない...

ポンニツ語の。

あのころの...

流行歌の、数々を...

♪ 死なんわ。

死なんもん。 ♪

せっかく、救助された命だ...

尽きるまでは、生き延びる。

♪ 死なん。も一ん...。 ♪

*

土岐真扉の『全サルベージ計画』のおかげで。

今では、地表をあてもなくさすらう悲惨な残存生命体の数は、めっきり少なくなった。

半地下化されるか、完全に地下に潜った、

旧国家系の都市群の他には。

地上に、生命が安住できる場所は... ない。

パペル社の老女たちは、『3 P S』がポックル島の上空を通る時には。

都合のつく限りにおいては、欠かさず集まって。

シナモン入りの紅茶で、かぼちゃのパイを。

映像で、眺めおろす。かつての。

懐かしい、栄光の、故郷の...

『パペルの塔』の...

津波と土石流に幾度もさらされて洗われて。

地表になかば剥き出しに現われた、その姿の全景は。

何やらやっぱり、どこぞのアニメの...

船の姿に、似ていた。

パペル塔は、艦橋のような位置に、今でも立派に突き立っていた。

今もその構造物は無事で。

数少ない、『積極的地表残留者』たちの。

放浪中のビバーク場所として活用されている、

らしい。

その玄関先の割れたガラスの扉には。

今でも、しっかりと刻印された防腐処理済みの。

金属製の銘板が、張り付けてられてある。

=====

(株)パペル社の緊急宇宙避難支援チームは、

本年2121年12月12日をもって解散し、

本社機能は月軌道上『L1ポイント』の、

『3 P S』内*****に移転しました。

御用のあるかたは無我チャンネルにて、

『3 P S』***-***-***

までご連絡下さい。

長年の御愛顧御厚情、ありがとうございました。

弊社地表活動を支えて下さったすべての皆様に、

感謝を捧げます。

なお、引き続き、避難移住希望者の受け入れは、
プウパリ基地ならびにポチフネヤマ宇宙港にて、
可能な限り、継続して行っております。
(方角を示す大きな矢印と地図)

=====

...これを眺めるたびにカコさんは最近、
「しまった！ いまもう『月面に移転済み』...って、追加しないと！」と呟く。
もうプウパリの入り口も閉鎖されたし、ポチフネ宇宙港は、冰山津波で沈んだ。
「しまったあ...」
本気で呟くので、まわりはいつも、笑う。

二十・ 移住者： 過去 美味史（かこ・うまし）の墓碑銘。

享年144歳。

驚異的な長寿と若々しい外見を保ったまま。

眠るように身まかった。

見送る身内の者といえ、すでに遥かに年下の人間しかいない。

さらさらと明るく見送る、静かで熱烈な、葬儀の席だった。

ファン活動は根強く。

盛大な、ネット上の...

追悼イベントが。

今後も未永く、展開されていくだろう...

宇宙空間でフリーズドライにして、粉碎処理をした後。

小さなカプセルに詰められて、カコさんは地表に帰還した。

墓碑銘がわりに貼られた、カプセルの金属板には。

パペル社の。

月面事務所の移転連絡先が。

しっかりと、

刻まれていた。

*

宇宙人類の大半が、地球を遠く離れ、故星を忘れてしまった今でも。

それらは今もそこにある。

『後世の歴史家』たちが、いつか掘り返してくれることを、夢みて。
静かに、待ち続けている…。

たぶん、ね。

END.

(第 2.5稿)

『独身女が 集団で』 (第三稿・〇)

(2020年01月03日)

霧樹 里守 (きりぎ・りす)

【 目次 】

起： パペルの塔

- 〇一・ 小説家： 美味賜 香子 (うまし・かこ) の日常。
- 〇二・ 調理師： 佐藤和子 (さとう・かずこ) の仕事。
- 〇三・ 清掃員： 円藤美奈和 (えんどう・みなわ) の通常業務。
- 〇四・ 漫画家： 宝剣 聖鉦 (ほうけん・せいな) の本音。
- 〇五・ 管理人： 置田多恵子 (おきた・たえこ) の観察。

承： かけこみ T E R A。

- 〇六・ 運転手： 富田都美子 (とんだ・とみこ) の日課。
- 〇七・ 支店長： 滝川明子 (たきがわ・あきこ) の業務報告。
- 〇八・ 副社長： 長野 緑 (ながの・みどり) の嘆息。
- 〇九・ 農業者： 吉野清次 (よしの・せいじ) の来歴。
- 一〇・ 校閲者： 佐賀 野絵瑠 (さが・のえる) の陰謀。

転： 本日沈没。

- 十一・ 秘書嬢： 細沼甲斐子 (ほそぬま・かいこ) の青天霹靂。
- 十二・ 統括長： 嵯峨野 景 (さかの・けい) の驚天動地。
- 十三・ 技術者： 田中真理 (たなか・まり) の阿鼻叫喚。
- 十四・ 林業者： 狩野愛子 (かのう・あいこ) の決断。
- 十五・ 牧場主： 鷹野王也 (たかの・おうや) の煩悶。

結： 天国への会談。

- 十六・ 通訳業： 高原リツコ (たかはら・りつこ) の呼びかけ。
- 十七・ 原画家： アルノ涼子 (あるの・りょうこ) の宣言。
- 十八・ 発明家： 土岐真扉 (とき・まさと) の救済。
- 十九・ 大統領： 豪田 行 (ごうだ・ゆく) の統一。
- 二十・ 移住者： 過去 美味史 (かこ・うまし) の墓碑銘。

=====

(表紙絵・七十歳ほどの元気な老女を先頭に、各世代の女たちが歩いて行く絵)

(巻頭句)

『 夢は具体的に書き出すと、実現しやすくなるという... 』

(裏表紙絵・車椅子に乗った元気な老女を先頭に、数十年後の女たちが歩いて行く絵)

【あらすじ】という名の、【あとがき】。

転・ 本日沈没。

十一・ 秘書嬢： 細沼甲斐子（ほそぬま・かいこ）の青天霹靂。

細沼甲斐子（ほそぬま・かいこ）の名刺の肩書きには一応『秘書』と記してある。

主な担当業務は。

押し寄せる大量の執筆依頼や取材申し込みやらインタビューやら出演やらへの打診を。締切と枚数と要望ジャンルと対象読者層と。原稿料や出演料の有無と多寡と。期待できる出版後の印税収入額などなど別に。

解り易く分類列挙して、リストアップしてプリントアウトして、カコ先生に渡して。

書くか書かないか、出演するか否か、まだ検討中か？のマルバツサンカクや質問事項を赤ペンで（手書きだ！）記入してもらって。

きちんとしたビジネス文書に意識や超訳？して返答したり。

時期や内容の調整を引き受けたり。

確約した分の。

締切日と枚数とジャンルと対象読者層と。

つきあいの浅い出版社や編集部の場合には、担当編集者への連絡先や手土産に望ましい品目リストや、既存刊行物の傾向やら初版発行部数やらやらを、リストアップした上で。

逆算して、「早めの執筆開始予定日」を設定して。

執筆部屋のカレンダーに、大きな字で（手書きだ！）記入しておいたり。

一応完成して渡した原稿の校了予定を把握した上で。

専任校閲係との赤修正やら何やらのやりとりの日取りを調整したり。

はたまた締切延長の調整依頼や、ドタキャンの謝罪役を引き受けたり。

原稿料の振込日と予定金額を事前に把握して経理部に報告したり。

カコ先生の「経費分の領収証」を整理して、経理部に申告したり。

馴染みのない出版社との初顔合わせや、無関係なイベントの際を狙って急襲してくるアポ無し突撃取材の傍若無人な雑誌記者や盗撮カメラマンなどから、人見知りのカコ先生をガードして救い出したり。

無理な契約や出演依頼やを押しつけてくる輩にはきっちりお断りして「法務を通せ！」と突っぱねてみたり。（実はこっそり護身術も習っていたりするのは、内緒だ。）

取材や出演に要する移動所要時間や、事前事後の周辺観光スポット情報や宿泊予約候補地までも含めた日程案を作成して、スケジュールを管理したり。

頼まれれば切符の手配やホテルの予約や。

カコさんがアバウトに立てた海外旅行の日程が実現可能かどうかのチェックを本職に依頼したり。

引き受けた写真撮影付きインタビュー取材や講演会の前には。

日ごろ身だしなみにほとんど構わないカコ先生の臨時のスタイリストと化して。

こっそりボタン付けやほつれの繕いやなんかも、しておくし。

緊急で出演衣装の買い出しに走ったり。

靴の磨きや修繕や「即便！通販」を頼んだり。

専門のプロがいなければ、ヘアメイクも引き受けたりなんかする。

予定を忘れてお寝坊してたら部屋まで起こしに行くし。

頼まれれば散らかった執筆資料の整理収納や、簡単な掃除も手伝うし。

寂しがってればご飯も一緒に食べたりするし。

私室に「お泊り」なんかもたまにして、眠くなるまでの話し相手を務めたり、するし。

取材や休暇旅行のお供をしたり。

まあ、雑用係で。

本人はファンタジックに、「おつきの者」でございますと、自己紹介をしている。

*

次の予定の書きおろし単行本の出版社との打ち合わせは明後日に決まった。

...ということは。

「今日と明日は完全オフ？」と、目を輝かせて、カコ先生は笑った。

「そうなりますね。」

「じゃ、お風呂いこ〜っと！ ...一緒にどう？」

「お供します！」

「んじゃ一道具もっといで〜。十五分後に玄関集合〜」

「はい！」

こんな場合、カコ先生が日帰り入浴施設の意味で「お風呂」と言うのは、徒歩五分。

パペル塔の地下駐車場通路をまっすぐ抜けるか、その上に広がる地上庭園をつっきるかで簡単に到達する、自社直営施設である。

ふつうの「お風呂」は「男・女」の二種類か、多くても「家族風呂」という別室が併設されているくらいだが、ここのお風呂はちょっと変わっていて、入浴エリアが六つある。

「カコ専用」というのが屋上階のペントハウスの的に設けられている。

地上階と二階部分は、それぞれ縦に区切られている。

「一般女性・女性系・中間・男性系・一般男性」の、五つのエリア別。

自己申告制だと絶対に痴漢だのセクハラだののトラブルが多発するので。

中三つのエリアを利用できるのは「輪っか」寮の住人か、その連れだけだが。

他の（大き目に造られている）「一般」二つなら。

地元民や観光客や、カコ先生の「聖地詣で」に来た熱心な読者の皆さんも、もちろん利用可能。

あいにくだが、天然温泉では、ない。

カコ先生は天然かけながし温泉が大好きだが。

出るか出ないか判らないものを（確率的には出る可能性は低い地域だと専門業者さんからは言われた）、闇雲にボーリングしてまわるほどの予算の余裕は...、無かった。

その代わりに、敷地の外れの丘陵地帯の既存の農業用水の横穴井戸からパイプを引いて。

農場と牧場エリアの境目にある堆肥発酵施設の熱い屋根の下を、ぐねぐねと折り曲げてパイプを通して加温して。

四十五度ほどに温まった褐色植物泉を「天然水の沸かしたて、かけ流し風呂」にした。

入湯料は普通の銭湯よりちょっと高いくらいか。

地元にも観光客にも、密かに人気のスポットだ。

「...あ〜。生き返る〜♡」

カコさんはざっと洗髪とシャワーだけ済ませると、どぼ〜ん！と寝湯に転がった。

「カコ専用」スペースは、本人と一緒に、本人の許可をインカムで確認しない限りは、他人は利用できない。

ひとり分サイズの寝ころび浴槽が高温・ぬる湯・温水の三つと、同じく温度別の壺湯が三つと、あとはプールサイドのような寝椅子が二つあるだけの、小さいスペースだ。

お空が青い。

「...い〜ね〜。幸せだね〜...♡」

「ですね〜♡」

カコ先生と、うまくやっていくためには簡単なコツがある。

よけいなことは喋らない。どうしてもいい自分話や、他人の噂は、なるべく少な目に。

大事なことには必ず相槌を打つ。

「いいね」

「美味しいね」

「可愛いね」

「かわいそうだね」

「素晴らしいね！」

なんてキーワードが出た時には、タイミングを逃さず、かならず反応だ。

（自分の意見と異なっていると思う時には、きっちりと反論するのは可。）

「...あ〜。幸せだな〜...♡」

カコ先生は、もう一度しみじみと呟いた。

...その、時。

「...あら？」

相槌のタイミングを逃した甲斐子は。

一瞬、自分が貧血かなにかで眩暈を起こしているのかと思った。

ぐらっ...

「あれっ?!」

カコさんが素早く立ち上がった。

「あら... エッ? 揺れてますッ??」

「揺れてるッ！」

びい〜〜ッ! びい〜〜ッ! びい〜〜ッ!

聞き覚えのある、不吉なサイレンが響いた。

『緊急地震速報です! 間もなく強い揺れが来ます!』

「うそッ！」

...数秒と待たず、本震が襲い掛かった。

...揺れる...

揺れる!

「つかまって！」

「カコ先生ッ！」

揺れる!

...数分は、続いただろうか...

お風呂のお湯が、津波と化して、数メートルもの水しぶきを立てて、跳ねる跳ねる!

階下から男と女と子どもと性別不明をとりまぜて、悲鳴と怒号と絶叫が響く。

がつーん!

がちゃーん!

ばしゃーん...!

がしゃーん...ッ!

悪夢かと思った。

甲斐子は恐怖で涙が出てきた。

お風呂のなかで、少しちびったかも、しれない。

*

数分して、揺れは...

とりあえず、大きいのは...

...収まった...???

カコ先生が、まっぴのままだだっど駆けだして、内線電話に駆け寄った。

備え付けの、非常用インカムを素早くはずして手早くかぶって。

余震で揺れても飛ばないように、しっかりと、ヘッドバンドをかける。

...の、一連の動作と同時に。

びっくりするくらい大きな声で。

「みんな無事ッ？ カコは無事ですッ！ 避難手順に従って行動してっ！

ポーシャ毒測定班！ ただちに安全確保の上、大至急、状況報告願いますっ！」

...大変な、日々が始まった...

十二・ 統括者： 嵯峨野景（さかの・けい）の驚天動地。

びい〜〜ッ！ びい〜〜ッ！ びい〜〜ッ！

聞き覚えのある、不吉なサイレンが響いた。

『緊急地震速報です！ 間もなく強い揺れが来ます！』

嵯峨野景（さかの・けい。旧名：景子。）は、飲みかけの熱いお茶をあやうく噴き出しかけた

。

...いや、むせこんでる場合じゃないッ！

死ぬ気で咳をこらえて、インカムに飛びついた。

『空キタ便！ 全機、緊急浮上！ 安全確保！』

滅多に使わない全機一斉開放ボタンを、正確に押せて良かったと安堵するのもつかの間。

...揺れた！

言語に絶する... 揺れだった。

まず小刻みにカタカタ揺れた。

それから横にゆさゆさ揺れた。

(...大きい...！)

と、思って体を両腕で机の下に固定しながら、様子を見ていると...

縦に。

ガン！ と、...

突き上げられた...！????

それからはもうジェットコースターかと突き嘔いするような。

笑ってたら舌を噛みそうな...

地獄のような...

あれこれ倒れたり飛んだり、崩れたり落ちたり割れたり。

...でも。

まだ、本社の建物自体が壊れるほどじゃ... ない？

震源は、けっこう遠い。（たぶん）。

それでこれだけ、揺れた。（...おおごと、だ...！？）

...揺れがとりあえず収まった...？ 時には。

思わず、安心？して。

気が遠くなりかけた...

*

「みんな無事ッ？ カコは無事ですッ！ 避難手順に従って行動してっ！」

...すげえ。

...カコさん、すげえ...。

ちょっと涙が出かけた。

いやいや...

感心してどうする。

七十過ぎの御高齢者に、敗けてどうするよ...

オレ！

「空キタ便！統括、嵯峨野景、無事です！ キタ本社一階、損害軽微！重傷者ナシ！

空キタ便！全機応答願いますッ！」

非常回線の全社開放で報告だけして。

途中からキタ内線の双方向通信に切り替える。

『空ビット一号、鹿毛妙子、無事です！ 配達先に向け飛行中！

目標家屋が損壊してます！ 人影あり！ 手を振ってますっ！

このまま救援活動に移ってもいいですかッ？』

『安全確保最優先！気をつけて行動して下さいっ！』

『了解ですっ！』

そもそもが、空キタ便は、前の全島震災の時に。

あっちもこっちも道路も鉄路も墜ちたり崩れたりしまくって交通網が遮断され過ぎて。

とり残された人たちへ、せめて水と薬と食糧だけでも、急いで届けたい！...と。

救援活動のためにカコさんが自費を投じて緊急レンタルした車体を。

ボランティアで集まった運転手と、日頃のカコ先生の社会的な活動を支えてくれている熱心な『ファン祭徒』からのクラウドな供出物資と資金とが、支えて。

運用しまくって...

いざ事態が収束して機体を返却しようと思ったら。

飛ぶには支障が無いんだけども...

細かい、傷だらけで。

「これ返却受領するなら多額の修理費用請求が発生しちゃいますよ？」

と、営業マンに...困惑された...

ので。

それくらいなら！と、開き直ったカコさんが、そのまま長期リースに切り替えて。

急遽立ち上げられた...という来歴を持つ、事業だ。

配達員はその時に救援ボラで動いていた人財が多いから、話も反応も速い。

ついでにみんな、カコさん原作の漫画『奔れ！国際救助隊！』の大ファンだ。

良かった...

*

『空ビット七号機、小破！ 飛べます。

鈴木美恵子、軽傷です。

配送完遂の上、状況判断して動きますっ』

『了解。慎重にお願いします』

『空ビット十三。遠野了子、無事です。

ポッポ口上空。何か所か煙が上がってます。酷いです...

...家族が心配です。一旦離脱していいですか？』

『気をつけて！』

『はい！』

次々に報告が入って来る。ありがたいことに死者も重傷者も大破もなし。

非常緊急電源が入ってPCが復活したので。

急いで、直通無線で繋いで。

災害時の連繫出動契約をしている防災省の、救援要請者の分布地図を、急いで開く。

...真っ赤。だ...

一面の、真紅に点滅する、救援要請記号と。

高速で移動中の、緑の救急車と、朱色の消防車。

黄色はガス会社がガス管破損箇所を把握したという印。

水色は水道管の破損箇所。

紫は火災の発生現場だ。

黒はさらに有毒ガスの発生危険性を示す火災。

...無理だ。

市街地とせいぜい近郊だけで、正規の消防署の対応は、手一杯だろうと思う...

数点、離れた場所で青く輝やいているのが。

救援参加宣言を済ませた空ビット号たちらしい。

遠隔地、へき地、辺境郊外への。

応急配送。こそを得意とする、

われらビット...！

ちゃらら〜ん♪ と、脳内で。

思わず自社のCMソングが流れた...

...全員、無事で、戻ってほしい...！

...一人でも多く、生かして、救出してほしい...！

＊

...さて...！

飲みかけだったペットボトルのお茶のキャップを。

無意識に、ちゃんと閉めてた自分に気がついて、ちょっと笑った。

すっかり冷めてしまっていたけれども。

緊張しすぎた喉にはちょうどいい。

一口飲んで、体の震えをなんとか収めて...

...また、長期戦になるぞ...！

気合を入れろ、オレ！

十三・ 技術者・田中真理（たなか・まり）の阿鼻叫喚。

パペル塔の『オキタ館長』は名前つながりの半分冗談で任命されただけの小柄で小太りの昼行燈な？実直誠実だが真面目過ぎてお堅くて融通の利かない？

ごく普通の一般中年女性だと、思っている観光来館者や末端スタッフらは多い。

実は元職が、ポックル島国『護島隊』のプロの凄腕の防災救援レンジャーで。

じつはカコさん命名『自宅警備員』なるパペル全域のガード業務スタッフに、武術や捕縛術を指導しているのも、この人だ。

元職場内の男性中心社会の真ん中で、酷い性暴力に遭わされて。

不正やセクハラやの数々をもまとめて告発したら、嫌がらせで退職強要されて。

裁判で闘って敗けて。

心身ともにボロボロになって路頭に迷ったところを、人権的立場から裁判の支援者だったカコさんに拾われた。という経緯は、意外に知られていない。

＊

敷地内施設管理全般の通常業務を職分とする、堆肥ボイラー温度管理主任にして自家発酵メタンガス燃焼発電機整備技能士も兼務の、ごく普通の『農業副産物等総合転利用技術者』認定国家資格保持者の田中真理は。

「ぴぎゃあああ！」とひたすら叫びながらしがみついていた机の下から、ようやく這い出して来た。

すでにオキタ館長はインカム装着済み。『非常即応』態勢バッチリ。

カコさんの声に伝えて素早く「こちらは全員無事」の報告を済ませて。

状況把握している。

「震源... ハッカシヨ村？」

「えっ？」

「ポップロには、津波は来ない予測と。」

「ふああ」

「ポーシャ毒、震災か？ ...またか.....！」

「嫌〜！」

「泣いてる場合じゃないぞ田中！

全館非常時仕様！ 地下ダンジョン開放と、避難者収容の準備！」

「はいいッ！」

のそのそと這い出して、こぶしで涙をぐいと拭き、垂れて来る鼻水をすすりながら。

毎月のしつこいほどの避難訓練で。

何度も、手順の確認だけはしてきた、緊急用の機材を取り出して...

震える手をなだめながら、なんとか的確に画面を開いて、ボタンを押して行く。

『 パペル塔と寮の地下は、ダンジョンになっている。

本当の広さと構造は、誰も知らない。 』

...というのは、よく知られた都市？伝説で。（カコさんが面白がって広めたのだ。）

普段は本当に、ただの娯楽アトラクション用の「迷走迷路」として。

観光客や「聖地」訪問のファンの人たちには有料で提供されている。

カコ先生の原作マンガやアニメのキャラの絵柄の、記念撮影用の等身大ボードや。

探索用懸賞クイズの、ヒントや案内の画面が点在している、

その地下の...

廊下の。

壁に埋め込まれたドアをスライドして開けると、

中は非常用の、頑健な、避難者長期滞在用室になっている。

一部は平常時から一般観光客にも開放されてて、

『避難生活体験訓練』名目で。

安く泊まれる施設として貧乏旅行者たちに活用、されてて。

地元の人には、自治体を通じて、通常時から、周知はしてある。

災害時、家が壊れた人は...

パペルの足元へ。

と....

がこん、がこん...と、軽い震動音とともに。
地下ダンジョンの隔壁が、上がったり下りたり、斜めに移動したりして。
震災時・長期耐久仕様に、変更されていく。
入浴中だった休日スタッフや客たちが、ぽたぽた水滴を垂らしながら。
とりあえず服だけ着て頭はズブ濡れのぼさぐしゃのままだったり。
荷物を預けたロッカーがどうにかして開けられなくなったのか、浴衣のような貸出館内着や、
それも足りなくなったのか大判バスタオルだけ、羽織ったような姿で。
がくぶる涙目で膝が笑っていて。
それでも職務熱心な当番スタッフたちに、誘導されて。
ぞろぞろと、地下に向かう映像が...
目の端の安全監視カメラに映る。
「食糧その他、備蓄状況は良し！ 敷地内設備、地上地下ともに大破はなし！」
「空ビットがもうすぐ人を連れてきます。受け入れ対応お願いしますね。」
「了解です！」
カコ先生...『ウマシカ先生』と...オキタ館長が。
小説や漫画の中のように、カッコよく、冷静に。
事態の収拾に、当たってくれてる...。
田中真理は、ぐちゃぐちゃになっていたポニーテールをぐいと。縛り直して。
どうにか探し出したティッシュボックスからペーパーを山ほど引き出して涙をふき、鼻をかんだ。
大丈夫だ...
今度も、きっと。
きっと、何とかなる。
何とかなる...！

十四・ 林業者： 狩野愛子（かのう・あいこ）の選択。

「まさか、そんなことは、な～...い、...よな...？」
とは思いつつ、みんな気にはしていた。
ポックル島国の対岸というか、ごく狭いプガル海峡を挟んだお向かいというか。
お隣の島国ポンニツの北の果て、つまりポックルに面したプツ湾岸には。
超巨大な幻視毒発電所が、ある。
ポンニツ三島のエネルギーを賄って余りあるとかいう超巨大な幻発ネットワークは。
使えば使うほど、ポーシャ毒、という有害な副産物を出しまくっている、らしい。
このポーシャ毒は自然分解するのに何百万年という長大な時間がかかるので。

人工的に解毒を時短化する方法が開発されるまで、ということで。
とりあえず、一か所に集めて埋設保管をしていた。
一カ所では収まらなくなったので、次々作って。
現在では八カ所に、巨大な穴がある。
その、巨大なポーシャ毒ゴミ埋め場が、八カ所も、ある村が...
地震や津波に、
遭ったら。
風向きからして、主な被害は、ポックル島国のほうにくる...
さらには、往時のポンニツ（旧統一）島国政府が。
何をトチ狂ったのか、ポックル島内の、しかも首都ポッポロ市の、すぐ近郊に。
同じくらい、超巨大にして超！危険な。
幻視毒発電所を、建設。して、しまった...。
「安全です。安全です！」という大宣伝の、影で。
有害なポーシャ毒が、ひそかに。
撒き散らされていた。
次々に...
死者と病人と。
障碍を持って生まれて来る、子どもたちが相次いだ。
...せいで。
怒れるポックル島民が全島を挙げて立ち上がり。
ポンニツ（旧統一）政府からの『絶対絶縁宣言』を出して。
すったもんだの末。
比較的短時日のうちに、無血で。
ポックル島協和国、という名の独立国になった。
...その経緯の細かい話は、この際、置いておくとして...。

＊

ポーシャ毒素は、いちど憑りついたら、なかなか取れない。
分解できない。
解毒もできない。
秘電子というものを持つ、すべての生命体に有害で。
病気になるし、死にもする。
以前の...若い人はもう覚えていない世代がほとんどだが...
ポンニツ本島を襲った幻視毒大災害では。
多くの農地や山林や野生の動物や家畜や、人間が...
飛び散ったポーシャ毒の、犠牲になった。

今でも、その傷跡は、完全には癒えていない... と、聞く。

それなのに...

前々から、カコ先生や、地震予知とか災害対策に関心の高い人たちが。

「あそこは危ない危ない」と、騒いでいた。

まさにその場所が。

今回の震源らしい。

ポックル島とポンニツ島のちょうど中間の。

海峡湾内のごく浅い場所で、超・巨大発震。

幻視毒発電所の建屋と、

ポーシャ毒ゴミ捨て穴の。

もろい護岸は一瞬で崩れ去り。

そこへ次々と...引いては襲いかかる... 多重津波が。

覆い尽くした。

『 原型を留めず全てが海の下に沈んだようだ、
まるで伝説の悲劇アトランティスのように... 』

と。

普段はカコ先生のエンタメ作品の熱愛ファンクラブ活動をしている

「ポーシャ毒監視班」の。

最寄りの地域の測定班の人々が。

超望遠レンズで、対岸から撮ったという画像を、全世界に公開した。

地球上すべての人々が、現在ちょっくら「ポーシャ毒パニック」中らしい。

...それも、気持ちはワカルが...

*

もっか当面の、自分たちの、火急の、焦眉の、喫緊の...

問題は。

...と、実家の稼業の伐採専門林業従事者という、跡目は継ぎつつ。

業態変換して、育林中心...それも有機林業で...

再生産可能な、持続的地域産業へと。

夢の実現に向けて、着々と地歩を固めていた...

狩野（かのう）兄妹は。

涙目でニュース速報を観ていた。

幸いまだ晴れているので太陽電池で充電しながらだ。

家と事務所はものすごく揺れたけど倒れはしなかった。

家族と親戚と友人と知人と、職員すべてと取引先関連その他も含めて。
地元には、大きな損壊も死者も重傷者も出なかった。
乾燥中だった木材山も、崩れたけど折れたり割れたりはしていない。
むしろ災害復興に向けて建築資材の需要と価格は高騰が見込めるだろう。
...ただ。
明日から、この地域には、大雨が降るといふ。
まさに、ポーシャ毒が絶賛噴出中の、プツ湾。から。
雲が...
津波で幻視毒発電所とポーシャ毒性ゴミ捨て穴がもろともに海没して。
水中で、幻滅現象を起こして。
幻視妄想劣化烈火崩壊熱で。
ぼっこぼこに沸騰している...
海から。
雲。
というより水蒸気爆発的。な？
ものすごい、煙柱が...
沸いて、蠢いている。
最中だと、いう...

*

「...みなさん無事ですか〜？」

「うましか先生ッ！」

「...カコです...」

午後もだいぶ遅くなってから、パルパレ有機林業帯発足準備基金の支援『雲助』集団の筆頭募
金主たるウマシカ先生が、電話をくれた。

全員無事、と状況をざっと伝えと、

「ああ良かった！」と心の底から安堵した笑顔で、言ってくれつつ。

カコ先生の緊急連絡の主眼は、そこじゃなかった。

「明日から雨ですよね？」

「はい...」

「森、守りたいんです。」

「はい...」

「用意してあったものがあるんですけど...」

副作用というか想定外の副被害も、出るかもしれないんですけど...」

「...はい？」

「試してみても、いいですか...??」

*

とりあえずお願いしますと言ってみたら、一時間も待たずに、空飛ブーツ号と僚機が連れだ
って、ぶんぶんぶい〜ん！と。元気に。飛んできて降りてきた。

「今から〜、森の上に〜、天幕を張りまーす！」

「はいい？」

「こっちのブーツ号と〜、あっちの子ブーツ号で〜、...こう？」

実は自分もまだよく理屈は解っていないらしい運転手の富田さんが、簡単な図面を開いて、作
業予定を説明してくれる。

二機の飛空車のあいだにロープというか一定間隔で噴霧穴の開いた長い長いホースを張って飛
んで。

よくある、広い田畑の上空から農薬散布をするのと同じ要領で、『粟泡幕撒く（あわあわまく
まく）液』とやらを散布するという。

「作業手順は〜。大丈夫です！ さっきパペルの屋敷林でも、同じことを〜、小さいやつでした
けど、実験して成功済みです！」

「...いわゆる『煙タイソレイヤ』の逆版... いいもん成分のやつってことですか？」

「ポーシャ毒の、ヒバク直前のユース剤の予防対抗服用、的な...？」

「噴霧と違うんです。」と、『親よりでかい仔ブーツ号』の運転手の前田園美（まえだ・そのみ
）さん。

噴射された薬液が、空中で酸素に触れると、あつというまに広がって固まって。

何というか、プチプチシート？のような多層構造の、軽くて頑丈な多層膜状になって。

広く山林の上をビニールハウスのような形に、数キロ平方単位で覆ってくれるという。

「カコ先生が〜、言うには〜、初期被毒を避けられると〜、予後がかなり違くと〜...？」

「一ヶ月ほどで幕は自然に融けて消えるそうです。素材はトウモロコシの茎とジャガイモの皮な
ので、生分解性は高く、環境負荷は少ないはず、と」

前田さんのほうが比較的専門的に、説明を補足してくれる。

「想定される副被害としては、融けるまでの約一ヶ月のあいだ日照と呼吸を妨げて、植物を枯ら
してしまうかも知れないこと。

それでも推奨したい理由は、葉と表皮と土壌を、直後の直接の汚染から、かなりの確率で安全
に防護できる可能性があるということ。...だそうです。」

有機林業計画の関係者一同、三分間ほどだけ。

額を集めて協議した。

ウマシカ先生が言うことだ...

試作品でも、トライする価値はある...

なにより、日暮れがもうすぐで。

飛空車は安全に飛べない時間になるし。

それまでに作業を終えてもわらなきゃならないし。
それより一刻も早く人命救助活動のほうに戻って。
ひとりでも多く、救けてあげてほしいし…。

「…お願いします！」

プロジェクト言い出しっぺにして最年少者の狩野愛子（かのう・あいこ）が。
代表して、ふかぶかと頭を下げた。

「ぶい～ん！」

「かっこいいとは、こういうことさ♡」

とか、二人してポーズを決めて、にやっと笑って。
空飛ブータ親子号は、すぐに元気に発進して、小一時間で。
無事に任務を終えた。

十五・ 補佐役： 鷹野王也（たかの・おうや）の煩悶。

「パサミカワ農場のドームハウスは無事だそうです」

カコ先生が言った。ああ良かった。

「作業所事務所は損壊したそうですが、人は無事。資材も野菜も無傷。」

ヨシノさんがぼやいた。

「ツキパタも、素直にドーム化しておけばよかった…」

「今からします。」

「へ？」

「とりあえず応急の仮設措置なので、台風級の強風が来たら破れますが」

「ほえ??」

あくまでも、『天然の太陽と雨と風』という厳しい北国の気象条件の下で。

完全無農薬・不耕起有機栽培…は、現実的には無理だが。

なるべくそれに近い…理想に近い農法がやってみたいと。

こだわっていたヨシノ以下主要メンバーが、反対し続けてきたせいで。

いままでパペルの敷地周辺に広がるプキパタ農牧場の、広大な田畑と山林は。

雨ざらしで吹きさらしの、天然の。

大地の上、空の下にあった。

「冬季休業中の収益性が～★」とかで。

早期全面ハウス化を熱烈希望する副社長らをはじめとした経営効率最優先したい勢との間では、喧々諤々の応酬が繰り返されてきた。

「このままドームハウスで定着するかどうかは、今回のポーシャ毒災害の騒ぎが一段落してから、また落ち着いて話し合うということで… いい？」

「…っす。」

第一陣の大雨災害が降りかかって。

農地と生育中の作物すべてが、激烈なポーシャ毒にまみれてからでは...
遅い。

ヨシノさんは少し哀し気な眼をして、覚悟を決めて潔く頷いた。

*

(ああ... オトコらしいわ...♡)

心の奥で懊悩にまみれて...

呟くのは。

ヨシノと同じく自称「心はオトメ」系だが。

見た眼はハードゲイだと勘違いされている、

農牧場管理補佐の。

本名は鷹野王也（たかの・おうや）だ。

彼女？の恋路と農場の明日は、

前途多難だ...

*

もだえる巨大な筋肉質の可愛らしい彼女？の、

わかりやすい仕種を横目で眺めて。

苦笑したり鳥肌たてたり、しつつ。

パペルの施設整備班は総出で。

無事だった電動農作業車をすべて集めて来て機材を着々と積み上げ。

素早く展開した。

消防出初式のホースの色シャワーのような。

鮮やかに輝く水の柱が立ったかと思うと。

すぐに固まって。

それなりに強度のある、風船の柱のようなものが...

出来上がる。

そのアーチを畑から畑へと何本も、一定の角度と間隔を保って、正確に...

しかけてまわる。

そのアーチ群の上から、中型の作業用ドローンが。

ぶんぶんと飛び回って泡あわ膜幕とやらを噴射する。

...固まる。

「ほえ〜...」

ヨシノとタカノの名物コンビは、並んで呆然と作業を観ていた。

「こんなこともあるかと。」

カコ先生は、定番の科白を呟いた…。

*

地下ダンジョンへは着々と。

地元住民が自家用農業車や空キタ救援便で。

詰めかけて、来ている。

結・ 天国への会談。

十六・ 通訳業： 高原リツコ（たかはら・りつこ）の呼びかけ。

ついに【F I F S】が発動した。リアル発動だ。

これまでの、ネット上の意見交換や、あくまでも『架空の』事態を想定しあった上での、机上の空論的な対策検討案の発表会では...ない。

【F I F S】とは『SF & IF』のアナグラム...というか、『悪魔的な』逆読みだ。
その実態は。

元をただせば『SF作家とIF設定愛好家によるリアル世界救済計画検討会』なる、
いわゆる単なる『同人（ファンジン）活動』に端を発する。

ただし、参加メンバーはハンパじゃなかった。

不朽の名作『パリー・ホーター』シリーズの作者とその子孫たちや、名だたるハリウッド映画の監督やら脚本家らを初めとして。

SF & FT界の大御所やら重鎮やら長老やらと呼ばれる超人気クリエイターたちや。

はたまたSF（フィクション）とは無関係に、実際的な政治的発言を続けてきた著名なポール文学賞受賞者や、社会派的関心は低いのかと思われていた各国の人気エンタメ作家や、アニメ監督やら、漫画家やらが。

早期から、錚々たる名前を連ねて、検討会に参加していた。

もちろん、われらがウマシカ先生が末端に籍を置いていたのは、言うまでもない。

議題はひたすら、「今のまま放置していたら、人類と地球は、どうなるのか。

我々はどこから来て、どこへ行くのか。何が出来るのか。...いや、するべきか？

なさざるべきか？ はたはまた...??』という...

遠大な、もので。

（『何も。なにも。せんほうがええ！』というポンニツ島国からの声は、常にあった。）

しょせん机上の空論だと。

実際に命を張った活動続ける環境保護家や人権家、非暴力直接行動を主張し続けて、殴られ拷問され、殺され続けている...市井の人々や。反政府武装闘争を闘う独立革命軍人などからは、当初は嘲笑された。

しかし。

リアル発動した。

クラウド（雲）ファンディングの向うを張って、

計画名は『ネビュラ（星雲）ファンド』と発表された。

人類救済計画だ。
生命と、文化と尊厳の。
そしてできれば、現存する、全生態系の。
せめて、健全な個体が生きているうちに...
遺伝子情報の、採集と保存を...

*

はじめ、ハッカショ村が海に沈んだ、当初。
世界はそれを『人類史上最大最悪の天害人災の悪夢』と名づけて、嘆き悲しんだ。
ポーシャ毒を大量に含んだ雨や風で甚大な汚染の被害を蒙った各国政府は、ポンニツ島国政府
を相手どって激烈に非難し糾弾し。
『地球に対する罪』と称して、国際法廷で欠席裁判を行い。
天文学的数字にのぼる損害賠償請求を...
突きつけた。
国際司法警察が鼻息も荒く、ポンニツ島に乗り込んだ時。
ポンニツ政府首脳陣は、すでにすべて遁走した後で。
国会はもぬけの殻だった。
緑の衣をまとった軍部が速やかに後を引き継ぎ、実権を掌握し。
「賠償支払い義務はない！」と、声高に主張して、世界を敵に回した。
大紛糾、した。
しかし。

*

後に『炎の七年間』と呼ばれる悪夢の日々が、突如として始まった。
数々の小隕石が飛来し。あるものは地表に激突し。あるいは月面に巨大な穴を開け。
衝突回避のために結集した超常力技能集団は、一般人類からは悪魔教だのサバトだの魔女だの
狂信団体呼ばわりされて、忌避され、激烈に排斥された。
各地でありとあらゆる人種対立と民族紛争と階級闘争と独裁弾圧と反政府非暴力闘争と武装革
命と無政府『逃散』運動が...互いに互いを非難しあって激突し。
地震と噴火と津波と異常気象と幻視毒発電機の連鎖的暴走事故の多発と。
次々に発生するポーシャ毒霧雲やその他の化学毒物の嵐や津波や。
さらにさらにさらに...
色々カクテルされた挙句に濃縮された複合汚染の竜巻やら汚染海域が。
全地球上を、ところせましと席捲しつつし...
悪夢。としか言いようのない世界になった。

*

不思議と、一部の世界通信システムだけは、かろうじて存続していた。

生命への災害！と非難され続けた、既存の大手企業主導による6G通信網に対抗して。

『無我システム』とも呼ばれる全く新しい通信技術の民間ボランティアによる開発チームを、FIFSが秘かに資本支援して立ち上げ、草の根に普及させていた...

おかげだ。

FIFSに賛同する者らすべてに対して、生き残った無我システムを通じて、

『ネビュラ・ファンド』への全力支援が要請された。

世界が、動いた。

『 無能無策な上に、庶民を苦しめる役にしか立っていない、

各国政府や国連には、もう任せておけない！

すべての生命のサバイバルのために。

あらゆる国境も、人種も性別も、経済力も、超えて...

手を、つなごう。 』

...リアル異世界的な、本物の『おとぎ話』だと、

みんなは喜んだ。

もはや、それしか、希望が、無かった...

*

持てる者は全私財を投じて、資金援助した。

持たざる者はそれぞれなりに、おのれに出来ることを探して動いた。

すでに定着していた『宇宙旅行』（無重力高度まで往復二泊三日程度の娯楽とステイタス自慢のためだけの観光体験だ）用だった、超高度到達飛宙機の大量生産技術と設備が。

全権利を放棄して、全世界に開放された。

世界中から技術者がボランティアで集まった。

心ある企業は、蓄積していた資材を放出した。

次々に、厳しい訓練を短期間でクリアした人々が、続々と宇宙へ上り。

急ピッチで、巨大宇宙港が建設された。

名前を、『ポート・オブ・ピープルズ・パワー』

...『3PS』（スリーピース）と称した。

最大二十万人ほどが、収容可能だった。

続々と移住した。

そして次々と、宇宙移住希望者のための、受け入れ居住施設の新規建設が...

終わることなく続いた。

美味賜香子社長を筆頭として。パペル社からも。

多くの人員が、『3 P S』建設に参加し。

また、初期移住者に名前を連ねた。

*

ポックル・ポンニ・ポキナワ列島連邦（旧単一国／ほぼ同一言語圏）に対する、『F I F S』からのネビュラファンド参加要請の呼びかけ代表は。

もとよりパペル社とは何かと縁の深かった、アサヒガモリ学園出身の多言語間同時通訳技能者・高原リツコ（たかはら・りつこ）が務めた。

ポン語圏からの資金供与と技術援助ボランティアの受け入れ窓口の実務総括は、パペル社の元副社長・長野緑が補佐した。

十七・ 原画家： アルノ涼子（あるの・りょうこ）の宣言。

パペル社員のすべてが宇宙へ移住したわけではない。

「あたし高所恐怖症だし～。骨も弱いし。

打ち上げのGに内臓だけじゃなくて脳も心も。

耐えられない気がするし～。」

という理由で。

パペル社のなかで残留希望を最初に正式表明したのは、原作アニメのメイン原画を担当していた、アルノ涼子（あるの・りょうこ）だ。

「地底に潜っても、宇宙との通信網は生き残るって聞いたし。

コンテンツ産業って意味では、通信網さえ生きてれば。

今は少人数でもアニメ動画は制作可能だし？

...カコ先生やみんなとお別れするのは寂しいけど～。

...母なる地球とお別れしてまで、宇宙で生きていきたくない。...気が、するし...？」

同調する者は、案外多かった。

*

パペル社独自のプロジェクトとしては、急遽『ネビュラ』に傾注したせいで資材と人材不足で頓挫しかけていた、『プウパリ炭鉱遺跡利用巨大地下城塞掘削開発計画』に。

『F I F S』からの、公式認定支援がついた。

『プウパリ補完計画』と呼ばれた。

実際問題として、宇宙空間に全地球人類と生態系を短期間ですべて移住させきるとするのは、無理だ。

穴を掘った。掘った。掘った。

掘っては岩石を溶かして壁を造成しながら掘り進める、『ミミズ型』掘削機が大量生産されて

。

ポックル島の頑丈な土台岩盤の上を、掘り彫りしまくった。

いずれ何万年か後には、大陸移動に伴って、海底に沈むけど。

それまでの間には、地表に戻れるような環境再生技術が。

開発されることを、

信じて...

閉鎖炭鉱プウパリ跡地の地下は。

ポックル島民の、

希望の聖洞となった。

ポーシャ毒と有害紫外線と溶岩と噴石と隕石と宇宙デブリが。

雨あられと降りまくる、危険な地表を避けて。

地下交通網がポックル島内に張り巡らされた。

植物の育成に必要な不可欠な波長の太陽光だけ、反射孔を通じて地下街に導入され、拡散された

。

地下通路沿いに街路樹のように、長く幅広い森林帯が育成された。

有機、林業で。

原生態系と土壌と土壌菌をそっくり、保全移植して。

農場と牧場も、地下に移った。

今は公認の恋人同士？となったらしい...

ヨシノとタカノは。

二人で仲良く。

地底に残留組を、選んだ。

十八・ 発明家： 土岐真扉（とき・まさと）の救済。

後の話であるが。

パペル社『もしも寮』の子どもで、相次ぐ災害のうちに親を亡くしてとりあえず美味賜社長の仮養子の扱いとなり。孤児優先枠で『3 P S』に運ばれた初期の数十人のうちの一人が土岐真扉（とき・まさと）であった。

彼は『3 P S』内に設けられた新設『宇宙大学』を驚異的な速さでステップ進級して最初の卒業生となり。彼のためだけに（と誇大宣伝された）大学院が急いで開設された。という伝説が今

も残る。

十代前半のうちから『騎士世彼方』（きしよ・かなた）の名でSF同人活動に乱入して先達の大人たちから大いに可愛がられて引き立てられ、幅広い人脈を築く基盤となったというエピソードも、世に知られた話だが。

高校在学中からは家電や新素材の工夫発明家としても名を馳せ、旧パペル社系の若手人材と資金を引き継ぐ形で『銀河映遊 電設』と称し学生起業したのが十七歳の時。

当初のヒット作は『NEO・CHEESE』（寝落ち椅子）など中型家電製品が主体であったが。

そもそもそれらを商品化して販路を開拓するための最初の立ち上げ資金は、『カコ母さん』から毎月『発明用の資材を買うのに使いなさい』と振りこまれていた『普通より少しばかり多めのお小遣い』を『こつこつ貯めておいて』だったという話。

やがて宇宙デブリに強い外郭構造の宇宙船舶や月面居住基地を安価かつ簡易に大量に製造可能とする『ニット工法』と『ジップアップ工法』の二種を相次いで発表し、巨額の特許料を手中に収めた。

そこから、『第二次ネビュラ・ファンド』と誤解されているフシもあるが本質的には土岐真扉個人の発願による『地球上全生命救済サルベージ計画』快進撃の始まりだった。

『ニット工法』で月面にどんどん居住基地を建てては売り。

『ジップ工法』で軌道上に次々と居住基地を建てては売り。

新造船群を投入して基地間に定期航路を開設して船賃を徴収し。

潤沢な資金を次々と巧みに回転させて、

巨額の富を得て。

次には。

「自力で宇宙移住する経済力がなく、もはや締めきられた地下居住空間にも入れずに。

あてもなく地表をさまよっている、とりのこされた困窮生命たちをすべて。無償で。」

『宇宙に御招待する！』という計画案を...

呼びかけた。

後追い承認ではあるが、FIFSもパペルも豪田行も、その他の著名人も既存のNGO群も。全面的に賛同支援した。

そこからは、確かに『第二次ネビュラ』現象と言っても良かった。

大量生産で急ピッチに簡易輸送船と安価だが安全な居住基地が作られ。

地球上各地から、とにかく大量の生存者が（無償で）宇宙に運ばれた。

数十万人単位で打ち止めになるかと思われていた宇宙居住者人口が、

いっきに百万人単位にまで、増えた。

「とりあえず、人類保全のための『遺伝的多様性』は担保できたよね？」

というのが、本人一番の喜びポイントだったらしいが。

月軌道上『L1』ポイントに位置する『3PS』と、『L4』ポイントの『月2』。

この二つの主要塞を中心に、人類居住基地は「連なる真珠の首飾りのように」

煌めいて、宇宙を賑わした。

宇宙開拓黄金時代の始まり。と、人々は賞揚し、奮起して辺境に挑んだ。

十九・ 大統領： 豪田行（ごうだ・ゆく）の統一。

お定まりのように内紛があった。

旧地表での国籍や民族や人種や。

はたまた思想や宗教にこだわって。

覇権争いや領土紛争を。

「おこしたくてしかたがない」としか思えない連中は、宇宙空間にまで沸いて出たのである。

一喝し、まとめあげた者が。

本系人・豪田行だった。

やはり旧パペル系企業群も資金援助した。

初代『宇宙生活者連合』大統領に就任した。

薄氷ではあるが。

平和と平等を目指す宇宙統一法治体制が始まった。

*

この頃になると、初期移民はみな、かなり老いてきた。

しかし医療の進歩も目覚ましく。

人口が少なく人手が足りない宇宙社会。

高齢者といえども可能な限りは長く働いてほしいと。

健康状態は常に管理され保全され、長寿命化が図られた。

「...ETか、ヨーダ様のような、外見になってしまった...」

カコさんは最近そう呟いては、高齢者仲間の定番の笑いを取る。

宇宙移住の際に背骨と神経を痛めて歩行がやや不自由になり、遠出する際にはもっぱら自走式車椅子が頼りだが。まだまだ頭も心も健在で。

発行間隔はやや間遠になりつつあるとはいえ、人気シリーズの新刊や続編は断続的に発表され続けており。

ファンたちは新旧とりまぜて、

『長寿と繁栄を！』という季節のカードメールを雨あられと贈ってよこす。

とはいえ、櫛の歯が欠けるように、かつての『地表パペル』全盛期の重鎮スタッフたちは、そろそろ静かに、表舞台から姿を消しつつあった。

*

月の重力に釣られて移動する『3 P S』では、真上から見下ろせる地表のポイントも、それにつれて移動する。

母国の真上を通過する時には、民族系飲食店ではリアルタイムで画像を床に投影して、皆で集まって懐かしむのが新しい習慣になった。

月面にもそれは転送された。

月面では天井に投影された。

今では『ポックル・ポンニツ・ポキナワ』略して『ポポンポ』または『ポン系人』と呼ばれる老女たちは。

そんな集まりの時、かぼちゃのパイを食べて、シナモン入りの紅茶を楽しむ。

「...え？そこはアズキのマンジュウと、緑のポン茶でしょ!？」

という、若い人たちからのツッコミは、ものともせずに...

シナモン...

(死なんもん!)

そういう、ダジャレだ。

宇宙移住初期。

地表の惨劇を、眺めおろしては。

自分たちだけが「救かってしまった」という自責と後悔の念に責められて。

鬱状態になり、みずから命を断ってしまう者たちが続出した。

そういう、時期が、あった。

そんな葬儀の時には。

満地球の見える大画面の下にみんなが集まって。

同郷の老女たちは、皆で口ずさんだのだ。

懐かしい...

若いころに流行った...

今では、誰も知らない...

ポンニツ語の。

あのころの...

流行歌の、数々を...

♪ 死なんわ。

死なんもん。 ♪

せっかく、救助された命だ...

尽きるまでは、生き延びる。

♪ 死なん。も一ん...。 ♪

*

土岐真扉の『全サルベージ計画』のおかげで。

今では、地表をあてもなくさすらう悲惨な残存生命体の数は、めっきり少なくなった。

半地下化されるか、完全に地下に潜った、

旧国家系の都市群の他には。

地上に、生命が安住できる場所は... ない。

パペル社の老女たちは、『3 P S』がポックル島の上空を通る時には。

都合のつく限りにおいては、欠かさず集まって。

シナモン入りの紅茶で、かぼちゃのパイを。

映像で、眺めおろす。かつての。

懐かしい、栄光の、故郷の...

『パペルの塔』の...

津波と土石流に幾度もさらされて洗われて。

地表になかば剥き出しに現われた、その姿の全景は。

何やらやっぱり、どこぞのアニメの...

船の姿に、似ていた。

パペル塔は、艦橋のような位置に、今でも立派に突き立っていた。

今もその構造物は無事で。

数少ない、『積極的地表残留者』たちの。

放浪中のビバーク場所として活用されている、

らしい。

その玄関先の割れたガラスの扉には。

今でも、しっかりと刻印された防腐処理済みの。

金属製の銘板が、張り付けてられてある。

=====

パペル社の緊急宇宙避難支援チームは、

本年2222年2月2日をもって解散し、

本社機能は月軌道上『L1ポイント』の、

『3 P S』内*****に移転しました。

御用のあるかたは無我チャンネルにて、

『3 P S』*****

までご連絡下さい。

長年の御愛顧御厚情、ありがとうございました。

弊社地表活動の支えて下さったすべての皆様に、

感謝を捧げます。

なお、引き続き、避難移住希望者の受け入れは、
プウパリ基地ならびにポチフネヤマ宇宙港にて、
可能な限り、継続して行っております。
(方角を示す大きな矢印と地図)

=====

...これを眺めるたびにカコさんは最近、
「しまった！ いまもう『月面に移転済み』...って、追加しないと！」と呟く。
もうプウパリの入り口も閉鎖されたし、ポチフネ宇宙港は、冰山津波で沈んだ。
「しまったぁ...」
本気で呟くので、まわりはいつも、笑う。

二十・ 移住者： 過去 美味史（かこ・うまし）の墓碑銘。

享年144歳。

驚異的な長寿と若々しい外見を保ったまま。

眠るように身まかった。

見送る身内の者といえ、すでに遥かに年下の人間しかいない。

さらさらと明るく見送る、静かで熱烈な、葬儀の席だった。

ファン活動は根強く。

盛大な、ネット上の...

追悼イベントが。

今後も未永く、展開されていくだろう...

宇宙空間でフリーズドライにして、粉碎処理をした後。

小さなカプセルに詰められて、カコさんは地表に帰還した。

墓碑銘がわりに貼られた、カプセルの金属板には。

パペル社の。

月面事務所の連絡先が。

しっかりと、

刻まれていた。

*

宇宙人類の大半が、地球を遠く離れ、故星を忘れてしまった今でも。

それらは今もそこにある。

『後世の歴史家』たちが、いつか掘り返してくれることを、夢みて。
静かに、待ち続けている…。

たぶん、ね。

END.

(第 2 稿)

(第 2 稿)

(第二稿・〇) (2019年12月31日)

『独身女が 集団で』 (第二稿・〇) (2019年12月31日)

霧樹 里守 (きりぎ・りす)

(表紙絵・七十歳ほどの元気な老女を先頭に、各世代の女たちが歩いて行く絵)

(巻頭句)

『 夢は具体的に書き出すと、実現しやすくなるという... 』

(裏表紙絵・車椅子に乗った元気な老女を先頭に、数十年後の女たちが歩いて行く絵)

【 目次 】

第一部・ パペルの塔

第二部・ 駆け込み T E R A

第三部・ 天国への会談

第四部・ パンプキンパイで死なもんティー

===

(あらすじ)

(第二稿・一) (2019年12月31日)

『独身女が 集団で』 (第二稿・一)

(2019年12月31日)

霧樹 里守 (きりぎ・りす)

起・ パペルの塔

〇一・ 作家：美味賜 香子 (うまし・かこ) の日常。

不滅の人気を誇る熟練エンタメ作家・美味賜香子 (うまし・かこ) は筆がノッていて今夜も御機嫌だった。

もちろん、うまくいかない原稿の時だってある。

締切直前まで良いネタが出なくて、ねじり鉢巻きでうんうんと苦吟するSF短編とか。

書いている途中でトリックが破綻していることに自分で気がついてしまって、阿鼻叫喚大絶叫する、恐怖の中編推理とか。

でもいま書いているのは大得意の、定番の人気の超がつく長編エンタメ小説の続きで。

おなじみの連中がいつものごとく、ばったばたと跳んだり蹴ったり斬りあったり、殴り合ったり罵り合ったり...の大騒ぎ。

「おいおい、頼むから作者想定外の突発エピソードの乱入する新キャラだの、(いつものことだが)勝手に増やしてくれるな...!!」

...と、抗議の作戦タイムを挟んで。

構成練り直しの脳内会議をするのも、また楽し。

なんとか新刊一冊分の、編集者から文句は出ないで済む程度の...枚数オーバーで。

それなりに読者サマをはらはらさせる起承転結と、次巻も絶対を買わせてやるぜ!

てな、ケレンミたっぷりの『引き』を作って...

無事終了。

『新刊・第一稿・了』の文字だけつけて、添付メールでさくさく送信。

『拝領しました。これから読みます〜! 徹夜で♡』

と、

担当編集から即返が来たのを確認して、やれやれとノーパソを閉じた。

予定時間を二時間もオーバーしてしまった。

二十三時じゃないか。

寝ないと、寝ないと...!

ざっくりシャワーだけ浴びて、いがかげん痒くなりかけてた頭を丁寧に洗って。

薄い漫画を選んで。

暖かい、お気に入りの寝床で。

二十四時ちょっと前には。
楽しく寝落ちしました…。

*

…おっと、朝だ。

目覚まし時計は六時を指している。

うん。ちょっくら（予定通りに）寝過ごしたけど。

その分きちんと六時間睡眠はとれたね。

よしよし。

起き出して、カーテンを開けると…

快晴！

やれやれと、歓びながら、ざっくりトイレと洗顔を済ませて。

ぬるめのカフェオレをがぶ飲みして、チョコケーキを齧って。

つかかけ引っかけて窓の外へ出ると、そこは、大好きな、屋上庭園…♡

ハーブガーデンエリアは朝陽と朝露を浴びて元気に輝いているので…

今日は、世話は要らないね？

雑草エリアと化していた根菜コンテナの草引きと…

トマトの芽かきと、ナスの剪定も、しょうか？

（時間あるかな？）

土いじりが楽しくてやっているだけなので、収穫の出来不出来は、あんまり気にしちゃいない

。

無農薬で、堆肥も自家製で。（もっぱら飲んだ後のコーヒー豆の殻が主原料だ。）

『なんちゃって農園気分』を味わうためだけのものなので…

楽しい。

空は広いし、ペントハウスの柵ごしに、本物の自家農園と、自社牧場が一望できるし。

山は青いし、森は新緑の季節で、キノコや山菜や薪や木炭や、どんどん作れる季節だ。

…これに勝る、幸せはない…♡

深呼吸して、うーんと幸せを堪能しながら、のんびり農作業ごっこをしていると。

背後の室内から、ぴーぴーと、内線が呼ぶ音が響いた。

わざと無視していると…

数分して、わざわざ呼びに来る声がある。

「先生～？ …先生～？」

「カコで一す」

「…カコさーん。…朝食できてますけど、どうしますか～？」

「いま行く～！」

わざわざ呼びに来てもらえるのが、嬉しい。

ので、

わざと、内線が無視しているのは...

内緒～☆

○二・ 調理師：佐藤和子（さとう・かずこ）の仕事。

朝は四時には起きる。週五日勤務の、仕事のある日には。

五時までが自由時間で、先生の話題の広さに後れを取らないよう、幅広く、かつ自分なりに厳選したニュース速報群にざっと目を通しながら、トーストとコーヒーだけの簡単な自分朝食。

六時からが勤務時間。と自分で決めている。

五階に上がって、広いメイン食堂の広い調理場で、オーブンに火を入れ、お茶用ポットの湯量と温度を確認し。

夜中に勝手に夜食を食い散らかした連中の、だらしなくもとっちらかっている洗い物を（秘かに怒り狂いながら）ざっと洗って、手早く仕込みにかかる。

...あ...ッ！！！！

ひどいッ！

今朝のメイン野菜の予定だった、自慢のピクルスサラダ！

半分？ 食べちゃったの...

誰ッ！！！！？

...まあ犯人の目星なんか簡単につく。

怒り狂いつつも、溜息ついて、諦めて...

残ったピクルスサラダじゃ、見るからに量が足りない。

急いで...

作れるものは...

...よし。

とっておきの梅干しを棚の奥の甕から出して、ごりごりと、すりこぎで梅肉だけを手早くはがして潰して。（種は後でお茶にしよう。）

片手で新ジャガをたくさん、皮ごと丸ごと茹でて...

急いで冷まして、皮をぷりぷりはがして...

茹で新ジャガの、ざっくり梅肉和え♡

これなら...

先生の好物♡

*

ご飯は炊けた。

味噌汁も用意できた。

煮物と漬物は、すでによそった。

魚や卵は、食べる人間が来てから、リクエストを聞いて、用意するから...

...よし。七時。

全室一斉通報のインターホンを押す。

『朝食で一す！』

『うおーい』

『いま行きまーす！』

律義に返事をしてくれるのは、だいたい二人だけだ。

『...先生？ 先生ー??』

内線越しに叫んでみても、例によって、先生からは

...返事なし。

...窓を開ける音は聞こえたんだから、起きてはいるはず...

一番近い直通の内階段に至るドアを開けて、パタパタとペントハウスに駆け上がる。

「先生～？ 朝食できてますけど、どうします...？」

「いま行く～！」

たいがい、先生はニコニコとすぐに振り向いて、待っていたように、応えてくれる。

...たぶん、自分が毎朝のんびりと眺めている、屋上からの...

広大な、朝の光景を。

一日厨房に籠りっきりの自分に、一目、見せたくて。

わざわざ....、

呼びに来させてくれている？

...んじゃないかな？

...と、思う....。

*

その後しばらくは、ちょっとした戦場だ。

「おあよう～！ あたし魚ー！ デカイの焼いてー！」

はいはい。魚種はなんでもいいんですよ知ってます。ホッケ特大でいーですねッ？

そんなことだろうと用意していた上物の生干しのホッケを網に載せてグリルにかける。

リクエストの主は、女性とも思えない大股で半あぐらをかいてどんと椅子に座って。

まず番茶をすする。

ワイルドとしか言いようがない、この蛮族のごとき、寝乱れたままの服装と物腰の人物は、これでも一応、（驚くことに！）...うちの営業部長。

...であったり、する....。

（食卓での傍若無人ぶりを観る限り、常識的かつ社会的な気配りなんか、出来そうに思えない

のに...！)

深夜のピクルスサラダ大量窃盗犯も、二分の一の確立で、こやつが主犯であろう。

と思うが。

「...だって、カコが最初に『自分の家だと思ってくつろいでね。』って、言ってくれたし〜？」

...と、開き直られるだけなので、追及するだけ、無駄だ...

...と。

いつものように、怒りの拳をなだめる。

...まあ。

肝心の、カコ先生が。

いつものように、歌うように、踊るように、行儀悪くお箸を振り回したり、しながら。

「美味しい〜♪ 美味しい〜♪」と連呼しながら、即席追加メニューの新ジャガの梅肉和えを、みごとな勢いでがつつかっこんで、「おかわり！」まで、要求してくれた...♡

ので。

怪我の功名ということで、まあ、赦すとしますか...

*

「おはようございまーす！ 遅れてすいませーん！」

「べつに遅れてないよー？」

これも、いつもの会話だ。

「先生、原稿あがったんですね？ 次の打ち合わせの予定、確定しちゃっていいですか？」

「うん。明日以降ならオッケー」

「進めておきます」

「よろしく〜」

「...卵はどうしますか？」

「具入りのダシ巻でお願いします♡」

...だいたい毎朝これだけだ。

たまに違うリクエストも来るから、焼いておくわけにもいかない...

手早くダシ巻用のフライパンに生卵を割り入れ、しゃくしゃくとかきまわしながら茹でインゲンとニンジンの甘煮を投入...

「おはようございまーす！」

「おはよう〜」

「おはようさん」

「はよー！」

「おはようございあーっす！」

うちの先生ほか、漫画勢全員ダメです！ 起きられませんー！

オニギリにしたりして下さいー！」

「了解で一す。...十一人、いる!？」

「十人ですw」

「アタシは炒り卵と～。ご飯大盛で。シャケのバターソテーも小さいやつ食べたいで一す♡」

「はい少々お待ちを一！」

先生原作の長編小説を漫画にしている女所帯は現在三グループも雑居しているので、なかなかの大集団で。

ほぼ毎月末は泊まり込みで進捗状況を見張りにくる各社の編集さん達まで入れると、締め切り前には、遠距離通勤のアシスタントさんふくめて、総勢...三十数人。

独身女が、集団で。

「基本、朝ごはんは七時で～。なるべく全員そろって～。」

...というのが、先生が同居に当たって出した条件のうちの一つだった。

おかげで、朝・昼食担当の住み込み調理員、わたくし佐藤和子は、毎朝、てんてこ舞いのですよ...☆

(...楽しいですが!)

○三・ 清掃員：円藤美奈和（えんどう・みなわ）の通常業務。

「おはようございます。...あの、...いつもと同じでいいです...。」

「...はい。ベーコンかりかり卵三つサニーサイドエッグ。少々お待ちを～♡」

「...好きなもの頼んでいーんだよ...？」

いつものように、先生が、ちょっと困った笑顔で『選べるメニュー表』を指し示す。

「ベーコン、好きなんで... ここの、美味しいんで... 高いやつ頼んですいません...？」

「...いや、そーじゃなくてね～...？」

...ふつう使用人というのは、御主人サマとは一緒の食卓にはつかないだろうと思う。

清掃員という仕事は、使用人の中でも一番下っぱの汚れ仕事ってやつだと思う。

でも何故か、あたしは先生というレッキとした雇い主サマや、やといぬし側の。

...側近というか、重役というか？

...難しそうな、ハイスペックな、

高給取りの業務を担当している、偉い？人たちと...。

一緒に、朝食を食べるハメになってる...。

へたすると、昼食も夕食も、夜食まで

(超豪華・高額メニューで!)

一緒だったりする。

...いいのかなあ？と、最初の頃は、落ちつかなかった。

でも、ご飯が美味しい。

部屋で自炊するより、（ここからじゃ遠くてそもそも不可能だけど）コンビニ弁当やスーパー

の閉店前の半額弁当を、買いに走るより…、

安くて、

…美味しい！

人間、ラクには、流される。

今ではすっかり『食堂で、みんなと一緒のご飯。』が、あたしの『普通』になってる。

美絵にも、食べさせてあげたかったな。

こんなふうに。…大家族で。

温かい、美味しいご飯を…。

と、時々思う。

美絵というのは、あたしの娘だ。

先生にはとても可愛がってもらった。

今は大学に行っていて、就職活動をしている。

そんな風に美絵を立派に育てられるなんて、ぜんぜん思ってなかった。

これもみんな、先生と出会えたおかげだ。

先生が、掃除人を募集していた。

まだ、デビューしてそんなに経ってない。

郊外に古い一軒家を借りたばかりの頃だ。

『 清掃員、募集。

掃除機も合成洗剤も使わずに一軒家を掃除できる、綺麗好きのかた。

女性限定。完全禁煙。子連れ通勤可。（住み込み応談） 』

そんな張り紙が。

母子家庭の公設避難寮の伝言板と。

そのすぐ向かいの自然食八百屋の店先に、そおっと、貼られてた。

あたしはDV夫から逃げてきたばかりで。

重度アトピーのまだ小さい美絵を預ける先も見つからなくて。

仕事探しも出来なくて。

でも生活保護の担当官からは毎日毎日「働け！働け！」って、…怒られてて。

毎日いつも、かさかさの赤むけした皮膚を痛がって泣く美絵と一緒に。

めそめそと、哭いてばかりいた。

『 掃除機も合成洗剤も使わずに 』

…掃除…？

…出来るよ…！

だって美絵のアトピーに良くないって習ったからね！

がんばって…

覚えたんだよ！

さっそく飛んでいって応募した。

面接、即『試験採用』ってハナシになった。

...『綺麗好き』ってところは、イマイチ先生の要求レベルには合ってなかったらしくて。

最初の頃は、

「...扉の上の埃も、ちゃんと拭いておいて下さいね？」

とか、

「視力の弱い私に代わって、きちんと掃除してほしいから、ひとを頼んでるんですよ？」

とか。

ちょくちょく、叱られてしまったけれども...

そうやって、先生に注意されたポイントを、母子寮の自分たちの部屋でも、きちんと掃除、してみたら...

美絵が！

美絵の... アトピーと、喘息が...！

目に見えて、ぐんぐん軽くなってった。

...そうか！

ごめんね。

今までの掃除、まだ、雑だったんだね〜〜〜ッ！！

泣き笑いしながら、先生に報告したら、一緒に喜んでくれた。

それから。

初対面の編集の人がこっそり吸ってった煙草の臭いの追い出しかたとか。

嫌がらせで壁に書かれた赤ペンキの血みみたいな染みの、安全な消し方とか。

こっちから、教えてあげられることも多くて。

だんだん、仲良くなって。

美絵を連れて、先生の買ったコトウ的に古い木造洋館の離れというか車庫の二階？の小さな部屋に、住み込みで、働かせてもらえるようになった。

そこから、空き時間には他のパートに出たり。

先生の事務を手伝って、バイト料を貰ったり。

がんばって、稼いで、お金を貯めて...

(その頃は、先生のご飯も時々あたしが作ってた。

ご飯の評価はイマイチだったけど...)

美絵はそこから小学校に通った。

中学も、高校にも通った。

美絵が大学に行くって言って、親元を離れることが本気まりになった...

頃に。

先生は、このビルを...

どかん！と、おっ建てた。

「...これからは、この寮全体の掃除をお願いします... 大変だと思うけど。」

そう言って、笑った。

毎日の掃除は、週五回、公共部分の内側と、玄関まわりだけでいい。

そう言われて。

あとは天気と季節に合わせて仕事の内容は変わるからと、あたしの勤務は完全フレックス（自己申告制）ってやつになったけど。

週五日、午前十時から十一時の間だけは、基本、食堂担当の「代理」を務める。

和子さんの、ランチ休憩だからだ。

だいたい、そんな時間を狙ってやってくるのは、マンガ家の先生たちと、そのアシスタントの皆さんだ。

こっそり和子さんが苦手なせいらしい。

だって、熱いものは熱いうちに！とか？

箸はきちんと持ちなさい。とか、

スマホ見ながら食べないで！

...とか？

食べかたを、厳しく見張ってる感じが...

するからね？

せっかくの炊き立てご飯を！と、和子さんが（最初のころは）ぷりぷり怒りながら握ってたオニギリの山を、好きな時に、好きなだけ、盗って食べて。

オカズは、好き嫌いして...

かじりかけで、半分以上、残してあったり...して。

（さすがに生ゴミに捨てられてた時は、戻ってきた和子さんがブチ切れた...

「食べ残しはラップかけて冷蔵庫に入れろ！ 出来ないやつは今すぐ出て行け！」って。

大騒ぎになって。

先生が、全面的に和子さんの味方をしたんで、漫画家さんたちはみんな恐縮して...

ちゃんとする。って約束して、一件落着になった...)

...の。

それでもやっぱり、忙しくて、寝不足だと、乱雑に食べ散らかして。

お皿も洗わないでシンクやテーブルに乱雑に放っていたりするのを、

慌てて、片づけて。

和子さんが戻って来るまえに。

一見、こぎれいにしておく...

...のが、もっばらのあたしの、追加業務だ。（苦笑）。

あとは。

通称『パペル寮』とか『パペルの塔』とか呼ばれてる（名前の由来は、先生たちが「紙」に色々書いたり描いたりして稼いで建てた、『紙のお城』だからだそうだ。

パペルって『ペーパー』のスペイン語？の読みかたらしい。）

この、お城の。

（あたしにとってはお城だ。）

上から下まで、毎日綺麗に、はたいて掃いて、拭いて磨いて。
毎日だいたい同じ繰り返しだけど。
季節に合わせて、曜日を決めて。
天気を観ながら、所々を、順番に『部分大掃除』して。
年末というか秋の終わりと、春の始めには。
みんなが手伝ってくれるから、仕事を割り振りして、人数分の道具を、たくさん用意して。
「あたしが一番偉い！」の『指揮者の日』になって....、
先生本人までアゴで使って、
大掃除して。
終わったら、和子さん担当聖域の食堂で...
大宴会だ♡
...それが、楽しみで、生きてる...。
毎日、楽しいよ...！

○四・ 漫画家・尾上聖菜（おのえ・せいな）の本音。

いや最初に聞いた時に「基本それ無理！」って思いましたわ。
朝七時に、毎朝、全員そろって朝食...？
あんたそれ本気で漫画家に言ってますかウマシカ先生？って、
目が点。
だって寝るのが朝の五時過ぎとか、ザラだよ？
締め切り前には、ごはん食べに、わざわざ部屋を...移動する？
とかの、時間的なロスも惜しいよ？
片手で食べられて！
味なんかどうでもいいから！
この締切を（とっくに期限が過ぎてるけど）最期まで闘えるだけの力を頂戴！
ってな、スポドリと栄養ドリンクとカロカロメイトでいいでしょ！？
「揃って毎朝ご飯！」
...って...
なにソレ！？？
...でも一応「なるべく」って... 条件で。
ソレ一応呑まないと入居だめ！って言うし。
まあ一応「うん」と言いましたよハイはい。
締切守れるかー？って、
編集の質問に対応するのと、同じ扱いで...
です。

はい。

...だって家賃が格安だし！

コピー機とかで電気ガンガン使っても、自家発電機の発酵メタンガスの堆肥の対比がどーのこーので？

光熱費も、自給自足でコストが格安だから、家賃にコミでいいよって...言うし！

自分の部屋と、仕事部屋と、フロアが一緒で！

廊下を渡ればもう部屋！　すぐ仕事場！

雨でも雪でも快適！

アシのみんなが全員余裕で寝られる...でっかい...雑魚寝部屋！

二段ベッドに、毛布とシーツも完備で！

掃除と！

...寝具の洗濯まで？！

...してくれる、専門の家政婦の人まで、常駐するって...

言うし...！！！！

...釣られるでしょ？　そりゃもう。

まあ期待したほどは、うましかセンサー本人と会う機会はそんなにはないんですけどね？

(まあそりゃ滅多にあたしが朝食時間に行かないんだから...　自業自得か！w)

絵コンテ切るのに煮詰まった時に、

「センサーこの時のコイツの科白。この真意はいかに...！？」

とか、

「これここの動き。こっそり内緒の、のちのちの伏線だったりしますか...？」

とか。

夜中に突撃取材で、ペントハウスの先生自室を訪問しちゃえるのは...

ちょー便利♪

(いやー応ウマシカ先生が原稿中でないことは確認してからですよ、もちろん？)

食堂のおばちゃ...

おねーさまは...

ちょっくら怖いけど。

ご飯は...　文句なしに、美味しいし！

経理だの税務だのは『本社』の専門部署が、まとめて代行してくれるし〜。

毎日『原稿だけ』に集中できて...

休みは、大自然が満喫できてー！

...最高！♡

歳はそこそこ行っているとはいえ途中入社早々の新人が、いきなり、社運をかけた新設『パペルの塔』の管理責任者という重職に配置されたのは、きっと『名前で選ばれた』んだね？ とは、多くのかたから御指摘頂いています。

建屋運用管理総括、というのが正式な肩書のはずですが。

たしかに、先生がいつも嬉しそうな顔で「オキタ館長～！」と呼んで下さいますので、この名字は重要なポイントだったかなとは思いますが。

漢字は違っておりまして、置田多恵子と申します。

一階正面玄関脇の管理室に常駐しております。

御用の際には最寄りのインカムからお呼び下さい。

最初はきちんと毎朝〇七時ちょうどの五分前には食堂に入室して末座に着席して待つようにしておりました。

しかしこれは失敗でしたね。

調理員の和子さんを慌てさせたり恐縮させたりしますので、次には〇七時ちょうどの五分後を狙って入室するようにしてみたところ、今度は、ほぼ同じタイミングで美味賜社長を始めとして他の主だったスタッフの皆さんが次々に座って、それぞれ好みの主菜の注文を勝手に繰り出すので、やはり和子さんの仕事が立て込んでしまい、非常に大変そうでした。

そこで朝の館内見回り業務を一カ所先に片づけることにして、〇七時十五分を自分なりの定刻と決めましたところ、初日こそ美味賜社長に「あれ？」という顔をされた他は何の問題もなく。

その後はその定時を原則きちんと守るようにしております。

ご飯はとても美味しいですね。おかわりも自由なところが良いです。

さて時間を少しずらして朝食を摂るようにしたところ、ひとつ気がついたことが。

美味賜社長は基本がかなりゆっくり食べる人で、毎朝〇七時一〇分ころから食べ始める習慣のようですが、食べ終わった後もかなり長い間、食堂から動かない。

まれに漫画家スタッフ一同が何故か〇七時台に勢ぞろいすることがあって、おもに徹夜明けで原稿を編集者に渡した直後、という事例らしいですが、そうすると、想定外事態なため大食堂の普段使いの卓だけでは、席が足りなくなります。

気がつくと、そういう場合、美味賜社長はカウンター席の真ん中という定位置から素早く離れて、廊下との境目にある軽食談話スペースの丸椅子に、さりげなく移動をするわけです。

すぐ向かいの事務室に入れば御自分専用の執務ブースと大きな接客ソファがあるし、あるいは上のペントハウスに戻ったほうが、食後の一服という意味ではくつろいで過ごせるでしょう。

でも、食堂の隅が好きなんですね。

たいがい、食事が終わった後でも、お茶をもらったり、デザートをおかわりしたりしながら、かなり遅れて来るスタッフが〇七時五〇分頃から食べ始めるのに声をかけたりして、〇八時一五分過ぎくらいまでは、食堂にいらっやいます。

なるべく、入寮者全員と挨拶できるまで待つ、というお考えではないかと思えます。

普段あまり管理職とか社長という肩書が似合う人のように思えませんが。

できるところで人を観ている。

そういう、感じがしますね。

承・ かけこみ T E R A。

〇六・ 運転手： 富田都美子（とんだ・とみこ）の空を飛ぶお仕事。

ふつうは『母子（ぼし）寮』って言うよね。

シングルマザーと子どもだけが集まって住む寮のこと。

パペル社では『母子母寮』って書いて、『もしも寮』って呼んでるんだ。

可愛いっしょ？

好きでシングルマザーになるわけじゃないけど、もしも、なっちゃったら。

好きで独り身の老後になったわけじゃないけど、もしも、なっちゃったら。

「安心して、ここに入居してね♡」って、センサーが作ってくれた、施設だ。

だから、『もしも寮』。

あたしは双子と荷物をぽんぽんぽーん！と、保育棟に放りこむと、急いで駐機場まで走った。

預けた双子は、預ける荷物を、自分たちで当番先生（有資格責任者・有料）に渡して。

わらわらと大歓迎！モードの全開笑顔で集まってくる『仮祖母』（もしも）の皆さん...

（資格の有無は問わず、出産・育児の経験者。死別・離婚を問わず何らかの事情で単身化。身の回りのことはまだ自分で出来るか、軽い要介護（認知症含む）状態だけど、とにかく小さい子どもが可愛い！ かまって遊びたい！...という。

ボケ防止の日中活動も兼ねて、無料で育児ボランティアに毎日有志参加の皆さん。）

...に、もみくちゃで大歓迎されながら...

本人たちの主な通園目的であるところの大好きな「お砂場！」に突進するべく...

どうやらそのためには「障害物」だと認識しているらしい、おばーちゃん集団を相手に...

なでくり回されて...

苦戦しているw

そんな姿を遠目の横目で眺めて、思わず笑っちゃいながら。

...おっと！

見落としやミスは、赦されないよ～？？

厳密に、チェック表を脳内で暗誦しながら、社用最新式の小型『空飛ぶ自動車』...通称『空飛ブータ号』の起動前安全確認を済ませる。

...あたし？

富田都美子（とんだ・とみこ）。

カコ先生おかけ。社用飛空車一号・『空飛ブータ号』の... 運転手！（操縦士？）

なんでこの仕事に就いたかって言うと...

あたしあんまりモテたこと無かったんだよね～。

けどなんか、あたしのこと「好きだぁ！」とか、しつこく言ってくる男がいたんだよね～。

まあ悪い気はしなかったんだよね～。

まあ一緒に酒呑んだり、ご飯食べたり... 旅行に行ったり？

遊ぶ相手としては、まあ気楽で気軽で、無責任につきあえて。

まあ、ラクだったし...

んで。

なんか気がついたら、お腹に仔っこが出来てたわけさ！

まあ、しょうがない！出来たからには産むべ！ って、思ったわけさ。当然。

けど、相手の男がね？

ばかでねー？

役に立たなかったわけさ

！

ひとが慣れない育児でひーひー言ってる最中に、

「俺と子どもと、どっちが大事だ！ そんな餓鬼どもは捨てる！」とか...

言い出すからさ？

そんでまあ、色々あって、修羅場あって。

けっきょく捨てたわけさ。ポンって！

...男のほうを、だよ？

んで。

もともとパペル社の関連従業員だったから。

双子連れて、もしも寮に入れてもらって。

最初は、授乳休憩もらいながらで、農場の仕事をしてたんだけど。

前は『空キタ便！』の配送員だったから、空飛ぶ自動車の全開免許、持ってたし。

先生が、わりと人見知りというか...

同乗する相手の、好き嫌いをする人で。

何人か、というか、かなりの人数、専用運転手が...代替わりして。

...あたしのごとは、農場で一緒に収穫作業とかやってた時に、意気投合したというか...

気に入ってくれて。

仲良くしてくれるんだよねー♡

んで。「日中専用運転手」つう、肩書をもったわけさ♡

...さて。

安全確認、終了。

急がないと！

約束の時間だ！

...今日もがんばって飛んじゃうよ～♪

よろしく！ 空飛ブータ号♡

ぶい～ん...!

○七・ 支店長： 滝川明子（たきがわ・あきこ）の業務報告。

滝川明子と申します。姓は滝川ですが住所は数代前からパサミカワです。

パペル社直営『ポッポロ庵』支部パサミカワ支店長を務めております。

今日は先生が定期訪問というか、巡回視察と称して、差し入れに来てくれる日でした。

原稿は昨夜のうちに無事にあがっていたそうです。良かったですね。

（あがらないと訪問中止になる場合もあって...スタッフたちがガッカリしますので）

...いえ、原稿もとても楽しみです。次回作、なるべく早く出版されるといいですね...。

ウマシカ先生...カコ先生は、御自分では「三角貿易」と呼んでいるらしいんですが、パサミカワに来店される時には必ず、ポッポロ本店やパコタテ支店の名産品を、何か大量に買い込んで来ては、皆に配ってくれます。

今日の差し入れは本店特製キャラ菓子『くっきー』サンドでした。御馳走さまでした。

とても美味しいし嬉しいです。

後発のパサミカワ支店としては、先輩他店は「追いつき追い越せ!」という目標というか、... 僭越ながら、秘かにライバル視。しておりますので。

本店オリジナル商品を味見させてもらえるのは、大変いろいろと勉強にもなるし。

よし頑張ろう!という励みにもなります。

それでパサミカワ作業所からは自慢の新商品!

『自社製チーズの天然フリーズドライ』加工品各種を大量に（先生個人の自費で!）お買い上げいただきました。

やはり大人気なのは自家製チーズのフリーズドライをパン粉のような形状に、丁寧にクラッシュして仕上げた『チーズ粉』ですよ!（粉チーズとは、違うんですよ!）

これをトンカツとかザンギとかコロッケとか。

揚げ物の衣として、たっぷ～り!まぶして!

揚げてみて下さい...。

まちがいなく、体重が一気に増加します...（笑）

あともちろんカットチーズを高野豆腐風に加工した試作品も、これからいろいろ工夫できそうだと、試食をお願いした地元料理家の皆さんからはご好評です。

どうぞご賞味下さい。

この作業は、世間様からは「聴覚不自由」と呼ばれる特長を持っているスタッフ一同が、スマホの文字画面で連絡を取り合いながら、冬季休耕中のジャガイモ畑の大雪原に散らばって、手作業で天日に当ててはひっくり返し、吹雪の時には急いでザルを回収格納し、また晴れたら出し広げて、丁寧に干し上げて...。

根気のいる作業を繰り返しながら、丁寧に、心をこめて成型加工や粉碎作業をしました。

それで先生は、御自分たちで、本社やパペルの塔で召しあがる以外の分は、ポッポロ本店やパ

コタテ支店のスタッフに、「個人的に差し入れ」して下さるんですよね…。

で、パコタテ支店からは主に「知的に不自由のある」スタッフたちが、手作業で加工した海産物などをお買い上げになって。

やっぱり、他の店舗のスタッフに配って回っていらっしゃるとか…。

毎月の各支店本店の売り上げのうち、実は五%くらいが、こうしてカコ先生個人の財布によって、賄われております…

重ね重ね、ありがとうございます…。

*

併設の、パサミカワ福祉作業センターについてもご説明しますね。

島央・島東方面出身者を中心に、各種「障害がある」人たちや、一人親家庭や病児親や、不登校による低学力など、何らかの理由で「一般就職が難しい」と認定されているスタッフたちが、主にそれぞれの特長別の生活寮で共同生活をしながら、農林作業や加工品製造や調理や店舗販売、また配送作業や配送経理事務などを分担しあって、運営を続けております。

もちろん行政からの補助金や、スタッフ個人は生活保護が頼りの、苦しい運営収支ではありますが、なんとかそれなりにご利用者様にもお客様からも愛され盛り立てていただいて、そこそこ繁盛しており、みな、楽しく忙しく働いております。

ポッポロ本社直営の郊外既存施設を拡張更新して就業可能人数を拡大する、という当初の案を、カコ先生が却下して、各地分散して新規複数の同時立ち上げをと、運営的にも金銭的にもたいへん厳しい道を選んだのは。

幻パツ事故被毒や震災津波海没の恐れのある首都ポッポロへの一極集中を避けたい、というお考えの他に、ポッポロからだ島内遠隔地のスタッフは連休時の帰省の費用と時間が大変だから、というお気遣いがあったそうです。

パサミカワ農場では新造の巨大ドーム型ハウスをフル活用して、通年収穫が可能な液肥トマトや蔓浮きメロン、また埋雪冷蔵による越冬甘味強化野菜の通年販売など、手作業・小規模ならではの高付加価値化が可能な作物の研究生産に励んでおります。

また、冬季の強風と夏季の日照時間を活用して、なるべく、エコなエネルギーの自給自足（可能なら転売収入）にチャレンジ中です。

そして、なるべく無添加で、アレルギー対応で…と。

ポッポロ島内外から幅広く通販でご利用くださる常連のお客様がたのニッチでコアなニーズにお応えするべく、工夫を凝らした商品開発を目指しております。

まだまだこれからですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

…こんな風で、良いでしょうか？ どうも作文は苦手で… もうしわけありません。

*

え、私のことですか？

七十七歳、現在単身です。

カコ先生と同年代ですよ？

交際相手というのでしょうか、異性の茶飲み友達は複数沢山おりますので、それなりに充実した毎日ですが。再婚は、もういいですねえ。夫はとても良い伴侶でしたから。あれ以上の同居人は、もう望めないと思います。

今は仕事が一番の恋人ですねえ。

スタッフたちはみんな、我が子のように...

いえ、我が子よりも手がかかる分、もっと、可愛いです。

実子たちは皆それぞれ勝手に育って勝手に各地に散って、勝手に元気に愉しそうに暮らしておりますので。

からだとあたまが効かなくなったら、『もしも寮』への入寮希望です。

ちょっとボケながら、車椅子でミニトマトの収穫作業なんか参加しながら、

ぽっくり逝けたらいいですねえ...

(夫が待っててくれる。と、思いますし！)

〇八・ 副社長： 長野 緑（ながの・みどり）の嘆息。

一昨年公開されて全国的にもそれなりの興行成績を収め、地元収録のエキストラ大量参加とあってポックル島内では記録的な観客動員率と録画ダウンロード数を誇った『ウマシカせんせい遁走記』実写映画版の、続編『うまうまシカジカ奔走記』の公開予定は今秋に決まり特典付き前売券のプラチナ予約枠はすでに完売したと報告があつて関係者一同はエビス顔でほくほくしている。

続く第三弾『かくしか疾走記』の収録現場の進捗状況視察と雑誌取材陣の案内役を兼ねて数日間の島東めぐりをした後、今日でやっとパペルに帰れるという日に、ちょうどカコさんがブータ号でパサミカワまで来るといので、同乗させてもらうことにした。

取材記者陣をパサミカワ空港まで見送って、市内に戻ってレンタカーは手近な営業所に返却し。徒歩でポッポロ庵支店のスタッフ昼食（時間的にランチ）休憩を狙って合流する。

ご飯と豚汁と漬物だけの簡素な昼食が、出張のあいだずっと続いた高級高額高カロリーーの連続旅館料理+連夜の地元勢接待宴会な深酒続きに疲れた胃袋にじんわりと浸みて、とても美味しい。

数日ぶりに拝むカコさんの笑顔も、密かに癒される～。（本人には言わんけど）。

邪魔だが役には立つ自称「空飛ぶ運転手」の隣の助手席に（不本意だが）乗り込む。

最初の頃こそ（秘かに）大喜びで。

一緒に飛空車に乗りこむ時には、もちろん後ろ幅広座席に、カコさんと並んで。

あれこれとおしゃべりしながらの空中散歩♪

...を。楽しもうと思っていたのだが...

カコさんは、七十代後半、（のはずだ）という実年齢をすっかり裏切っていて。

見た目も若いが、中身は...

完全に子ども！

飛空車に乗った瞬間から、もう全身でわくわくしていて。

飛び立った瞬間から、あっちを眺めて叫び、こっちを見おろして感嘆し。

またあっちにこっちにと、首をぶんぶんと振り回して。

三百六十度を一度に見渡たそうとして目を回して、大騒ぎを繰り返し...と、

忙しいのだ！

隣に私が座ろうとした最初の頃こそ、いちおう気をつけて。

そおっと身を乗り出したり、会話にきちんと返事をしようと、努力してくれたり。

は、していたのだが...

はっきり言って、わたし邪魔？と、すぐに気がついた。

試しに、後ろのシートを断って、前の助手席に乗ると...

カコさん、飛んでる間じゅう、後部座席の...詰めれば三人座れるはずの横幅を、右に跳び、左に跳ねて... ひたすら歓声をあげまくって...

騒がしい！

そのたびに急な重心移動でぐらぐら揺れかける飛空車のバランサーを「待ってました」とばかりにスライドさせて、素早く安定させながら何食わぬ顔で運転...操縦?...を続ける、自称「お抱え運転手」の富田（とんだ）。

「...あのさ、カコさん、いつも...、こんな調子？」最初こっそり聞いてみた。

「うんそうだよー。かわいいよね〜♡」 ...なるほど...

過去何人の「運転手」が、カコさんと気が合わなくてクビになったかという...

人事担当総括も兼ねる副社長の私の苦労も察してほしい。

彼らは一様に主張したのだ。

「危ないからじっとしててください！て、言っても聞いてくれないんですよ！」と...

そしてカコさんは主張したのだ。

「だってお説教ばかりしてて、煩いんだよ！ 社長はあたしでしょ！？」と...

...言って聞かせてもダメなら、黙って相手に合わせろと。

...なるほど...

「...よくこれで、揺らさないで飛ばせるねえ...？」

「うん、だってうちの双子も、こんなもんだし〜w」

...なるほど...

（カコさんは、二歳児か！）

*

今日はいつもの『支社支店作業所巡回視察コース』の他に、イレギュラーで社外の提携企業の

何ちゃら屋外イベントにも寄って行くという。

提携というか、今はカコさんが個人で支援出資していて、生産が安定してきたらポッポ口庵のどこかの作業所に、定期的に加工原料を安く卸してもらおう...という、計画構想段階の相手だ。

有機農業という今では誰でも何となくのイメージは持っていると思うけど、まだまだ知名度の低い「有機林業」とかいう。

一見荒れ放題の、原生林かと思うような... 広大な、山林。

シカの食害は防ぎつつ、人手も電気網も使わずに、環境負荷を考慮して、持続再生可能な低コストで、高品質な林野材の安定生産供給...による地域おこしプロジェクト？

...なるほど？

環境保護だの有畜複合循環農法だの地方再生だの基本的幸福権だの。

カコさんの好きそうな（実は私はあんまり興味がない）社会派キーワードが...満載だ。

「はじめまして副社長！ どうぞこちら詳しい資料です！」

...とか言われても。

私は、関心は無いんだってば。こっちの分野には...。（苦笑）

まあ本来かなりの人見知りのはずのカコさんが、林業従事者のこわもての泥だらけの小汚い恰好のおっさん達に取り囲まれて。

嬉しそうに、笑っているので...

よしとするか。（嘆息）

まあ、獲れたて？鹿肉の自家製炭焼き串は、とっても美味しかったよ...。

（タレも旨かったよね。アレ何ていう木の实を使ってたって??）

...カコさんが買い込み過ぎた、木炭と木酢液と鹿肉と熊肉の燻製とハムと塩漬けと？

エトセトラのせいで、飛空車の制限重量オーバーしちゃって。

危うく、「予定外の方は、降りて歩いて帰って～？」とか、

言われちゃったけどね...！

（慌てて空ビット急便を手配したので、「予約済み乗車拒否」は免れた...★）

*

その後は予定を詰めて最速で、パコタテ支店とポッポ口本社と本店と、それぞれの併設作業所を「巡回視察」して...。

（はっきり言ってカコさんのやってることは、「三角貿易」なお土産を配ってまわって、挨拶してお茶して、笑って帰ってくるだけ。なんだけど...

スタッフはそれで喜んでるので、まあいいか...)

経営状況報告や経理資料は、基本すべて私が受け取る。

カコさんに渡しても、たいがいパラパラっとめくって眺めただけの素通りで、私のところに届く。

副社長。なんて肩書だけどねえ。

雑用係。なんだよねえ。要するに。カコさんの。
...面倒ごとは全部丸投げ。という...。
ワタクシ、『ザ・ペーパーカンパニー』パペル社の、
取締役副社長・長野 緑 は...
そういう、係。（嘆息）

○九・ 農業者： 吉野清次（よしの・せいじ）の来歴。

「あ～、やっと帰って来た。遅かったね～？」

駐機場に戻ると、待ちかねたように体格の良い筋肉もりもり細マッチョなイケメン男が寄ってきた。

男、としか見えないが、原則男子禁制、を掲げるパペル寮の住人で、正社員である。

「うん。いっぱい食べてきた～♡」

「あ～、そっか～w」

どさどさと、卓上鍋用ミニ木炭だの間伐木材の細かい端切れ徳用袋だの木酢液シャンプー&リンスセットだの稀少ジビエの常温保存加工品だの海産無添加ツマミの詰め合わせ大箱だのを、降ろすのを手伝って。

（さっき積みきれなかった重量分は先にちゃんと「空キタ急便」で届いていたそうだ。）

「こっち農場にくれる分？ こっちは？」

「『輪っか』のみんなで食べてー。あとこっち、『もしも寮』に持ってってくれる～？」

「おっけーおっけー。」

地上作業用の電動農場車に片手でらくらく、のっしのっしと積み上げていく。

「んでこれ。今季の作付進捗状況と品目別収量予想と、概算販売計画書～。」

「ありがと～。...はい、副社長、よろしく～。」

「...あ～。はいはいはい...」（これだよ。）

「んじゃ五時なのでアタシは上がりまーす！」

「はい。今日もありがとー気をつけて帰ってー。双子によろしく～！」

「先生も～。ゴハン食べ過ぎないで～！」

「むり！」

笑って手を振って、元気な運転手は定時あがりだ。

「...ヨシノさんは？」

「まだまだこれから！ 夕飯食ったら、夜食までまた一仕事！」

「農場たいへん！」

「なんの！ 冬に遊ぶし、シゴト楽しいし！」

...廃線に伴って人口が激減し、離農者が相次いで、広大な農地と牧草地が空いた。そんな閑散とした風が吹きすさぶ、美しく厳しい空と大地と景観だけがとりえの。極寒で辺鄙なプキパタ地区が、もともとカコさんの「憧れの土地」だった。数年分の印税収入と、すでに軌道に乗りかけていた『パペル庵』と作業所群の、社運をすべて傾ける勢いで、土地をどかっと、まとめて買った。

幸いなことに、映画と漫画化と海外版權とで、かなり儲かっていた、時期だった。最初に、虹寮と月寮を建てた。

「性別不詳とか～、トランスとか～、同性愛者とか～？」

街中で、ふつうの就職がなかなか難しくて、採用されづらくて。

生まれた土地でも暮らしづらくて。

でも、「夜の仕事」（水商売）には、心身が、合わなくて...

という、人たちを。

「大雑把でいいから、カラダとココロの状態？別に～。」分けて、居住棟を区分して。

「性別いろいろ」系の人たちがグラデーションを描いて、半円状の「虹」寮に住んで。

「同性大好き」系でカラダは女性の人たちが、お向かいの半円状の「月」寮に住んで。

「同性大好き」系で肉体的に男性の人たちが、ぐるりを取り囲む「金環」寮に住んだ。

(ほんとは「金環蝕」って書くんだけど、「蝕」は「職」に表示変更されてる)。

三つまとめて「円環寮」（通称：『輪っか』）の人たちは、それぞれの適性に合わせて。農畜業・加工業・通販&経理事務・調理&接客&販売...エトセトラエトセトラ...の、パペル社の各種直営事業の仕事に就いてる。

もちろん、空キタ便の配送員もいる。

その真ん中に、『もしも寮』を建てた。

介護と保育のスタッフも移住して来た。

金環職員の一部は、正式に「自宅警備員」という名のガードマン業務に就いた。

(だって、母子と老女だけの施設を、荒野の真ん中に...って、色々と、危ないからね...?)

一部、「性的少数者を商業利用するな！」的な、

反対の声も上がったらしいけど。

住んでる人間が。生きやすくて、働きやすくて。

ご飯が美味しいから...

...いんでないかい...?

*

農畜部門総責任者の通称「ヨシノ」は、元は水商売あがりて本名は吉野清次だが。

カラダは変えていないので、ガタイはかなりいい。

前は自分の体が大嫌いだったが、パペルで農業に就いてからは、持って生まれた性別特性...筋

力が強い！...が、肯定できるようになった。

自分ではいわゆる「心は女」系だと思っているが。

無理して「女言葉」を使って、似合わないのに、無理に化粧して。

不自然にきわどいミニスカはいて。筋肉だらけの細い腰を振って歩くのも、
「自分らしくない」と思う。

今どきはみんな「自然に女に生まれた系」の人たちだって、働く時にはパンツスタイルが多いし。「だわ」だの「なのよ～」だの、無理して言わないし。

化粧だって...

「すっぴん派」もありアリだ。

ただ、自分には、「男らしさ」は、強制しないでほしい...

(見ためは、マッチョだけど！)

女性と、恋愛とか結婚？

...も、ちょっと、無理...。

で。

結果として、人間関係は、...苦手。

夜の水商売は、ほんとうに苦手だった。

でも他の就職も、いろいろ難しかった。

パペル社で「性別あいまい系のかた優先」で、「農業従事員」の募集を開始した時。

一も二もなく、参加した。

だって、実家は農業だった。

跡を継げない、次男だったけど...

「おめえなんかオカマは、おれの息子じゃねえ！」と。

...絶縁された。けれど...

畑仕事は、好きだった。

牛や馬や豚の世話も、大好き。だった...

就職して。

パペルの実験農場で、最初に採れた芋を...

実家に送った。

「うまかった」と、親父から。

無骨な手書き文字の、ハガキが。届いた...

一〇・ 校閲者： 佐賀 野絵瑠（さが・のえる）の陰謀。

「たっだいま～！」

へろへろのにここにこで、ようやく主様が御帰還だ。

「おっかえり～！」

すでに出来上がっている気の早い酔客どもと、まさに夕飯をかつこみ中の空腹餓鬼連中は、そろって歓迎の声を挙げた。

「はいこれ今日のお土産～！」

「...うわ、今日もすげええええ！」

「どれどれ... うほおうおおお！」

「...カコさん、すぐ食べますか？」

「着替えてくる～。十五分後に戻る～！...予定っ」

「了解っす！」

パペル塔のメイン食堂の朝・昼の平日週五日は主任調理師にして栄養管理士資格その他もろもろも色々保持する大学家政科出の才媛にして定番和食とアレンジ和洋食をメニュー展開の基本に据える、佐藤和子の担当だが。

平日午後十五時以降のいわゆるアフタヌーン・ティータイムから夕食・夜食の時間帯にかけてと、土日祝の朝昼晩の終日は、敷地内併設の一般&宿泊客向け直営レストランから交代で調理要員が派遣されて来る。

初めのうちこそ、「寮住み社員の休日ご飯と、平日夜の呑み兼用めし...。要するに、まかない？」と考えて、下っ端が交代で担当する、「新人の仕事」と考えられていたのだが。

早々に、その新人たちが泣いてギブアップして、『変人だが名人シェフ』として知られるレストラン『爆』（ハゼル）のオーナー店長たる近重（このえ）師匠を呼びつけた。

「...だって！ こんな凄い稀少な絶品、おれが料理したら台無しにしちゃいます～っ！」
と、いうわけだ。

一般読者層の最大多数派からは人情地元エンタメ小説の主役の名前をそのまま使って「ウマシカ先生」と呼ばれることが一番多いカコさんは、なにしろ人気者だ。

島内半周旅行（と『視察』は呼ばれている）を回って帰ってくるたびに、何やかやと地元の人から「漁師飯のタネ」だの「今朝うちの山林で採れたて」だのの、貴重で稀少な食材を、山ほど貰って帰る。

幻の魚！とか

幻の茸！とか

超高級！黒豚の、自家製できたてハム！（試作品）とか、

非売品や秘蔵品や、密造品？の、

アレやこれや...

...まあ、そんなものを、...色々だ。

タダで贈って頂いた御好意の品だから、いくら稀少で高価であろうとも、一般外来者向けのレストランで、高値をつけてお客様に売るわけには、いかない。

...と、というのが、カコさんの主張で。

基本、社内のみみんなで、通常の「定額徴収食費」（お代わり自由）の範囲内で。

ふつうに毎日のご飯の一環として。

ありがたく頂く。

「...うっわあああああああ！」

今日の食材は何だろう。何やらとても美味しそうな匂いがするが。

美食、などという余裕や贅沢とは、ここへ移住するまで無縁な生活を送っていた、地味に激務で薄給の校閲者・佐賀野絵瑠（さがのえる）は小鼻をひくひくさせた。

長らくポンニ島国の首都・宝京（ホウキョウ）で校閲専門会社の外注職員として部屋に引き籠もって、ひたすら各種多ジャンルの文章を、赤ペン握って読み続ける、という仕事を担当していたが。

職場にはひた隠しにしていた、秘かな趣味は...

同人誌で。

嵯峨野エル、の筆名で、美味賜エンタメのイケナイ同性恋愛作品の数々をネット上梓や港湾販売していて。

けっこうな読者数は誇っていたり、...して。

じつは職業校閲者が同時に出版社公認ファンクラブの零ナンバー持ちの重鎮オピニオン・リーダーにして、同時に熱烈ストーカー級のいけないファンジンの隠れ発行者にして、触法すれすれの危険な同人作品の上梓家でもある。という事実が。

うっかり発売直前の新刊の内容をパロった作品を、一日早く（正確には、わずか二十二時間だ...!）、間違えて公開時間を設定、してしまった。

という痛恨のミスによって、発覚...

職場雇用主と直属上司と出版社法務関係者と担当編集者と編集長と。

さらには作者本人と、その著作権管理人などが、ずらりと居並んだ...

『お白洲の場』で。

リアル本人の目の前に、ずらずらと、いけない作品の、うっかり直視したら恥ずかしくてたまらない絵柄の表紙を、...山ほど並べての。

事実関係の糾弾には、及ばないで欲しかった...

完全に逆恨みなのだが、今でもその時の全身高熱発火寸前の恥ずかしさは、夢に視ては飛び起きて悶絶しているくらいだ。

「...えへ♡」

と、その時、ウマシったら笑ったのだ！ 嬉しそうに！

「ファンで一す♡ ご本人様に、お目にかかれて嬉しいで一す♡」

がたがたがた...★

と、周囲のごくごく真剣にしまっとうな怒りと、真摯な...職務上背任行為？ 賠償請求？ 訴追？ ...という、撃墜斬殺モードを、総崩れに、してさった。

「エルさんには、かねがねお願いしたいコトがあったんで一す♡

今度、正式に、ウチのスタッフに、なってくれませんか～????」

憧れの。

ひそかに、熱愛した。

あの、キャラたちの...

作者に。

スカウト... されたのだ！ じきじきに...！！

狂喜乱舞、したのに...

結局、ひそかに勇躍して、トキメキながら移住。

してきて、見たらば...

社内幹部複数から嚴重監視の元、脱法違法行為は厳に戒められて、破ったら即退社退寮&巨額の賠償請求、という脅しを突きつけられて念書にサインも拇印も獲られた。上で。

ひたすら、美味賜の新作を校閲し続ける。という業務内容はまったく変わってなくて。

ひたすら、一室に籠って。

めったに、ウマシ本人の顔なんか... 拝めなくて！

(多くても一日...二回？ 一回、五分か...そこら？ が、せいぜいだ...っ)

完全に逆恨みなのだが。

嵯峨野エルは、もうひとつの担当職務である『美味賜デビュー三十周年に向けた総作品リストと総登場人物名簿と総合年表エトセトラ+パペル社史』編纂、という任務の傍らで。

ウマシの恥ずかしい顔（超・豪華めし食事中的！陶醉のあまり崩壊顔！）写真を...

ひそかに撮り溜め。している。

いつか...

いつか。

大公開、してやるっ

この、恥ずかしいエロ顔の...

老女の、ばか喰い写真っ！

「...また撮ってますよ〜？」

「...ま、好きにやらせておけ...」

監視スタッフからは面白がられて、泳がされているだけ。とは。

本人は、気づいていない... w w w

『独身女が 集団で』 (第二稿・3) (2020年01月02日)

転・ 本日、沈没。

十一・ 秘書嬢： 細沼甲斐子（ほそぬま・かいこ）の青天霹靂。

細沼甲斐子の名刺の肩書きには一応「秘書」と記してある。

主な担当業務は、押し寄せる大量の執筆依頼や取材申し込みやらインタビューやら出演やらへの打診を、締切と枚数と要望ジャンルと対象読者層と、原稿料や出演料やの有無と多寡と、期待できる出版後の印税収入額などなど別に解り易く分類列挙して、リストアップしてプリントアウトして、カコ先生に渡して。

書くか書かないか、出演するか否か、まだ検討中か？のマルバツサンカクや質問事項を赤ペンで（手書きだ！）記入してもらって。

きちんとしたビジネス文書に意識や超訳？して、返答や、時期の調整を引き受けたり。

確約した分の締切日と枚数とジャンルと対象読者層と、つきあいの浅い出版社や編集部の場合には、担当編集者への連絡先や手土産に望ましい品目リストや、既存刊行物の傾向やら初版発行部数やらやらを、リストアップした上で。

逆算して、「早めの執筆開始予定日」を設定して。

執筆部屋のカレンダーに、大きな字で（手書きだ！）記入しておいたり。

取材や出演に要する移動所要時間や、事前事後の周辺観光スポット情報や宿泊予約候補地までも含めた日程案を作成して、スケジュールを管理したり。

一応完成して渡した原稿の校了日を把握した上で、専任校閲係との赤修正やら何やらのやりとりの、日取りと受け渡しを調整したり。

はたまた締切延長の調整依頼や、ドタキャンの謝罪役を引き受けたり。

原稿料の振込日と予定金額を事前に把握して経理部に報告したり。

カコ先生の「経費分の領収証」を整理して、経理部に申告したり。

馴染みのない出版社との初顔合わせや無関係なイベントの際を狙って急襲してくるアポ無し突撃取材の傍若無人な雑誌記者などから、人見知りのカコ先生をガードして救い出して、無理な契約や出演依頼やを押しつけてくる輩にはきっちりお断りして「法務を通せ！」と突っぱねてみたり。（実はこっそり護身術も習っていたりするの、先生には内緒だ。）

予定を忘れてお寝坊してたら部屋まで起こしに行くし。

頼まれれば散らかった執筆資料の整理収納や、簡単な掃除なんかも手伝うし。

寂しがっていればご飯も一緒に食べたりするし。

私室に「お泊り」なんかもたまにして、眠くなるまでの話し相手を務めたり、するし。

取材や休暇の旅行のお供をしたり、頼まれれば切符の手配やホテルの予約や、カコさんがアバ

ウトに立てた海外旅行の日程が実現可能かどうかのチェックを本職に依頼したり。

引き受けた取材や講演会やの前には、日ごろ身だしなみにほとんど構わないカコ先生の、こっそりボタン付けやほつれの繕いやなんかもしておくし。臨時のスタイリストと化して緊急で出演衣装の買い出しに走ったり。靴の修繕や磨きを頼んだり。

他に専門のプロがいなければ、ヘアメイク役も引き受けたりなんかする。

まあ、雑用係で。

本人はファンタジックに、「おつきの者」でございますと、自己紹介をしている。

*

次の予定の書きおろし単行本の出版社との打ち合わせは明後日に決まった。

...ということは。

「今日と明日は完全オフ？」と、目を輝かせて、カコ先生は笑った。

「そうなりますね。」

「じゃ、お風呂いこ〜っと！ ...一緒にどう？」

「お供します！」

「んじゃ一道具もっといで〜。十五分後に玄関集合〜」

「はい！」

こんな場合、カコ先生が日帰り入浴施設の意味で「お風呂」と言うのは、徒歩五分。

パペル塔の地下駐車場通路をまっすぐ抜けるか、その上に広がる地上庭園をつっきるかで簡単に到達する、自社直営施設である。

ふつうの「お風呂」は「男・女」の二種類か、多くても「家族風呂」という小部屋風呂が併設されているくらいだが、ここのお風呂はちょっと変わっていて入浴エリアが六つある。

「カコ専用」というのが屋上階のペントハウスの的に設けられている。

地上階と二階部分は、縦にケーキ型に区切られて、

「一般女性・女性系・中間・男性系・一般男性」の、五つのエリア別。

自己申告制だと絶対に痴漢だのセクハラだののトラブルが多発するので、中三つのエリアを利用できるのは「輪っか」寮の住人か、その連れだけだが。

他の（大き目に造られている）「一般」二つなら。

地元民や観光客や、カコ先生の「聖地詣で」に来た熱心な読者の皆さんも、

もちろん利用可能。

あいにくだが、天然温泉では、ない。

カコ先生は大の温泉好きだが、あいにく、出るか出ないか判らないものを（確率的には低い地域だと専門業者さんからは言われた）、闇雲にボーリングしてまわるほどの予算の余裕は....、無かった。

その代わりに、敷地の外れの丘陵地帯の既存の農業用水の横穴井戸からパイプを引いて。

農場と牧場エリアの境目にある堆肥発酵施設の熱い屋根の下をぐねぐねと折り曲げてパイプを

通して加温して。

水温五十度ほどに温まった茶色い植物泉を「天然水の沸かし風呂」にした。

入湯料は普通の銭湯よりちょっと高いくらいか。

地元にも観光客にも、密かに人気のスポットだ。

「...あ〜。生き返る〜♡」

カコさんはざくざくっと洗髪とシャワーだけ済ませると、どぼ〜ん！と寝湯に転がった。

「カコ専用」スペースは、本人と一緒に、本人の許可をインカムで確認しない限りは、他人は利用できない。

ひとり分サイズの浴槽が高温・ぬる湯・水の三つと、寝椅子が二つあるだけの、小さいスペースだ。

お空が青い。

「...い〜ね〜。幸せだね〜...♡」

「ですね〜♡」

カコ先生と、うまくやっていくためには簡単なコツがある。

よけいなことは喋らない。どうしてもいい自分話や、他人の噂は、なるべく少な目に。

大事なことには必ず相槌を打つ。

「いいね」

「美味しいね」

「可愛いね」

「かわいそうだね」

「素晴らしいね！」

なんてキーワードが出た時には、タイミングを逃さず、かならず反応だ。

(自分の意見と異なっていると思う時には、きっちりと反論するのは可。)

「...あ〜。幸せだな〜...♡」

カコ先生は、もう一度しみじみと呟いた。

...その、時。

*

「...あら？」

甲斐子は一瞬、自分が貧血かなにかで眩暈を起こしているのかと思った。

ぐらっ...

「あれっ?!」

カコさんが素早く立ち上がった。

「あら... えッ? 揺れてますッ??」

「揺れてるッ！」

びい〜〜ッ! びい〜〜ッ! びい〜〜ッ!

聞き覚えのある、不吉なサイレンが響いた。

『緊急地震速報です！ 間もなく強い揺れが来ます！』

「うそッ！」

...数秒と待たず、本震が襲い掛かった。

...揺れる...

揺れる！

「つかまって！」

「カコ先生ッ！」

揺れる！

...数分は、続いただろうか...

お風呂のお湯が、津波と化して、数メートルもの水しぶきを立てて、跳ねる跳ねる！

階下から男女と子ども性別不明をとりまぜて、各種の悲鳴と絶叫が響き渡っている。

がつーん！

がちゃーん！

ばしゃーん...！

がしゃーん...ッ！

悪夢かと思った。

甲斐子は恐怖で涙が出てきた。

お風呂のなかで、ちびったかも、しれない。

数分して、揺れは...

とりあえず、大きいのは...

...収まった...???

*

カコ先生が、まっばのまま、だだっど駆けだして、内線電話に駆け寄った。

備え付けの、非常用インカムを素早くはずして手早くかぶって。

余震で揺れても飛ばないように、しっかりと、ヘッドバンドをかける。

...の、一連の動作と同時に、びっくりするくらい大きな声で。

「みんな無事ッ？ カコは無事ですッ！ 避難手順に従って行動してっ！」

ポーシャ毒測定班！ ただちに安全確保の上、大至急、状況報告願いますっ！」

...大変な、日々が始まった...。

びい〜〜ッ！ びい〜〜ッ！ びい〜〜ッ！

聞き覚えのある、不吉なサイレンが響いた。

『緊急地震速報です！ 間もなく強い揺れが来ます！』

嵯峨野 景（さかの・けい。旧名：景子。）は、飲みかけの熱いお茶をあやうく噴き出しかけた。

...いや、むせこんでる場合じゃないッ！

死ぬ気で咳をこらえて、インカムに飛びついた。

『空キタ便！ 全機、緊急浮上！ 安全確保！』

滅多に使わない全機一斉開放ボタンを、正確に押せて良かったと安堵するのもつかの間。

...揺れた！

言語に絶する... 揺れだった。

まず小刻みにカタカタ揺れた。

それから横にゆさゆさ揺れた。

(...大きい...！)

と、思って体を両腕で机の下に固定しながら、様子を見ていると...

縦に。

ガン！ と、...

突き上げられた...！？？

それからはもうジェットコースターかと突き嘔いするような。

笑ってたら舌を噛みそうな...

地獄のような...

あれこれ倒れたり飛んだり、崩れたり落ちたり割れたり。

...でも。

まだ、本社の建物自体が壊れるほどじゃ... ない？

震源は、けっこう遠い。（たぶん）。

それでこれだけ、揺れた。（...おおごと、だ...！？）

...揺れがとりあえず収まった...？ 時には。

思わず、安心？して。

気が遠くなりかけた...。

*

「みんな無事ッ？ カコは無事ですッ！ 避難手順に従って行動してっ！」

...すげえ。

...カコさん、すげえ...。

ちょっと涙が出かけた。

いやいや...

感心してどうする。

七十過ぎの御高齢者に、敗けてどうするよ...

オレ！

「空キタ便！統括、嵯峨野景、無事です！ キタ本社一階、損害軽微！重傷者ナシ！

空キタ便！全機応答願いますッ！」

非常回線の全社開放で報告だけして。

途中からキタ内線の双方向通信に切り替える。

『空ビット一号、鹿毛妙子、無事です！ 配達先に向け飛行中！

目標家屋が損壊してます！ 人影あり！ 手を振ってますっ！

このまま救援活動に移ってもいいですか？』

『安全確保最優先！気をつけて行動して下さいっ！』

『了解ですっ！』

そもそもが、空キタ便は、前の全島震災の時に。

あっちもこっちも道路も鉄路も墜ちたり崩れたりしまくって交通網が遮断され過ぎて。

とり残された人たちへ、せめて食糧だけでも、急いで届けたい！...と。

救援活動のためにカコさんが緊急レンタルした車体を。

ボランティア運転手とクラウド「ふぁんさいと」からの供出物資と資金とが支えて、運用しまくって。

いざ事態が収束して機体を返却しようと思ったら、飛ぶには支障が無いんだけども...細かい、傷だらけで。

「これ返却受領するなら多額の修理費用請求が発生しちゃいますよ？」

と、営業マンに...困惑された...

ので。

それくらいなら！と、開き直ったカコさんが、そのまま長期リースに切り替えて。

急遽立ち上げられた...という来歴を持つ、事業だ。

配達員はその時に救援ボラで動いていた人財が多いから、話も反応も速い。

ついでにみんな、カコさん原作の漫画『奔れ！国際救助隊！』の大ファンだ。

良かった...

『空ビット七号機、小破！ 飛べます。

鈴木美恵子、軽傷です。

配送完遂の上、状況判断して動きますっ』

『了解。慎重にお願いします』

『空ビット十三。遠野了子、無事です。

ポッポロ上空。何か所か煙が上がってます。酷いです...

...家族が心配です。一旦離脱していいですか？』

『気をつけて！』

『はい！』

次々に報告が入って来る。ありがたいことに死者も重傷者も大破もなし。
緊急電源が入ってPCが復活したので。
直通無線で繋いで。
緊急時連繫出動契約をしている消防庁の、救援要請者の分布画面を、急いで開く。
...真っ赤。だ...。
一面の、救援要請記号と。
高速で移動中の、緑の救急車と、朱色の消防車。
...無理だ。
市街地だけで、正規の消防署の対応は、手一杯だろうと思う...。
数点、青く輝やいているのが、救援参加宣言を済ませた空ビット号たちらしい。
遠隔地、へき地、辺境郊外への。
応急配送。こそを得意とする、われらビット...！
...全員、無事で、戻ってほしい...！
...一人でも多く、生かして、救出してほしい...！

*

...さて...！
飲みかけだったペットボトルのお茶のキャップを。
無意識に、ちゃんと閉めてた自分に気がついて、ちょっと笑った。
すっかり冷めてしまっていたけれども、緊張しすぎた喉にはちょうどいい。
一口飲んで、体の震えをなんとか収めて...。
...また、長期戦になるぞ...！
気合を入れろ、オレ！

十三・ 技術者・田中真理（たなか・まり）の阿鼻叫喚。

パペル塔の『オキタ館長』は名前つながりの半分冗談で任命されただけの小柄で小太りの昼行燈な、実直誠実だが真面目過ぎてお堅くて融通の利かない、ごく普通の一般中年女性だと、思っている観光来館者や末端スタッフらは多い。

実は元職が、ポックル島国『護島隊』のプロの凄腕の救援レンジャーで。

じつはカコさん命名『自宅警備員』なるパペル全域のガード業務スタッフに、武術や捕縛術を指導しているのも、この人だ。

元職場内の男性中心社会の真ん中で、酷い性暴力に遭わされて。

不正やセクハラやの数々をもまとめて告発したら、嫌がらせで退職強要されて。

裁判で闘って敗けて。

心身ともにボロボロになって路頭に迷ったところを、人権的立場から裁判の支援者だったカコさんに拾われた。という経緯は、意外に知られていない。

*

敷地内施設管理全般の通常業務を職分とする、堆肥ボイラー温度管理主任にして自家発酵メタンガス燃焼発電機整備技能士も兼務の、ごく普通の『農業副産物等総合転利用技術者』認定国家資格保持者の田中真理は。

「ぴぎゃあああ！」とひたすら叫びながらしがみついていた机の下から、ようやく這い出して来た。

すでにオキタ館長はインカム装着済み。『非常即応』態勢バッチリ。

カコさんの声に応えて素早く「こちらは全員無事」の報告を済ませて。

状況把握している。

「震源... ハッカシヨ村？」

「えっ？」

「ポッポロには、津波は来ない予測と。」

「ふああ」

「ポーシャ毒、震災か？ ...またか.....！」

「嫌〜！」

「泣いてる場合じゃないぞ田中！」

全館非常時仕様！ 地下ダンジョン開放と、避難者収容の準備！」

「はいいッ！」

のそのそと這い出して、こぶしで涙をぐいと拭き、垂れて来る鼻水をすすりながら。毎月のしつこいほどの避難訓練で。

何度も、手順の確認だけはしてきた、緊急用の機材を取り出して...

震える手をなだめながら、なんとか的確に画面を開いて、ボタンを押して行く。

『 パペル塔と寮の地下は、ダンジョンになっている。』

本当の広さと構造は、誰も知らない。 』

...というのは、よく知られた都市？伝説で。（カコさんが面白がって広めたのだ。）

普段は本当に、ただの娯楽アトラクション用の「迷走迷路」として。

観光客や「聖地」訪問のファンの人たちには有料で提供されている。

カコ先生の原作マンガやアニメのキャラの絵柄の、記念撮影用の等身大ボードや。

探索用懸賞クイズの、ヒントや案内の画面が点在している、

その地下の...

廊下の。

壁に埋め込まれたドアをスライドして開けると、

中は非常用の、頑健な避難者滞在個室になっている。

一部は平常時から一般宿泊者にも『避難体験訓練』名目で、
有料で、泊まれるようになって。
地元の人には、自治体を通じて、ひそかに通常時から、周知はしてある。
災害時、家が壊れた人は...
パペルの足元へ。
と...。
がこん、がこん...と、軽い震動音とともに。
地下ダンジョンの隔壁が、上がったり下りたり、斜めに移動したりして。
震災時・長期耐久仕様に、変更されていく。

*

入浴中だった休日スタッフや客たちが、ぼたぼた水滴を垂らしながら。
とりあえず服だけ着たり、服のロッカーがどうにかして開けられなくなったのか、浴衣のよう
な貸出館内着や大判バスタオルだけ、羽織った姿で。
がくぶる涙目で膝が笑っていて、それでも職務熱心な当番スタッフたちに誘導されて。
ぞろぞろと、地下に向かう映像が...
目の端の安全監視カメラに映る。
「食糧その他、備蓄状況は良し！ 敷地内設備、地上地下ともに大破はなし！」
「空ビットがもうすぐ人を連れてきます！ 受け入れ対応お願いします！」
「了解」
カコ先生...ウマシカ先生と、...オキタ館長が。
小説や漫画の中のように、カッコよく冷静に。
事態の收拾に、当たってくれてる...。
田中真理は、ぐちゃぐちゃになっていたポニーテールをぐいと縛り直して。
どうにか探し出したティッシュボックスからペーパーを山ほど引き出して涙をふき、鼻水をか
んだ。
大丈夫だ...
今度も、きっと。
きっと、何とかなる。
何とかなる...！

十四・ 林業者： 狩野愛子（かのう・あいこ）の選択。

「まさか、そんなことは、な～...い、...よね...？」
とは思いつつ、気にはしていた。

ポックル島国の対岸というか、ごく狭いプガル海峡を挟んだお向かいというか、お隣の島のポンニツ島国のプツ湾岸には、巨大な幻動発電所がある。

ポンニツ三島のエネルギーを賄って余りあるとかいう超巨大な幻発ネットワークは。電気を使えば使うほど、ポーシャ毒、という有害な副産物を出しまくっている、らしい。このポーシャ毒は自然分解するのに何百万年という長大な時間がかかるので。

人工的に時短解毒の方法が開発されるまで、ということ。

とりあえず、一か所に集めて埋設保管をしていた。

一カ所では収まらなくなったので、次々作って。

現在では八カ所に、巨大な穴がある。

その、巨大なポーシャ毒ゴミ埋め場の、ハッカシヨも、ある村が...

地震や津波に、

遭ったら。

風向きからして、主な被害は、直後に、ポックル島国のほうにくる...

さらには、往時のポンニツ（旧統一）島国政府が。

ポックル島内の、さらには、何をトチ狂ったのか、首都ポツポロ市のすぐ近郊に。

同じくらい超巨大な幻動発電所を、建設して、しまった...

「安全です。安全です！」という大宣伝の、影で。

有害なポーシャ毒が、ひそかに撒き散らされていた。

次々に...

死者と病人と、障害を持って生まれて来る、子どもたちが相次いだ。

...せいで。（だけ？というわけでもないが...）

怒れるポックル島民が全島を挙げて立ち上がり。

比較的短時日のうちに、無血で。

ポンニツ（統一）政府からの絶縁宣言を出して。

ポックル協和島国、として独立国となった。

...その経緯の話は、この際、置いておくとして....

*

ポーシャ毒素は、いちど憑りついたら、なかなか取れない。

分解できない。解毒もできない。

生命全般に有害で、病気になるし、死にもする。

以前の...若い人はもう覚えていない世代がほとんどだが...ポンニツ本島を襲った大災厄では。

多くの農地や山林や野生の動物や家畜や、人間が...

飛び散ったポーシャ毒の、犠牲になった。

今でも、その傷跡は、完全には癒えていない...と、聞く。

それなのに...

前々から、カコ先生や、地震予知とか災害対策に関心の高い人たちが。
「あそこは危ない危ない」と、騒いでいた。
まさにその場所が。
今回の震源らしい。
ポックル島とポンニツ島のちょうど中間の。
海峡湾内のごく浅い場所で、超・巨大発震。
一も二もなく幻動発電所の建屋と、ポーシャ毒ゴミ捨て穴の、もろい護岸は崩れ去り。
そこへ次々と...引いては襲いかかる...
多重津波が。覆い尽くした。

『 原型を留めず全てが海の下に沈んだようだ、
まるで伝説の悲劇アトランティスのように... 』
と。

普段はカコ先生のエンタメ作品の熱愛ファンクラブ活動をしている「ポーシャ毒監視班」の。
最寄りの地域の測定班の人々が。
超望遠レンズで、対岸から撮ったという画像を、全世界に公開した。
地球上すべての人々が、現在ちょっくら「ポーシャ毒パニック」中らしい。
...それも、気持ちはワカルが...

*

もっか当面の、自分たちの、火急の、焦眉の、喫緊の...
問題は。
...と、実家の稼業の伐採専門林業従事者という、跡目は継ぎつつ。
業態変換して、育林中心...それも有機林業で...
再生産可能な、持続的地域産業へと。
夢の実現に向けて、着々と地歩を固めていた...
狩野（かのう）兄妹は。
涙目でニュース速報を観ていた。
幸いまだ晴れているので太陽電池で充電しながらだ。
家と事務所はものすごく揺れたけど倒れはしなかった。
家族と親戚と友人と知人と、職員関連その他も含めて。
地元には、大きな損壊も死者も重傷者も出なかった。
乾燥中だった木材山も、崩れたけど折れたり割れたりはしていない。
むしろ災害復興に向けて建築資材の需要と価格は高騰が見込めるだろう。
...ただ。
明日から、この地域には、大雨が降るという。
まさに、ポーシャ毒が絶賛噴出中の、ポンポン湾から、

雲が...

津波で海没して、水中で幻滅現象を起こして。

烈火妄想崩壊劣化熱で。

ぼっこぼこに沸騰している...

海から。

雲。というより水蒸気爆発的な？

ものすごい、煙柱が...

沸いて、蠢いている。

最中だと、いう...

*

「...みなさん無事ですか〜？」

「うましか先生ッ！」

「...カコです...」

午後遅くなってから、パルパレ有機林業帯発足準備基金の支援雲集団の筆頭募金主たるウマシカ先生が、電話をくれた。

全員無事、と状況をざっと伝えと、

「ああ良かった！」と心の底から安堵した笑顔で、言ってくれつつ。

カコ先生の緊急連絡の主眼は、そこじゃなかった。

「明日から雨ですよね？」

「はい...」

「森、守りたいんです。」

「はい...」

「用意してあったものがあるんですけど...」

副作用というか想定外の副被害も、出るかもしれないんですけど...」

「...はい？」

「試してみても、いいですか...??」

*

とりあえずお願いしますと言ってみたら、一時間も待たずに、空飛ブーツ号と僚機が連れだって、ぶんぶんぶい〜ん！と飛んできて降りてきた。

「今から〜、森の上に〜、天幕を張りまーす！」

「はいい？」

「こっちのブーツ号と〜、あっちの子ブーツ号で〜、...こう？」

実は自分もまだよく理屈は解っていないらしい運転手の富田さんが、渡された簡単な図面を開

いて、作業予定を説明してくれる。

二機の飛空車のあいだにロープというか穴の開いたホースを張って。

よくある、広い田畑の上空から農薬散布をするのと同じ要領で、「泡あわ幕まく」の希釈液を散布するという。

「作業手順は～。大丈夫です！」

さっきパペルの屋敷林でも、同じことを～、小さいやつでしたけど、実験済みです！」

「...いわゆる『煙タイソレイヤ』の逆版... いいもん成分のやつってことですか？」

「ポーシャ毒の、ヒバク直前のユース剤の予防対抗服用、的な...？」

「噴霧と違うんです。」と、仔ブータ号の運転手の前田園美さん。

噴射された薬液が、空中で酸素に触れると、あっというまに爆発的に広がって固まって。

何というか、プチプチシート？のような多層構造の、軽いけど頑丈な多層膜状になって。

広く山林の上をビニールハウスのような形に、数キロ平方単位で覆ってくれるという。

「カコ先生が～、言うには～、初期被毒を避けられると～、予後がかなり違うと～。...？」

「一ヶ月ほどで幕は自然に融けて消えるそうです。素材はトウモロコシの茎とジャガイモの皮なので、生分解性は高く、環境負荷は少ないはず、と」

前田さんのほうが比較的専門的に、説明を補足してくれる。

「想定される副被害としては、融けるまでの約一ヶ月のあいだに日照と呼吸を妨げて、植物を枯らしてしまうかも知れないこと。

それでも推奨したい理由は、葉と表皮と土壌を、直後の直接の汚染から、かなりの確率で安全に防護できる可能性があるということ。...だそうです。」

有機林業計画の関係者一同、三分間ほどだけ。

額を集めて協議した。

ウマシカ先生が言うことだ...

試作品でも、トライする価値はある...

なにより、日暮れがもうすぐで。

飛空車は安全に飛べない時間になるし。

それまでに作業を終えてもわらなきやならないし。

それより一刻も早く人命救助活動のほうに戻って。

ひとりでも多く、救ってあげてほしいし...

「お願いします！」

プロジェクト言い出しっぺにして最年少者の狩野愛子が。

代表して、ふかぶかと頭を下げた。

「ぶい～ん！」

「かっこいいとは、こういうことさ♡」

とか、二人してポーズを決めて、にやっと笑って。

空飛ブータ親子号は、すぐに元気に発進して、小一時間で。

無事に任務を終えた。

十五・ 補佐役： 鷹野王也（たかの・おうや）の煩悶。

「パサミカワ農場のドームハウスは無事だそうです」

カコ先生が言った。ああ良かった。

「作業所事務所は損壊したそうですが、人は無事。資材も野菜も無傷。」

ヨシノさんがぼやいた。

「ツキパタも、素直にドーム化しておけばよかった...」

「今からします。」

「へ？」

「とりあえず応急の仮設措置なので、台風級の強風が来たら破れますが」

「ほえ??」

あくまでも、『天然の太陽と雨と風』という厳しい北国の気象条件の下で。

完全無農薬・不耕起有機栽培...は、現実的には無理だが。

なるべくそれに近い...理想に近い農法がやってみたいと。

こだわっていたヨシノ以下主要メンバーが、反対し続けてきたせいで。

いままでパペルの敷地周辺に広がるプキパタ農牧場の、広大な田畑と山林は。

雨ざらしで吹きさらしの、天然の。

大地の上、空の下にあった。

「冬季休業中の収益性が～★」とかで。早期全面ハウス化を熱烈希望する副社長らはじめ経営効率最優先したい勢との間では、喧々諤々の応酬が繰り返されてきた。

「このままドームハウスで定着するかどうかは、今回のポーシャ毒災害の騒ぎが一段落してから、また落ち着いて話し合うということで... いい？」

「...っす。」

第一陣の大雨災害が降りかかって。

農地と生育中の作物すべてが、激烈なポーシャ毒にまみれてからでは...

遅い。

ヨシノさんは少し哀し気な眼をして、覚悟を決めて潔く頷いた。

*

(ああ... オトコらしいわ...♡)

心の奥で懊悩にまみれて...

呟くのは。

ヨシノと同じく自称「心はオトメ」系だが。

見た眼はハードガイだと勘違いされている、

農牧場管理補佐の。
本名は鷹野王也だ。
彼女？の恋路と
農場の明日は、
前途多難だ…。

＊

もだえる巨大な彼女？の、
わかりやすい仕種を横目で眺めて。
苦笑したり鳥肌たてたり、しつつ。
パペルの施設整備班は総出で。
無事だった電動農作業車をすべて集めて来て機材を着々と積み上げ。
素早く展開した。
消防出初式のホースの色シャワーのような。
鮮やかに輝く水の柱が立ったかと思うと。
すぐに固まって。
それなりに強度のある、風船の柱のようなものが…
出来上がる。
そのアーチを畑から畑へと何本も、一定の角度と間隔を保って、正確に…
しかけてまわる。
そのアーチ群の上から、中型の作業用ドローンが。
ぶんぶん飛び回って泡あわ膜幕とやらを噴射する。
…固まる。
「ほえ～…」
ヨシノとタカノの名物コンビは、並んで呆然と作業を観ていた。
「こんなこともあろうかと。」
カコ先生は、定番の科白を呟いた…。

＊

地下ダンジョンへは着々と、避難の地元住民が。
自家用農作業車や空キタ救援便で。
詰めかけて、来ている。

結・ 天国への会談。

十六・ 通訳業： 高原リツコ（たかはら・りつこ）の呼びかけ。

ついに【F I F S】が発動した。リアル発動だ。

これまでの、ネット上の意見交換や、あくまでも「架空の」事態を想定しあった上での、机上の空論的な対策検討案の発表会では...ない。

【F I F S】とは【S F & I F】のアナグラム...というか、「悪魔的な」逆読みだ。
その実態は。

元をただせば【S F 作家と I F 設定愛好家によるリアル世界救済計画検討会】なる、
いわゆる単なる『同人（ファンジン）活動』に端を発する。

ただし、参加メンバーはハンパじゃなかった。

不朽の名作『パリー・ホーター』シリーズの作者とその子孫たちや、名だたるハリウッド映画の監督やら脚本家らを初めとして。

S F・F T界の大御所やら重鎮やら長老やらと呼ばれる超人気クリエイターたちや。

はたまた S F（フィクション）とは無関係に、実際的な政治的発言を続けてきた著名なポール文学賞受賞者や、社会派的関心は低いのかと思われていた各国の人気エンタメ作家や、アニメ監督やら、漫画家やらが。

早期から、錚々たる名前を連ねて、検討会に参加していた。

もちろん、われらがウマシカ先生が末端に籍を置いていたのは、言うまでもない。

議題はひたすら、「今のまま放置していたら、人類と地球は、どうなるのか。

我々はどこから来て、どこへ行くのか。何が出来るのか。...いや、するべきか？

なさざるべきか？ はたはまた...??』という...

遠大な、もので。

（『...何も。なにもせんほうがええ！』というポンニツ島国からの声は、常にあった。）

しょせん机上の空論だと。

実際に命を張った活動続ける環境保護家や人権家、非暴力直接行動を主張し続けて、殴られ拷問され、殺され続けている...市井の人々や。反政府武装闘争を闘う独立革命軍人などからは、当初は嘲笑された。

しかし。

リアル発動した。

クラウド（雲）ファンディングの向うを張って、

計画名は『ネビュラ（星雲）ファンド』と発表された。

人類救済計画だ。
生命と、文化と尊厳の。
そしてできれば、現存する、全生態系の。
せめて、健全な個体が生きているうちに...
遺伝子情報の、採集と保存を...

*

はじめ、ハッカショ村が海に沈んだ、当初。
世界はそれを『人類史上最大最悪の人的災害の悪夢』と名づけて、嘆き悲しんだ。
ポーシャ毒を大量に含んだ雨や風で甚大な汚染の被害を蒙った各国政府は、ポンニツ島国政府
を相手どって激烈に非難し糾弾し。
『地球に対する罪』と称して、国際法廷で欠席裁判を行い。
天文学的数字にのぼる損害賠償請求を...
突きつけた。
国際司法警察が鼻息も荒く、ポンニツ島に乗り込んだ時。
ポンニツ政府首脳陣は、すでにすべて遁走した後で。
国会はもぬけの殻だった。
緑の衣をまとった軍部が速やかに後を引き継ぎ、実権を掌握し。
「賠償支払い義務はない！」と、声高に主張して、世界を敵に回した。
大紛糾、した。
しかし。

*

後に『炎の七年間』と呼ばれる悪夢の日々が、突如として始まった。
数々の小隕石が飛来し。あるものは地表に激突し。あるいは月面に巨大な穴を開け。
衝突回避のために結集した超常技能集団は、一般人類からは悪魔教だのサバトだの魔女だの狂
信団体呼ばわりされて、激烈に排斥された。
各地でありとあらゆる人種対立と民族紛争と階級闘争と独裁弾圧と反政府非暴力闘争と武装革
命と無政府『逃散』運動が...互いに互いを非難しあって激突し。
地震と噴火と津波と異常気象と幻視毒発電機の連鎖的暴走事故の多発と。
次々に発生するポーシャ毒霧雲やその他の化学毒物の嵐や津波や。
さらにさらにさらに...
色々カクテルされた挙句に濃縮された複合汚染の竜巻やら汚染海域が。
全地球上を、ところせましと席捲しつつ...
悪夢。としか言いようのない世界になった。

*

不思議と、一部の世界通信システムだけは、かろうじて存続していた。

生命への災害！と非難され続けた、既存の大手企業主導による6G通信網に対抗して。

『無我システム』とも呼ばれる全く新しい通信技術の民間ボランティアによる開発チームを、FIFSが秘かに資本支援して立ち上げ、草の根に普及させていた...

おかげだ。

FIFSに賛同する者らすべてに対して、生き残った無我システムを通じて、

『ネビュラ・ファンド』への全力支援が要請された。

世界が、動いた。

『 無能無策な上に、庶民を苦しめる役にしか立っていない、

各国政府や国連には、もう任せておけない！

すべての生命のサバイバルのために。

あらゆる国境も、人種も性別も、経済力も、超えて...

手を、つなごう。 』

...リアル異世界的な、本物の『おとぎ話』だと、

みんなは喜んだ。

もはや、それしか、希望が、無かった...

*

持てる者は全私財を投じて、資金援助した。

持たざる者はそれぞれなりに、おのれに出来ることを探して動いた。

すでに定着していた『宇宙旅行』（無重力高度まで往復二泊三日程度の娯楽と自慢のためだけの観光旅行体験だ）用だった超高度到達飛宙機の生産技術が。

全権利を放棄して、全世界に開放された。

世界中から技術者がボランティアで集まった。

心ある企業は、蓄積していた資材を放出した。

次々に、厳しい訓練を短期間でクリアした人々が続々と宇宙へ上り。

急ピッチで、巨大宇宙港が建設された。

名前を、『ポート・オブ・ピープルズ・パワー』...『3PS』（スリーピース）と称した。

最大二十万人ほどが、収容可能だった。

続々と移住した。

そして次々と、宇宙移住希望者のための、受け入れ居住施設の新規建設が...

終わることなく続いた。

美味賜香子社長を筆頭として。パペル社からも。

多くの人員が、『3 P S』建設に参加し、また、初期移住者に名前を連ねた。

*

ポックル・ポンニ・ポキナワ列島連邦（旧単一国／同言語圏）に対する、『F I F S』からのネビュラファンド参加要請の呼びかけ代表は、もとよりパペル社とは何かと縁の深かった、アサヒガモリ学園出身の多言語間同時通訳技能者・高原リツコが務めた。

ポン語圏内からの資金供与と技術援助ボランティアの受け入れ窓口の実務総括は、パペル社の元副社長・長野緑が補佐した。

十七・ 原画家： アルノ涼子（あるの・りょうこ）の宣言。

パペル社のすべてが宇宙へ移住したわけではない。

「あたし高所恐怖症だし～。骨も弱いし。打ち上げのGにココロと内臓が、耐えられない気がするし～。」

という理由で、パペル社のなかで残留希望を最初に正式表明したのは、原作アニメ化の際にメイン原画を担当していた、アルノ涼子だ。

「地底に潜っても、宇宙との通信網は生き残るって聞いたし。

コンテンツ産業って意味では、通信網さえ生きてれば。

今は少人数でもアニメ動画は制作可能だし。

...カコ先生やみんなとお別れするのは寂しいけど～。

...母なる地球とお別れしてまで、宇宙で生きていきたくない。...気が、するし...？」

同調する者は、案外多かった。

*

パペル社独自のプロジェクトとしては、急遽『ネビュラ』に傾注したせいで資材と人材不足で頓挫しかけていた、『プウパリ炭鉱遺跡利用巨大地下城塞掘削開発計画』に。

『F I F S』からの、公式認定支援がついた。

『プウパリ補完計画』と呼ばれた。

実際問題として、宇宙空間に全地球人類と生態系を短期間ですべて移住させきるとするのは、無理だ。

穴を掘った。掘った。掘った。

掘っては岩石を溶かして壁を造成しながら掘り進める、『ミミズ型』掘削機が大量生産されて

。

ポックル島の頑丈な土台岩盤の上を、掘り彫りしまくった。

いずれ何万年か後には、大陸移動に伴って、海底に沈むけど。

それまでの間には、地表に戻れるような環境再生技術が開発されることを、信じて...

閉鎖炭鉱プウパリ跡地の地下は。

ポックル島民の、希望の聖洞となった。

ポーシャ毒と有害紫外線と溶岩と噴石と隕石と宇宙デブリが。

雨あられと降りまくる、危険な地表を避けて。

地下交通網がポックル島内に張り巡らされた。

植物の育成に必要な不可欠な波長の太陽光だけ、反射孔を通じて地下街に導入され、拡散された

。

地下通路沿いに街路樹のようにして長く幅広い森林帯が育成された。

有機、林業で。原生態系と土壌と土壌菌をそっくり、保全して。

農場と牧場も、地下に移った。

今は公認の恋人同士？となったらしい...

ヨシノとタカノは。

二人で仲良く、地底に残留組を、選んだ。

十八・ 発明家： 土岐真扉（とき・まさと）の救済。

後の話であるが。

パペル社『もしも寮』の子どもで相次ぐ災害のうちに親を亡くしてとりあえず美味賜社長の仮養子となり、孤児優先枠で『3 P S』に運ばれた初期の数十人のうちの一人が土岐真扉（とき・まさと）であった。

彼は『3 P S』内に設けられた新設『宇宙大学』を驚異的な速さでステップ進級して最初の卒業生となり。彼のためだけに（と誇大宣伝された）大学院が急いで開設された。という伝説が今も残る。

十代前半のうちから『騎士世彼方』（きしよ・かなた）の名でSF同人活動に乱入して先達の大人たちから大いに可愛がられて引き立てられ、幅広い人脈を築く基盤となったというエピソードも、世に知られた話だが。

高校在学中からは家電や新素材の工夫発明家としても名を馳せ、旧パペル社系の若手人材と資金を引き継ぐ形で『銀河映遊 電設』と称し学生起業したのが十七歳の時。

当初のヒット作は『NEO・CHEESE』（寝落ち椅子）など中型家電製品が主体であったが。

そもそもそれらを商品化して販路を開拓するための最初の資金は、『カコ母さん』から毎月『

発明用の資材を買うのに使いなさい』と振りこまれていた『少しばかり多めのお小遣い』を『こつこつ貯めておいて』だったという話。

やがて宇宙デブリに強い外郭構造の宇宙船舶や月面居住基地を安価かつ簡易に大量に製造可能とする『ニット工法』と『ジップアップ工法』の二種を相次いで発表し、巨額の特許料を手中に収めた。

そこからが、『第二次ネビュラファンド』と誤解されているフシもあるが本質的には土岐真扉個人の発願による、『地球上全生命救済サルベージ計画』快進撃の始まりだった。

『ニット工法』で月面にどんどん居住基地を建てては売り。

『ジップ工法』で軌道上に次々と居住基地を建てては売り。

新造船群を投入して基地間に定期航路を開設して船賃を徴収し。

潤沢な資金を回転させて、

巨額の富を得て。

次には。

「自力で宇宙移住する経済力がなく、もはや締めきられた地下居住空間にも入れずに、あてもなく地表をさまよっている、とりのこされた困窮者たちをすべて。無償で。」

『宇宙に御招待する！』という計画案を...

呼びかけた。

後追い承認ではあるが、F I F Sもパペルも豪田行も、その他の著名人も既存のNGO群も、全面的に賛同支援した。

そこからは確かに『第二次ネビュラ』と言っても良かった。

大量生産で急ピッチで簡易輸送船と安価だが安全な居住基地が作られ。

地球上各地から、とにかく大量の生存者が（無償で）宇宙に運ばれた。

数十万人単位で打ち止めになるかと思われていた宇宙居住者人口が、

いっきに百万人単位にまで、増えた。

「とりあえず、『遺伝的多様性』は担保できたよね？」というのが、本人一番の喜びポイントだったらしいが。

月軌道上『L1』ポイントに位置する『3PS』と、『L4』ポイントの『月2』。

この二つの主要塞を中心に、人類居住基地は「連なる真珠の首飾りのように」

煌めいて、宇宙を賑わした。

宇宙開拓黄金時代の始まり。と、人々は賞揚し、奮起して辺境に挑んだ。

十九・ 大統領： 豪田行（ごうだ・ゆく）の統一。

お定まりのように内紛があった。

旧地表での国籍や民族や人種やはたまた思想や宗教にこだわって、覇権争いや領土紛争を、「おこしたくてしかたがない」としか思えない連中は、宇宙空間にまで沸いて出たのである。

一喝し、まとめあげた者が、やはり旧パペル系列企業も資金援助した日系人・豪田行だった。初代『宇宙生活者連合』大統領に就任した。薄氷ではあるが、平和と平等を目指す統一法治体制が始まった。

*

この頃になると、初期移民はみなかなり老いてきた。

しかし医療の進歩も目覚ましく、高齢者といえども可能な限りは長く働いてほしいと、健康状態は常に管理され保全され健康長寿命化が図られた。

「...ETか、ヨーダ様のような、外見になってしまった...」

カコさんは最近そう呟いては、周囲の高齢者仲間の定番の笑いを取る。

宇宙移住の際に背骨と神経を痛めて歩行が不自由になり、外出する際にはもっぱら自走式車椅子が頼りだが。

まだまだ頭も心も健在で、発行間隔はやや間遠になりつつあるとはいえ、人気シリーズの新刊や続編は断続的に発表されており、ファンたちは新旧とりまぜて、

『長寿と繁栄を！』という季節のカードメールを雨あられと贈ってよこす。

とはいえ、櫛の歯が欠けるように、かつてのパペル全盛期の重鎮スタッフたちは、そろそろ静かに、表舞台から姿を消しつつあった。

*

月の重力に釣られて移動する『3 P S』では、真上から見下ろせる地表のポイントも、それにつれて移動する。

母国の真上を通過する時には、民族系飲食店ではリアルタイムで画像を床に投影して皆で集まって懐かしむのが新しい習慣になった。

月面にもそれは転送された。

月面では天井に投影された。

今では『ポックル・ポンニツ・ポキナワ』略して『ポン系人』と呼ばれる彼らは。

そんな集まりの時、かぼちゃのパイを食べて、シナモン入りの紅茶を嗜む。

「...え？　そこはアズキの饅頭と、ポン茶でしょ!？」

という若い人たちからのツッコミは、ものともせずに...

シナモン...

死なんもん!

そういう、ダジャレだ。

移住初期、地表の惨劇を眺めおろしては。

自分たちだけが「救かってしまった」という自責と後悔の念に責められて。

鬱状態になり、みずから命を断ってしまう者たちが続出した。

そういう、時期が、あった。
そんな葬儀の時には。
満地球の見える大画面の下にみんなが集まって。
同郷の老女たちは、皆で口ずさんだのだ。
懐かしい...
若いころに流行った...
今では、誰も知らない...
ポンニツ語の。
ささやかな、流行歌の、数々を...。
死なんわ。
死なんもん。
せっかく、救助された命だ...
尽きるまでは、生き延びる。
死なん。もーん...。

*

土岐真扉の『全サルベージ計画』のおかげで。
今では、地表をあてもなくさすらう生命体の数は、めっきり少なくなった。
半地下化されるか、完全に地下に潜った、旧国家系の都市群の他には。
地上に、生命が安住できる場所は... ない。
パペルの老女たちは、『3 P S』がポックル島の上空を通る時には、都合のつく限りにおいて、欠かさず集まって。
シナモン入りの紅茶で、かぼちゃのパイを。
映像で、眺めおろす、かつての。
懐かしい、栄光の、故郷の...
パペルの塔、の。
津波と土石流に幾度もさらされて洗われて。
地表になかば剥き出しに現われた、その姿の全景は。
何やらやっぱり、どこぞのアニメの...
船の姿に、似ていた。
パペル塔は、艦橋のような位置に、今でも立派に突き立っていた。
今もその構造物は無事で。
数少ない、『積極的地表残留者』たちの放浪中のビバーク場所として活用されている、らしい。
その玄関先の割れたガラスの扉には。
今でも、しっかりと刻印された防腐処理済みの。

金属製の銘板が、張り付けてられてある。

=====

パペル社の緊急宇宙避難支援チームは、
本年2222年2月2日をもって解散し、
本社機能は月軌道上『L1ポイント』の、
『3PS』内*****に移転しました。
御用のあるかたは無我チャンネルにて、
『3PS』*****
までご連絡下さい。
長年の御愛顧御厚情、ありがとうございました。
弊社地表活動の支えて下さったすべての皆様に、
感謝を捧げます。

なお、引き続き、避難移住希望者の受け入れは、
プウパリ基地ならびにポチフネヤマ宇宙港にて、
可能な限り、継続して行っております。
(方角を示す大きな矢印と地図)

=====

...これを眺めるたびにカコさんは最近、
「しまった！ いまもう『月面に移転済み』...って、追加しないと！」と呟く。
もうプウパリの入り口も閉鎖されたし、ポチフネ宙港は、冰山津波で沈んだ。
「しまったあ...」
本気で呟くので、まわりはいつも、笑う。

二十・ 小説家： 美味賜 香子（うまし・かこ）の墓碑銘。

享年143歳。
驚異的な長寿と若々しい外見を保ったまま。
眠るように身まかった。
見送る身内の者といえ、すでに遥かに年下の人間しかいない。
さらさらと明るく見送る、静かで熱烈な、葬儀の席だった。
ファン活動は根強く。
盛大な、ネット上の...

追悼イベントが。

今後も未永く、展開されていくだろう…。

宇宙空間でフリーズドライにして、粉碎処理をした後。

小さなカプセルに詰められて、カコさんは地表に帰還した。

墓碑銘がわりに貼られた、カプセルの金属板には。

パペル社の月面事務所の連絡先が。

しっかりと、

刻まれていた。

*

宇宙人類の大半が、地球を遠く離れ、故星を忘れてしまった今でも。

それらは今もそこにある。

『後世の歴史家』たちが、いつか掘り返してくれることを、夢みて。

静かに、待ち続けている…。

たぶん、ね。

END.

(第 1 稿)

(第 1 稿)

(第一稿・一) (2019年12月15日)

『独身女が 集団で』 (第一稿・一) (2019年12月15日)

霧樹 里守 (きりぎ・りす)

(表紙絵・七十歳ほどの元気な老女を先頭に、各世代の女たちが歩いて行く絵)

(巻頭句) 『 夢は具体的に書き出すと、実現しやすくなるという... 』

(裏表紙絵・車椅子に乗った元気な老女を先頭に、数十年後の女たちが歩いて行く絵)

【 目次 】

- 第一部・ パペルの塔
- 第二部・ 駆け込み T E R A
- 第三部・ 天国への会談
- 第四部・ パンプキンパイで死なもんティー

(あらすじ)

* * *

第一話 美味賜 (うまし) 香子 (かこ) の日常。

人気作家・美味賜香子 (うまし・かこ) は筆がノッていて今夜も御機嫌だった。

もちろん、うまくいかない原稿の時だってある。

締切直前まで良いネタが出なくて、ねじり鉢巻きでうんうんと苦吟する S F 短編とか。

書いてる途中でトリックが破綻していることに気がついてしまって大絶叫する中編推理とか。

でもいま書いているのは大得意の、定番の人気の超がつく長編エンタメ小説の続きで。

おなじみの連中が、例によってばったばたと跳んだり蹴ったり斬りあったり殴り合ったり罵り合ったり...の大騒ぎ。

おいおい頼むから作者想定外の突発エピソードの乱入する新キャラだの、勝手に増やしてくれるな...!!

...と、抗議の作戦タイムを挟んで、構成練り直しの脳内会議をするのもまた楽し。

なんとか新刊一冊分の、編集者から文句は出ないで済む程度の枚数オーバーで。

それなりに読者サマをはらはらさせる起承転結と、次巻も絶対に買わせてやるぜ！

てな、ケレンミたっぷりの引きを作って...

無事終了。(￣ー￣)v

『第一稿・了』の文字だけつけて、添付メールでさくさく送信。

『拝領しました。これから読みます～！ 徹夜で♡』

と、担当編集から即返信が来たのを確認して、やれやれとノーパソを閉じた。

予定時間を二時間もオーバーしてしまった。

二十三時じゃないか。

寝ないと、寝ないと...！

ざっくりシャワーだけ浴びて、いかげん痒くなりかけてた頭を丁寧に洗って。

薄い漫画を選んで。

暖かい、お気に入りの寝床で。

二十四時ちょっと前には。

楽しく寝落ちしました...

*

おっと、朝だ。

目覚まし時計は六時を指している。

うん。ちょっくら（予定通りに）寝過ごしたけど。

その分きちんと六時間睡眠はとれたね。

よしよし。

起き出して、カーテンを開けると...

快晴！

やれやれと、ざっくりトイレと洗顔を済ませて。

カフェオレがぶ飲みして、チョコくつきーを齧って。

つっかけ引っかけて窓の外へ出ると、そこは、大好きな、屋上庭園...♡

ハーブガーデンエリアは朝陽と朝露を浴びて元気に輝いているので...

今日は、世話は要らないね？

雑草エリアと化していた根菜コンテナの草引きと...

トマトの芽かきと、ナスの剪定もしようか？

土いじりが楽しくてやっているだけなので、収穫の出来不出来は、あんまり気にしちゃいない

。

無農薬で、堆肥も自家製で。（もっぱら飲んだ後のコーヒー殻が主原料だ。）

『なんちゃって農園気分』を味わうためだけのものなので...

楽しい。

空は広いし、本物の自家農園が一望できるし、山は青いし、森は新緑の季節だ。

これに勝る、幸せはない...♡

深呼吸して、うーんと幸せを堪能していると。

背後の室内から、ピーピーと、内線が呼ぶ音が響いた。

わざと無視していると...

数分して、わざわざ呼びに来る声がある。

「先生～？ 朝食できてますけど、どうします...？」

「いま行く～！」

呼びに来てもらえるのが、嬉しい。

ので、わざと内線は無視しているのは...

内緒～☆

第二話 佐藤和子のお仕事。

朝は四時には起きる。週五日、仕事のある日には。

五時までが自由時間で、先生の話題の広さに後れを取らないよう、幅広く厳選したニュースにざっと目を通しながらトーストとコーヒーだけの簡単な自分朝食。

六時からが勤務時間。と自分で決めている。

階下に降りて、広い食堂の広い調理場で、オーブンに火を入れ、お茶用ポットの湯量を確認し

。夜中に勝手に夜食を食い散らかした連中の洗い物を（秘かに怒り狂いながら）ざっと洗って、手早く仕込みにかかる。

あ...ッ！！！！

ひどいッ！

今朝のメイン野菜の予定だったピクルスサラダ！

半分？ 食べちゃったの...誰ッ！！！！？

まあ犯人の目星なんか簡単につく。

怒り狂いつつも、溜息ついて、諦めて...

残ったピクルスサラダじゃ、見るからに量が足りない。

急いで...

作れるものは...

よし。

とっておきの梅干しを甕から出して、ごりごりとすりこぎで梅肉だけをはがして潰して。

片手間で新ジャガをたくさん、丸ごと茹でて...

急いで冷まして、皮をぷりぷりはがして...

茹で新ジャガの、ざっくり梅肉和え♡

これなら先生の好物♡

ご飯は炊けた。

味噌汁も用意できた。

煮物と漬物はよそった。

魚や卵は、食べる人間が来てから、リクエストを聞いて焼くから...

よし。七時。

全室一斉通報のインターホンを押す。

『朝食で一す！』

『うおーい』

『いま行きまーす！』

律義に返事をしてくれるのは、だいたい二人だけだ。

『先生？ 先生ー？？』

内線越しに叫んでみても、例によって、先生からは返事なし。

...窓を開ける音は聞こえたんだから、起きてはいるはず...

一番近い直通の内階段に至るドアを開けて、パタパタとペントハウスに駆け上がる。

「先生～？ 朝食できてますけど、どうします...？」

「いま行く～！」

たいがい、待っていたように先生はニコニコとすぐに振り向く。

たぶん、のんびり眺めている屋上からの広大な景色を。

朝一番から厨房に籠りっきりの自分に、一目、見せたくて。

わざわざ私に、呼びに来させてくれている。

んじゃないかな？

と思う....。

*

その後しばらくは、ちょっとした戦場だ。

「おあよう～！ あたし魚ー！ デカイの焼いてー！」

はいはい。魚種はなんでもいいんですよ知ってます。ホッケ特大でいーですねッ？

そんなことだろうと用意していた生干しのホッケを網に載せて急いでグリルにかける。

どんと座ってまず番茶をすする。ワイルドとしか言いようがない、この蛮族のごとき寝乱れたままの服装と物腰の女性は、これでも一応（驚くべきことに！）うちの営業部長。

であったりする。

（食卓での傍若無人ぶりを観る限り、社交的気配りなんか、出来そうに思えないのに！）

「おはようございまーす！ 遅れてすいませーん！」

「べつに遅れてないよー？」

これもいつもの会話だ。

「先生、原稿あがったんですね？ 次の打ち合わせの予定、確定しちゃっていいですか？」

「うん。明日以降ならオッケー」

「進めておきます」

「よろしく～」

「卵はどうしますか？」

「具入りのダシ巻でお願いしま～す♡」

...だいたい毎朝これだけ。

たまに違うリクエストも来るから、焼いておくわけにもいかない。

手早くボウルに生卵を放り入れ、じゃくじゃくかきまわす...

「おはようございまーす！」

「おはよう～」

「おはようさん」

「はよー！」

「うちの先生ほかアシスタント全員ダメです起きられませんー！

オニギリにしといて下さいー！」

「了解でーす」

「アタシは炒り卵と～、シャケのバターソテーが食べたいでーす♡」

「はい少々お待ちをー！」

先生原作の長編小説を漫画にしている女所帯は、なかなか大集団で。

泊まり込みで見張ってる編集さんまで入れると、締め切り前には総勢十数人。

独身女が集団で。

「基本、朝ごはんは七時で～。なるべく全員そろって～。」

というのが、先生が同居に当たって出した（ほぼ唯一の）条件だった。

おかげで、朝・昼食担当の住み込み調理員わたくし佐藤和子は、毎朝てんてこ舞いですよ...

☆

（楽しいですが！）

*

（このあと先生 八時過ぎまで食堂でねばる習慣）

（なるべく「家族」全員の顔を観る）

第三話・ 円藤美奈子の通常業務

「おはようございます。あの、いつもと同じでいいです...」

「はい。ベーコンかりかりサニーサイドエッグ。少々お待ちを～♡」

ふつう使用人というのは御主人サマとは一緒の食卓にはつかないだろうと思う。

清掃員という仕事は下層の使用人の最たるもんだと思う。

でも何故かあたしは先生という雇用主や、雇用主側の側近というか重役というか？

難しそうな、ハイスペックな業務を担当している偉い？人たちと。

一緒に朝食を食べるハメになってる。

へたすると昼食も夕食も、夜食まで一緒だったりする。

いいのかなあ？と、最初の頃は落ちつかなかった。

でもご飯が美味しい。

自炊するより、コンビニ弁当やスーパーの半額弁当を買うより、安くて美味しい！

人間、ラクには流される。

今ではすっかり、「食堂で、みんなと一緒にのご飯。」が、あたしの普通になってる。

美枝にも食べさせてあげたかったな。

こんなふうに。大家族で。

温かい、美味しいご飯を。

と、時々思う。

美枝というのはあたしの娘だ。

先生にはとても可愛がってもらった。

今は大学に行っていて、就職活動をしている。

そんな風に美枝を立派に育てられるなんて思ってなかった。

これもみんな、先生と出会えたおかげだ。

先生が、掃除人を募集していた。

まだ、デビューしてそんなに経ってない。

郊外に古い一軒家を借りたばかりの頃だ。

『清掃員、募集。掃除機も合成洗剤も使わずに一軒家を掃除できる、綺麗好きのかた。』

女性限定。完全禁煙。子連れ通勤・住み込み応談』

そんな張り紙が、母子家庭の避難寮の伝言板と、そのすぐ向かいの自然食八百屋の店先に、そおっと貼られてた。

あたしはDV夫から逃げてきたばかりで、重度アトピーのまだ赤ん坊の美枝を預ける先も見つからなくて、仕事探しも出来なくて、毎日いつも、かさかさの赤むけした皮膚を痛がって泣く美枝と一緒に、めそめそと、哭いてばかりいた。

『掃除機も合成洗剤も使わずに』

...掃除、出来るよ...！

だって美枝のアトピーに良くなかったからね！

がんばって覚えたんだよ！

『綺麗好き』ってところは、イマイチ先生の要求レベルには合ってなかったらしくて。

最初の頃は、

「扉の上の埃もちゃんと拭いて下さい」とか、

「視力の弱い私に代わってきちんと掃除してほしいから、ひとを頼んでるんですよ？」

とか、ちょくちょく叱られてしまったけれども。

編集の人がこっそり吸ってた煙草の臭いの追い出しかたとか、嫌がらせて壁に書かれた赤ペンキの血みみたいな染みのきれいな消し方とか。

こっちから教えてあげられることも多くて、だんだん仲良くなって。

美枝を連れて、先生の家を離れに住まわせてもらえるようになった。

そこから昼間はパートに出たり、先生の事務を手伝って、バイト料ももらったり。

(その頃は、先生のご飯も時々あたしが作ってた。

ご飯の評価はイマイチだったけど。)

美枝はそこから小学校に通った。中学も、高校にも通った。

美枝が大学に行くって言って、親元を離れる頃に。

先生は、このビルをどかんとおっ建てた。

「これからは、この寮全体の掃除をお願いします... 大変だと思うけど」

そう言って、笑った。

公共部分の内側と、玄関まわりの毎日の掃除だけでいい。

そう言われて。

あと、掃除は天気と季節に合わせて変わるからと、あたしの勤務は完全フレックス

(自己申告制) ってやつになったけど。

週五日、午前十時から十一時の間だけは、基本、食堂担当「代理」を務める。

和子さんのランチ休憩だからだ。

だいたい、そんな時間を狙ってやってくるのは、マンガ家の先生たちと、そのアシスタントの皆さんだ。

こっそり和子さんが苦手なせいらしい。

だって、熱いものは熱いうちに！とか？

食べかたを、厳しく見張ってる感じが...

するからね？

せっかくの炊き立てご飯を！と、和子さんが(最初のころは)ぷりぷり怒りながら握ってた、白飯オニギリの山を好きなだけ盗って食べて。

オカズは好き嫌いして...

かじりかけで、残したりして。

(さすがに生ゴミ入れに捨てられていた時は、戻ってきた和子さんがブチ切れた...

「食べ残しはラップかけて冷蔵庫に入れろ！ 出来ないやつは出て行け！」って騒ぎになって。

先生が全面的に和子さんの味方をしたんで、漫画家さんたちは恐縮して、

約束して一件落着になった...)

...の、食べ散らかしてお皿も乱雑に放っていったりするのを、慌てて片づけて。

一見こざれいにしておく...

のが、もっぱらのあたしの、追加業務だ。(苦笑)。

あとは。

通称『パペル寮』とか『パペルの塔』とか呼ばれてる(名前の由来は、先生たちが「紙」に色

々書いたり描いたりして稼いで建てた、『紙のお城』だからだそうだ。）

この、お城の。

(あたしにとってはお城だ。)

上から下まで、毎日綺麗に、はたいて掃いて、拭いて磨いて。

毎日だいたい同じ繰り返しだけど。

季節に合わせて、曜日を決めて、天気を観ながら、所々を順番に大掃除して。

年末とかには、みんなが手伝ってくれるから、仕事を割り振りして、人数分の道具を用意して

。「あたしが一番偉い」の指揮者の日になって....、

先生本人までアゴで使って、大掃除して。

終わったら、和子さん担当聖域の食堂で...

大宴会だ♡

それが、楽しみで、生きてる。

(それから...年末年始と夏休みには、美枝が『泊まりに』来るしね♡)

毎日、楽しいよ...!

第四話： 漫画家・（ ）の本音

いや最初に聞いた時に「基本それ無理！」って思いましたわ。

朝七時に毎朝そろって朝食？

あんたそれ本気で漫画家に言ってますか先生？って、

目が点。

だって寝るのが朝の五時過ぎとかザラだよ？

締め切り前にはごはん食べにわざわざ部屋を移動する？

とかの時間のロスも惜しいよ？

でも一応「なるべく」って条件で。

ソレ呑まないと同居だめ！って言うし。

まあ一応「うん」と言いましたよはいはい。

締切守れるかー？って編集の質問と同じ扱いでです。はい。((――))

だって家賃格安だし！光熱費コミって言うし！

自分の部屋と仕事部屋と、フロア一緒で！

アシのみんなが余裕で寝られる雑魚寝部屋！二段ベッド完備で！

掃除と洗濯してくれる専門の人まで常駐って言うし...!!!!

...釣られるでしょ？ そりゃもう。

まあ思ったほど美味賜香（うましか）センセー本人と会う機会はそんなにないんですけどね？

(まあそりゃ滅多に朝食時間に行かないんだから自業自得か！)

コンテ切るのに煮詰まった時に、「センセーこの時のコイツの科白この真意はいかに...!？」

とか、「これここの動き、こっそり伏線だったりしますか...?」とか、夜中に突撃取材に行かれるのは、ちょー便利♪

食堂のおばちゃ...、おねーさまたちは...、ちょっくら怖いけど、

ご飯は文句なしに美味しいし！

原稿だけに集中できて、休みは大自然が満喫できてー！

最高！♡

第二部・駆け込みTERA。

第二部・かけこみT E R A。

第一話・空を飛ぶお仕事。

ふつうは『母子(ぼし)寮』って言うよね。

シングルマザーと子どもだけが集まって住む寮のこと。

パペル社では『母子母寮』って書いて、『もしも寮』って呼んでるんだ。

可愛いっしょ？

好きでシングルマザーになるわけじゃないけど、もしも、なっちゃったら。

好きで独り身の老後になったわけじゃないけど、もしも、なっちゃったら。

「安心して、ここに入居してね♡」って、センサーが作ってくれた、施設だ。

だから、『もしも寮』。

あたしは双子と荷物をぽんぽんぽーん！と、保育棟に預けると、急いで駐機場まで走った。

預けた双子は、預ける荷物は自分たちで当番先生(有資格保育責任者・有料)に渡して。

わらわらと大歓迎！モードで集まってくる『仮祖母』(もしも)の皆さん...

(資格の有無は問わず、出産・育児の経験者。死別・離婚を問わず何らかの事情で単身化。身の回りのことはまだ自分で出来るか、軽い要介護(認知症含む)状態だけど、とにかく小さい子どもが可愛い！かまって遊びたい！...という。ボケ防止の日中活動も兼ねて、無料で育児ボランティアに有志参加の皆さん。)に、もみくちゃで大歓迎されながら。

本人たちの主な通園目的であるところの大好きな「お砂場！」に突進するべく...

どうやらそのためには「障害物」だと認識しているらしい、おばーちゃん集団を相手に...

苦戦しているw

そんな姿を遠目の横目で眺めて、思わず笑っちゃいながら。

...おっと！

見落としやミスは、赦されないよ～??

厳密に、チェック表を脳内で暗誦しながら、社用最新式の小型『空飛ぶ自動車』...通称『空飛ブータ号』の起動前安全確認を済ませる。

あたし？

富田都美子(とんだ・とみこ)。

先生おかかえ空飛ブータ号の...運転手！(操縦士?)

なんでこの仕事に就いたかって言うと...

あたしあんまりモテたこと無かったんだよね～。

だけどなんかあたしのこと「好きだぁ！」とか、しつこく言ってくる男がいたんだよね～。

まあ悪い気はしなかったんだよね～。

まあ一緒に酒呑んだり、ご飯食べたり... 旅行に行ったり？
遊ぶ相手としては、まあ気楽で気軽で、無責任につきあえて。

まあ、ラクだったし...

んで。

なんか気がついたら、お腹に仔っこが出来てたわけさ！

まあ、しょうがない！出来たからには産むべ！

って、思ったわけさ。当然。

だけど相手の男がね。

ばかでねー？

役に立たなかったわけさ！

ひとが慣れない育児でひーひー言ってる最中に、

「俺と子どもと、どっちが大事だ！」とか言い出すからさ？

そんでまあ色々あって、修羅場あって。

けっきょく捨てたわけさ。ポンって！

...男のほうをだよ？

んで。

もともとパベル社の関連従業員だったから。

双子連れて、もしも寮に入れてもらって。

最初は、授乳休憩もらいながらで、農場の仕事をしてたんだけど。

前は『空キタ便！』の配送員だったから、空飛ぶ自動車の飛行車免許、持ってたし。

先生が、わりと人見知りというか...

同乗する相手の、好き嫌いをする人で。

何人か、というか、かなりの人数、専用運転手が...代替わりして。

...あたしのことは、農場で一緒に収穫作業とかやってた時に、意気投合したというか...

気に入ってくれて。仲良くしてくれるんだよねー♡

んで。「日中専用運転手」つう、肩書をもらったわけさ♡

...さて。

安全確認、終了。

急がないと！ 約束の時間だ！

...今日もがんばって飛んじゃうよ～♪

よろしく！ 空飛ブータ号♡

ぶい～ん...！

第二話・みまもるお仕事

滝川明子と申します。パベル社ポッポ口庵パサミカワ支店長を務めております。

今日は先生が定期訪問というか、巡回視察と称して差し入れに来てくれる日でした。

原稿は昨夜のうちに無事にあがっていたそうです。良かったですね。

(あがらないと訪問中止になる場合もあって...スタッフたちがガッカリしますので)

いえ、原稿もとても楽しみです。次回作、なるべく早く出版されるといいですね...

ウマシカ先生...カコさんは、「三角貿易」と呼んでいるらしいんですが、パサミカワに来店される時には、必ずポップロ本店やパコタテ支店の名産品を何か大量に買い込んで来て、皆に配ってくれます。

今日は特製サンドイッチでした。御馳走さまでした。

とても美味しいし嬉しいし、後発のパサミカワ店としては、先輩他店は「追いつけ追い越せ！」と秘かにライバル視しておりますので、本店オリジナル商品を味見させてもらえるのは、大変いろいろと勉強にもなるし、よし頑張ろう！という励みにもなります。

それでパサミカワ作業所からは自慢の新商品！『自社製チーズの天然フリーズドライ』加工品各種を大量に（先生個人の自費で！）お買い上げいただきました。

やはり大人気なのはチーズのフリーズドライをパン粉のような形状に丁寧にクラッシュして仕上げた『揚げ粉チーズ』ですよ。

これでトンカツとかザンギとか、たっぷりまぶして、揚げてみて下さい。まちがいなく、体重が一気に増加します...（笑）

あともちろんカットチーズを高野豆腐風加工した品も、いろいろ工夫できそうだと、料理家の皆さんからご好評です。どうぞご試食下さい。

この作業は、世間様からは「知的不自由」と呼ばれるスタッフ一同が、冬季の雪原で手作業で天日に当てて、丁寧に干し上げ、丁寧に成型加工や粉碎作業をしました。

それで先生は、御自分たちで本社やパペルの塔で召しあがる以外の分は、ポップロ本店やパコタテ支店のスタッフに、「個人的に差し入れ」して下さるんですよね...

で、パコタテ支店からは主に海産加工品などをお買い上げになって、やっぱり他の店舗のスタッフに配って回っていらっしゃるのか...

毎月の各店の売り上げのうち、実は5%くらいが、こうしてカコ先生個人の財布によって賄われております...

重ね重ね、ありがとうございます...

パサミカワ作業所についてもご説明しますね。

道央・道東方面の各種「障碍がある」スタッフや、母子家庭や低学歴など何らかの理由で「一般就業が難しい」スタッフたちが、主にそれぞれの生活寮で共同生活をしながら、農作業や農産加工や調理や店舗販売、また配送作業や配送事務などを分担しあって、もちろん行政からの生活保護や補助金が頼りの、苦しい経営収支ではありますが、なんとかそれなりにお客様に愛され盛り立てていただいて繁盛しており、みな楽しく働いております。

ポップロ本社の既存施設を拡張して就業可能人数を拡大する、という当初の案を、カコ先生が却下して新規に各地分散での立ち上げという経営的には厳しい道を選んだのは、震災津波や幻バツ災害の恐れのある首都ポップロへの一極集中を避けたい、というお考えの他に、ポップロから

だと遠隔地のスタッフは連休の帰省が大変だから、というお気遣いがあったそうです。

農場では通年収穫が可能なハウストマトやハウスメロン、埋雪冷蔵による冬野菜の夏販売など、手作業・小規模ならではの高付加価値作物の生産に励んでおります。

作業場では、冬季の極寒と夏季の日照時間の長さを活用して、なるべく、エコなエネルギーで、無添加で、アレルギー対応で...と、ポッポロ島内外からの通販でご利用くださるお客様がたのニッチでコアなニーズに応えるべく、工夫を凝らした商品開発を目指しております。

まだまだこれからですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

...こんな風で、良いでしょうか？

どうも作文は苦手です... もうしわけありません。

*

え、私のことですか？

七十七歳、現在単身です。

カコ先生と同年代ですか？

交際相手というのでしょうか、異性の友達は複数沢山おりますので、それなりに充実した毎日ですが。再婚は、もういいですねえ。夫はとても良い伴侶でしたから。あれ以上の同居人は、もう望めないと思います。

今は仕事が一番の恋人ですねえ。

スタッフたちはみんな、我が子のように可愛いです。

からだとあたまが効かなくなったら、『もしも寮』への入寮希望です。

ちょっとボケながら、車椅子でミニトマトの収穫作業なんか参加しながら、

ぽっくり逝けたらいいですねえ...

(夫が待っててくれると思いますし！)

第三話・補佐監理するお仕事

昨年公開されて全国的にもそれなりの興行成績を収め、地元収録のエキストラ大量参加とあってポッポロ島内では記録的な観客動員率と録画ダウンロード数を誇った『ウマシカせんせい遁走記』実写映画版の続編『うまうまシカジカ奔走記』の収録現場の状況視察と雑誌取材陣の案内役を兼ねて数日間の島東めぐりをした後、今日でやっと帰れるという日に、ちょうどカコさんがブータ号でパサミカワまで来ているというので同乗させてもらうことにした。

取材陣をパサミカワ空港まで見送って、市内に戻ってレンタカーは手近な営業所に返却して、徒歩でポッポロ庵支店のスタッフ昼食休憩時を狙って合流する。

ご飯と豚汁と漬物だけの簡素な昼食が、出張のあいだずっと続いた高級高額ハイカロリー旅館料理+連夜の接待宴会な深酒に疲れた胃袋にじんわりと浸みて、とても美味しい。

数日ぶりに拝むカコさんの笑顔も、密かに癒されるわ〜。(本人には言わんけど)。

邪魔だが役には立つ運転手の隣の助手席に(不本意だが)乗り込む。

最初の頃こそ大喜びで、飛空車に乗る時にはもちろん後ろの席にカコさんと並んで。

あれこれとおしゃべりしながらの空中散歩♪を楽しもうと思っていたのだが。

カコさんは、七十代後半、（のはずだ）という実年齢をすっかり裏切っていて、見た目も若い
が中身は...

完全に子ども！

飛空車に乗った瞬間から、もう全身でわくわくしていて、飛び立った瞬間から、あっちを眺め
て叫び、こっちを見おろして感嘆し、またあっちこっち首をぶんぶん振り回して三百六十度を
一度に見渡たそうとして大騒ぎを繰り返し...と、

忙しいのだ！

隣に私が座った最初の頃こそ、いちおう気をつかって、身を乗り出したり、会話に返事をしよ
うと努力してくれたり、は、していたのだが...

はっきり言って、わたし邪魔？と、すぐに気がついた。

試しに、後ろのシートは断って、前の助手席に乗ると...

カコさん、飛んでる間じゅう、後部座席の詰めれば三人座れるはずの横幅を、右に跳び、左に
跳ねて... ひたすら歓声をあげまくっていて...

騒がしい！

そのたびに急な重心移動でぐらぐら揺れかける飛空車のバランサーを「待ってました」とばかり
にスライドさせて素早く安定させながら何食わぬ顔で運転...操縦?...を続ける、自称「お抱え
運転手」の...富田都美子（とんだ・とみこ）。

「...あのさ、カコさん...先生。いつも、こんな調子？」

最初こっそり聞いてみた。

「うんそうだよー。かわいいよね〜♡」

...なるほど。

過去何人の「運転手」が、カコさんと気が合わなくてクビになったかという...

人事担当総括も兼ねる副社長の私の苦労も察してほしい。

彼らは一様に主張したのだ。

「危ないからじっとしててください！て、言っても聞いてくれないんですよ！」と...

...言って聞かせてもダメなら、黙って相手に合わせろと。

...なるほど。

「...よくこれで、揺らさないで飛ばせるねえ...？」

「うん、だってうちの双子も、こんなもんだし〜w」

...なるほど...。（カコさんは、五歳児か！）

今日はいつもの『巡回視察コース』の他にイレギュラーで社外の提携企業の何ちゃらイベント
にも寄って行くという。

提携というか、今はカコさんが個人で支援出資していて、生産が安定してきたらポッポ口庵の
どこかの作業所に加工原料を安く卸してもらおう...という計画段階の相手だ。

有機農業という今では誰でも何となくのイメージは持っていると思うけど、まだまだ知名度
の低い「有機林業」とかいう、一見荒れ放題の、原生林かと思うような...山林。

シカの食害は防ぎつつ、人手も電気網も使わずに、環境負荷を低くして持続再生可能な低コストで高品質な林野材の生産供給…。なるほど？

環境保護だの有畜複合農業だの資源循環だの地方再生だの基本的な人権だの。

カコさんの好きそうな（実は私はあんまり興味がない）キーワードが…満載だ。

「はじめまして副社長！ どうぞこちら詳しい資料です！」

…とか言われても。

私は関心は無いんだってば。こっちの分野には…。(苦笑)

まあ本来かなりの人見知りのはずのカコさんが、林業従事者のこわもての小汚いおっさん達に取り囲まれて、嬉しそうに笑っているの…

よしとするか。(嘆息)

まあ、獲れたて？鹿肉の炭焼きバーベキューは、とっても美味しかったよ…。

カコさんが買い込み過ぎた木炭と木酢液と鹿肉と熊肉の燻製とハムと塩漬け？エトセトラのせいで飛空車の制限重量オーバーしちゃって、危うく「降りて歩いて帰って～」とか、言われちゃったけど…！

その後は予定を詰めて最速で、ポッポロ本社と本店と作業所を「巡回視察」して。

(はっきり言ってカコさんのやってることは、「三角貿易」なお土産を配ってまわって、挨拶してお茶して、笑って帰ってくるだけ。なんだけど…

スタッフはそれで喜んでるので、まあいいか…)

経営状況報告や経理資料はきほん私が受け取る。カコさんに渡しても、たいがい素通りで、私のところに届く。

副社長。なんて肩書だけどねえ。

雑用係。なんだよねえ。要するに。カコさんの。

…面倒ごとは全部丸投げ。という…。

ワタクシ、『ザ・ペーパーカンパニー』パペル社の取締役副社長・長野 緑 は…

そういう、係。(嘆息)

第四話・耕すお仕事

「あ～、やっと帰って来た。遅かったね～？」

駐機場に戻ると、待ちかねたように体格の良い筋肉もりもり細マッチョなイケメン男が寄ってきた。

男、としか見えないが、原則男子禁制、を掲げるパペル寮の住人で、正社員である。

「うん。いっぱい食べてきた～♡」

「あ～、そっか～w」

どさどさと大量の木炭だの間伐木材の端切れだの木酢液だのジビエの加工品だのを降ろすのを手伝って。(さっき積みきれなかった分は後日「空キタ便」で届く。)

「こっち農場にくれる分？ こっちは？」

「輪っかのみんで食べてー。あとこっち、もしも寮に持ってってくれる〜？」

「おっけーおっけー。」

地上作業用の電動農場車にのっしのっしと積み上げていく。

「んでこれ。今季の品目別収量予想と販売計画書〜。」

「ありがと〜。...はい、副社長、よろしく〜。」

「...あ〜。はいはいはい...」（これだよ。）

「んじゃ五時なのでアタシは上がりまーす！」

「はい。今日もありがとー。双子によろしく〜！」

「先生も〜。ゴハン食べ過ぎないで〜！」

「むり！」

笑って手を振って運転手は定時あがりだ。

「ヨシノさんは？」

「まだまだこれから！ 夕飯食ったら、また一仕事！」

「農場たいへん！」

「なんの！ 冬に遊ぶし、シゴト楽しいし！」

廃線に伴って人口が激減し、離農者が相次いで、広大な農地と牧草地が空いた。

そんな閑散とした風光明美だけがとりえの、極寒で辺鄙な地域が、もともとカコさんの「憧れの土地」だった。

数年分の印税収入と、すでに軌道に乗りかけていたパペル庵と作業所の、社運をすべて傾ける勢いで、土地をどかっと、まとめて買った。

幸いなことに、映画と漫画化と海外版權で、かなり儲かった。

最初に、虹寮と月寮を建てた。

「性別不詳とか〜、トランスとか〜、同性愛好者とか〜？」

街中で、ふつうの就職がなかなか難しく採用されづらくて。

生まれた土地でも暮らしづらくて。

でも「夜の仕事」（水商売）には、心身が、合わなくて...

という、人たちを。

「大雑把（だいたい）でいいから、カラダとココロの状態？別に〜」

分けて、寮を区分して。

「性別いろいろ」系の人たちがグラデーションを描いて、半円状の「虹」寮に住んで。

「同性大好き」系でカラダは女性の人たちが、お向かいの半円状の「月」寮に住んで。

「同性大好き」系で肉体的に男性の人たちが、ぐるりを取り囲む「金環」寮に住んだ。

（ほんとは「金環蝕」って書くんだけど、「蝕」は「職」に表示変更されてる）。

三つまとめて「円環寮」（通称：輪っか）の人たちは、それぞれの適性に合わせて、農畜業・加工業・通販&経理事務・調理&接客販売...エトセトラエトセトラ...の、パペル社の各種直営事業の仕事に就いてる。

もちろん、空キタ便の配送員もいる。

その真ん中に、もしも寮を建てた。介護と保育のスタッフも移住して来た。
金環職員の一部は、正式に「自宅警備員」という名のガードマン業務に就いた。
(だって、母子と老女だけの施設を、荒野の真ん中に...って、色々と危ないからね?)
一部、「性的少数者を利用するな!」的な反対の声も上がったらしいけど。
住んでる人間が。生きやすくて働きやすくて、ご飯が美味しいから...
いんでないかい?
総責任者の通称「ヨシノ」は元は水商売あがりて本名は吉野清次だが。
カラダは変えてないのでガタイはいい。
前は嫌だったが、農業に就いてから自分の体の性別が肯定できるようになった。
自分ではいわゆる「心は女」系だと思っているが、無理して「女言葉」を使って化粧して腰振って歩くのも、「自分らしくない」と思う。
自然に女に生まれた系の人たちだって、今どきみんな働く時にはパンツスタイルが多いし、「だわ」だの「なのよ」だの言わないし、化粧だってすっぴん派もありアリだ。
ただ、「男らしさ」は、強制しないでほしい...
女性と恋愛、も、ちょっと、無理...
で。人間関係は、苦手。
夜の水商売は、ほんとうに苦手だった。でも他の就職も、いろいろ難しかった。
パベル社で農場従業員の募集を開始した時、一も二もなく参加した。
だって、実家は農業だった。跡を継げない、次男だったけど。
「おめえなんかオカマは、おれの息子じゃねえ!」と...
絶縁された。けど。
農場で最初に採れた芋を実家に送った。
「うまかった」と、親父から、無骨な字の、ハガキが届いた。

第五話・喰わせもん。

「ただいま〜!」

へろへろのにこにこで、ようやく主様が御帰還だ。

「おっかえり〜!」

すでに出来上がっている酔客どもと、まさに夕飯をかつこみ中の連中は、そろって歓迎の声を挙げた。

第三部 (転) ・ 天国への会談

第一話・青天霹靂

細沼甲斐子の名刺の肩書きには一応「秘書」と記してある。

主な担当業務は押し寄せる大量の執筆依頼や取材や出演の打診を、締切と枚数と要望ジャンルと対象読者層と原稿料や出演料やの有無と多寡と期待できる印税収入額など別に分類して、リストアップしてカコ先生に渡して。

書くか書かないか出演するか否か、まだ検討中かのマルバツサンカクや質問事項を記入してもらって、きちんとしたビジネス文書に意識して、返答や、時期の調整を引き受けたり。

確約した分の締切日と枚数とジャンルと対象読者層と担当編集者や既存出版物の傾向やらをリストアップした上で、逆算して「執筆開始予定日」を設定したり。

取材や出演に要する移動所要時間や、事前事後の周辺観光スポット情報まで含めた日程を作成して、スケジュールを管理したり。

はたまた締切延長の調整依頼や、ドタキャンの謝罪役を引き受けたり。

一応完成して渡した原稿の校了日を把握した上で赤修正やら何やらの日取りと受け渡しを調整したり。

原稿料の振込日と予定金額を事前に把握して経理部に報告したり。

カコ先生の「経費分の領収証」を整理して、経理部に申告したり。

馴染みのない出版社との初顔合わせや無関係なイベントの隙を狙って急襲してくるアポ無し取材の雑誌記者などから人見知りのカコ先生をガードして救い出して、無理な契約や出演依頼やを押しつけてくる輩にはきっちりお断りして「法務を通せ！」と突っぱねてみたり。

引き受けた取材や講演会やの前には、日ごろ身だしなみにほとんど構わないカコ先生の臨時スタイリストやヘアメイク役も引き受けたりなんかする。

予定を忘れてお寝坊してたら部屋まで起こしに行くし、頼まれれば散らかった執筆資料の整理収納なんかも手伝うし、寂しがっていればご飯も一緒に食べたりするし。

取材や休暇の旅行のお供をしたり、頼まれれば切符の手配やホテルの予約や、カコさんがアバウトに立てた海外旅行の日程が実現可能かどうかのチェックを本職に依頼したりもする。

まあ、雑用係で。

本人はファンタジックに「おつきの者」でございますと、自己紹介をしている。

次の予定の書きおろし単行本の出版社との打ち合わせの日程は明後日に決まった。

ということは、

「今日と明日は完全オフ？」と、目を輝かせて、カコ先生は笑った。

「そうなりますね。」

「お風呂いこ〜っと。...一緒にどう？」

「お供します！」

「んじゃー道具もっといで〜。十五分後に玄関集合〜」

「はい！」

こんな場合、カコ先生が日帰り入浴施設の意味で「お風呂」と言うのは、徒歩五分。

パペル塔の地下駐車場通路をまっすぐ抜けるか、その上の地上庭園をつっきるかで簡単に到達する、自社施設である。

ふつうの「お風呂」は「男・女」の二種類か、「家族風呂」という小風呂が併設されているくらいだが、ここのお風呂はちょっと変わっていて入浴エリアが六つある。

「カコ専用」というのが屋上階のペントハウスの的に設けられていて。

地上階には「一般女性・女性系・中間・男性系・一般男性」の五つのエリア別。

自己申告制だと絶対に痴漢だのセクハラだのトラブルが発生するので、中三つのエリアを利用できるのは「輪っか」寮の住人だけだが、他の「一般」二つは地元民や観光客や、カコ先生の「聖地詣で」の、熱心な読者の皆さんも、利用可能。

あいにくだが、天然温泉では、ない。

カコ先生は大の温泉好きだが、あいにく、出るか出ないか判らないものを闇雲にボーリングするほどの予算は...、無かった。

その代わりに、敷地の外れの丘陵地帯の既存の農業用水の井戸からパイプを引いて。

農場と牧場エリアの境目にある堆肥発酵施設の屋根の下をぐねぐねと折り曲げてパイプを通して。

水温五十度ほどに温まった茶色い水を通して、「天然水の沸かし風呂」にした。

入湯料は普通の銭湯よりちょっと高いくらいか。

地元にも観光客にも、密かに人気のスポットだ。

「...あ〜。生き返る〜♡」

カコさんはざくざくっと洗髪とシャワーだけ済ませると、どぼんと寝湯に転がった。

「カコ専用」スペースは、本人と一緒に、本人の許可をインカムで確認しない限りは、他人は利用できない。

ひとり分サイズの浴槽が高温・ぬる湯・水の三つと、寝椅子が二つあるだけの、小さいスペースだ。

お空が青い。

「...い〜ね〜。幸せだね〜...♡」

「ですね〜♡」

カコ先生と、うまくやっていくためには簡単なコツがある。

よけいなことは喋らない。どうしても自分話や、他人の噂は、なるべく少な目に。

大事なことには必ず相槌を打つ。

「いいね」「美味しいね」「可愛いね」「かわいそうだね」「素晴らしいね！」

なんてキーワードには、かならず反応だ。（反論は可）。

「...あ〜。幸せだな〜...♡」

カコ先生は、もう一度しみじみと呟いた。

...その、時。

「...あら？」

甲斐子は一瞬、自分が貧血かなにかで眩暈を起こしているのかと思った。

ぐらっ...

「あれっ?!」

カコさんが素早く立ち上がった。

「あら... えッ? 揺れてますッ??」

「揺れてるッ!」

ぴびい〜〜ッ! ぴびい〜〜ッ! ぴびい〜〜ッ!

聞き覚えのある、不吉なサイレンが響いた。

『緊急地震速報です! 間もなく強い揺れが来ます!』

「うそッ!」

...数秒と待たず、本震が襲い掛かった。

...揺れる...

揺れる!

「つかまって!」

「カコ先生ッ!」

揺れる!

...数分は、続いたろうか...

お風呂のお湯が、津波と化して、数mもの水しぶきを立てて跳ねる跳ねる!

階下から男女と子どもに性別不明をとりまぜて、各種の絶叫悲鳴が響き渡ってる。

がつーん!

がちゃーん!

ばしゃーん...ばしゃーん...!!

悪夢かと思った。

甲斐子は恐怖で涙が出てきた。

お風呂のなかで、ちびったかも、しれない。

数分して、揺れは...

とりあえず、大きいのは...

...収まった...???

カコ先生が、まっぴのまま、だだっど駆けだして、内線電話に駆け寄った。

備え付けの、非常用インカムをはずして素早くかぶって。

余震で揺れても飛ばないように、しっかりと、ヘッドバンドをかける。

...の一連の動作と同時に、びっくりするくらい大きな声で。

「みんな無事ッ？ カコは無事ですッ！ 避難手順に従って行動してっ！
ポーシャ毒測定班！ ただちに安全確保の上、状況報告願いますっ！」
...大変な、日々が始まった...

第二話・驚天動地

ぴびい〜〜ッ！ ぴびい〜〜ッ！ ぴびい〜〜ッ！

聞き覚えのある、不吉なサイレンが響いた。

『緊急地震速報です！ 間もなく強い揺れが来ます！』

嵯峨野景は、飲みかけの熱いお茶を噴き出しかけた。

...いや、むせこんでる場合じゃないッ！

死ぬ気で咳をこらえて、インカムに飛びついた。

『空キタ便！ 全機、緊急浮上！ 安全確保！』

滅多に使わない全機一斉開放ボタンを正確に押せて良かったと安堵するのもつかの間。
揺れた。

言語に絶する...

揺れだった。

まず小刻みにカタカタ揺れた。

それから横にゆさゆさ揺れた。

(...大きい...！)

と、思って体を両腕で机の下に固定しながら、様子を見てみると...

縦に。

ガン！ と、...

突き上げた。

それからはもうジェットコースターかと突き喰いするような。

笑ってたら舌を噛みそうな...

地獄のような...

あれこれ倒れたり飛んだり落ちたり割れたり。

でも。

まだ、本社の建物自体が壊れるほどじゃ...

ない？

震源は、けっこう遠い。(たぶん)。

それでこれだけ、揺れた。(...おおごと、だ...！？)

...揺れがとりあえず収まった...？ 時には。

思わず、安心して。

気が遠くなりかけた。

「みんな無事ッ？ カコは無事ですッ！ 避難手順に従って行動してっ！」

...すげえ。

カコさん、すげえ。

ちょっと涙が出かけた。

いやいや... 感心しててどうする。

七十過ぎの御高齢者に、敗けてどうするよ...

オレ！

「空キタ便！総括、嵯峨野景 無事です！キタ本社一階損害軽微！

空キタ便！全機応答願いますッ！」

非常回線の全社開放で報告だけして、途中からキタ内線に切り替える。

『空ビット一号、鹿毛妙子、無事です！ 配達先に向け飛行中！

目標家屋が損壊してます！ 人影あり！ 手を振ってますっ！

このまま救援活動に移ってもいいですかッ？』

『安全確保最優先！気をつけて行動して下さいっ！』

『了解ですっ！』

そもそもが、空キタ便は前の全島震災の時に救援活動のためにカコさんが緊急レンタルした車体をそのまま長期リースに切り替えて立ち上げられた、事業だ。

配達員はその時に救援ボラで動いていた人財が多いから、話も反応も速い。

ついでにみんな、カコさん原作の漫画『奔れ！国際救助隊！』の大ファンだ。

良かった...

『空ビット七号機、小破！ 飛べます。鈴木恵美子、軽傷です。

配送完遂の上、状況判断して動きますっ』

『了解。慎重にお願いします』

『空ビット十三、遠野了子、無事です。ポッポ口上空。何か所か煙が上がってます。

...家族が心配です。一旦離脱していいですか？』

『気をつけて！』

『はい！』

次々に報告が入って来る。ありがたいことに死者も重傷者も大破もなし。

緊急電源が入ってPCが復活したので、直通無線で繋いで連繋契約をしている消防署の救援要請者分布画面を急いで開く。

...真っ赤。だ...

一面の、救援要請記号と、高速で移動中の、緑の救急車と朱色の消防車。

...無理だ。

市街地だけで、対応は、手一杯だろうと思う...

一点、青く輝やいているのが、救援参加宣言を済ませた空ビット一号らしい。

無事で、戻ってほしい...！

...さて...！

飲みかけだったペットボトルのお茶のキャップを、無意識にちゃんと閉めてた自分に危気がついてちょっと笑った。

一口飲んで、体の震えをなんとか収めて…。

…また、長期戦になるぞ…！

気合を入れろ、オレ！

第三話・破地落天

パペル塔の「オキタ館長」は名前つながりの半分冗談で抜擢されただけの小柄で小太りの昼行燈な普通の中年女性だと思っている一般来館者や末端スタッフらは多い。

実は元職が護島隊員の救援レンジャーで。じつはカコさん命名するところの「自宅警備員」なるガードマン業務スタッフに武術や捕縛術を指導しているのもこの人だ。

元職場内の男性社会の中で不正やセクハラを告発したら嫌がらせで退職強要されて裁判で闘って敗けて、心身ともにボロボロになって路頭に迷ったところを、裁判支援者だったカコさんに拾われた、という経緯は、意外に知られていない。

館内管理の通常業務を職分とする直属部下の普通人・田中真理は、「ぴぎゃあああ！」とひたすら叫びながらしがみついていた机の下から、ようやく這い出して来た。

すでにオキタ館長はインカム装着済み。

カコさんの声に応えて素早く「こちらは無事」の報告を済ませて、状況把握している。

「震源… ハッカシヨ村？」

「えっ？」

「ポッポロには、津波は来ない。」

「ふああ」

「ポーシャ毒、震災か？ …またか…！」

「嫌～！」

「泣いてる場合じゃないぞ田中！全館非常時仕様！地下ダンジョン開放と収容の準備！」

「はいっ！」

のそのそと這い出して涙と鼻水をすすりながら、毎月の避難訓練で何度も手順の確認だけはしてきた緊急用の機材を取り出して、震える手をなだめながら画面を開いてボタンを押して行く。

パペル塔と寮の地下は、ダンジョンになっている。

本当の広さと構造は、誰も知らない。

というのは、よく知られた都市？伝説で。（カコさんが面白がって広めたのだ。）

普段は本当にただの娯楽アトラクション用の「迷路」として、観光客や「聖地」訪問のファンの人たちに有料で提供されている。

カコ先生原作マンガやアニメのキャラの絵柄の、記念撮影用の等身大ボードや、探索用クイズの案内画面が点在している、その地下の…

廊下の。

壁に埋め込まれたドアを開けると中は非常用の頑健な避難個室になっていて。

一部は平常時から一般宿泊者にも泊まれるようになってて。

地元の人には、自治体を通じて、ひそかに周知はしてある。

災害時、家が壊れた人は...

パペルの足元へ。

と...

がこん、がこん...と、軽い震動音とともに、地下ダンジョンの隔壁が上がったり下りたり、移動したりして、震災時長期耐久仕様に変更されていく。

入浴中だったスタッフたちや客たちが、ぽたぽた水滴を垂らしながら、とりあえず服だけ着たり、服のロッカーがどうにかして開けられなくなったのか、ガウンのような館内着だけ羽織って、がくぶる涙目で膝が笑っていてそれでも職務熱心なスタッフたちに誘導されて、ぞろぞろと地下に向かう映像が、目の端の監視カメラに映る。

「食糧その他、備蓄状況は良し！館内設備、地上地下ともに大破はなし！」

「空ビットが人を連れてきます！受け入れ対応お願いします！」

「了解」

カコ先生...ウマシカ先生と、...オキタ館長が。

小説や漫画の中のようにカッコよく冷静に、事態の收拾に当たってくれてる...

田中真理はぐちゃぐちゃになっていたポニーテールをぐいと縛り直して涙をふき、鼻水をかんだ。

大丈夫だ...

今度も、きっと。

きっと、何とかなる。

何とかなる...！

第四話・国破在山河

「まさかそんなことは、な～...い、...だろ...？」

とは思いつつ、気にはしていた。

ポックル島の対岸というかお向かいというかお隣島のポンニ島国には、巨大な幻発電動機がある。

全島のエネルギーを賄って余りあるとかいう超巨大なネットワークは、使えば使うほどポーシャ毒、という有害な副産物を出しまくっている、らしい。

このポーシャ毒は分解するのに時間がかかるので、とりあえず一か所に集めて埋設保管している。

一か所では収まらなくなったので、次々作って現在八か所に巨大な穴がある。

その、巨大なポーシャ毒ゴミ埋め場のハッカシヨある村が...

地震や津波に、遭ったら。

風向きからして、主な被害はポックル島国のほうにくる...

越境攻撃行為だ！

と、怒ったポックル島政府が対抗手段として、ポンニ島に近い岬の先端に幻発電動機を建設しようとしてたり。

その便利な収益性にうっとりし過ぎて首都ポッポロ市の近郊にまで作ってしまったたり。

...した、話は、この際、置いておくとして...

ポーシャ毒素は、いちど着いたら、なかなか取れない。

分解できない。解毒もできない。

生命全般に有害で、病気になるし、死にもする。

以前の...若い人はもう覚えていない世代がほとんどだが...ポン二本島を襲った大災厄では、多くの農地や山林や野生の動物や家畜や人間が...

飛び散ったポーシャ毒の、犠牲になった。

今でも、その傷跡は、完全には癒えていない...と、聞く。

それなのに...

前々から、カコ先生や、地震予知や災害対策に関心の高い人たちが、「あそこは危ない危ない」と、騒いでいた、まさにそこが今回の震源らしい。

ポックル島とポンニ島のちょうど中間の海峡湾内のごく浅い場所で、超・巨大発震。

一も二もなく幻発電動機とゴミ捨て穴の護岸は崩れ去り。

そこへ次々と...引いては襲いかかる...多重津波が覆い尽くした。

原型を留めず海の下に全て沈んだようだ、まるで伝説の悲劇アトランティスのように...

と、普段はカコ先生のエンタメ作品ファンクラブ活動をしている「ポーシャ毒監視班」の最寄りの人々が、超望遠レンズで対岸から撮った画像を全世界に公開した。

地球上すべての人々が、現在ちょっくら「ポーシャ毒パニック」中らしい。

それも気持ちはワカルが...

もっか当面の問題は。

と、実家の稼業の伐採林業従事者という跡目は継ぎつつ業態変換して育林...それも有機林業で...と、夢の実現に向けて着々と地歩を固めていた狩野兄妹は涙目でニュース速報を観ていた。

幸いまだ晴れているので太陽電池で充電しながらだ。

家と事務所は揺れたけど倒れはしなかった。

家族と知人と友人と職員関連その他の地元の大きな怪我也も死者もなかった。

乾燥中だった木材山も、崩れたけど折れたり割れたりはしていない。

むしろ災害復興に向けて建築資材の需要と価格は高騰が見込めるだろう。

...ただ。

明日から、大雨が降るという。

まさに、ポーシャ毒が絶賛噴出中の、ポンポン湾から、雲が...

湧いている最中だと、いう...

「...無事ですか〜？」

「うましか先生ッ！」

「...カコです...」

午後遅くなってから、パルパレ有機林業帯発足支援団体の筆頭募金主のウマシカ先生が電話をくれた。

全員無事、と状況をざっと伝えると、「ああ良かった！」と言ってくれつつ、カコ先生の連絡の主眼は、そこじゃなかった。

「明日から雨ですよね？」

「はい...」

「森、守りたいんです。」

「はい...」

「用意してあったものがあるんですけど... 副作用というか損害も、出るかもしれないんですけど...」

「はい？」

「試してみても、いいですか...??」

とりあえずお願いしますと言ってみたら、一時間も待たずに、空飛ブータと僚機が連れだって、ぶんぶん飛んできた。

「今から〜、森の上に、天幕を張りまーす！」

「はいい？」

「こっちのブータ号と〜、あっちの子ブータ号で〜、...こう？」

実は自分もまだよく解っていないらしい運転士の富田さんたちが簡単な図面を開いて、作業予定を説明してくれる。

二機の飛空車のあいだにロープというか穴の開いたホースを張って。

よくある、広い田畑の上空から農薬散布をするのと同じ要領で、「泡あわ幕まく」の希釈液を散布するという。

「いわゆる煙タイソレイヤの逆版... いいもん役ってことですか？」

「ポーシャ毒の対抗予防注射、的なの？」

「噴霧と違うんです。」

噴射された薬液が空中で酸素に触れると広がって固まって、何というか、プチプチシート？のような多層構造の、軽いけど頑健な膜状になって。

広く山林の上をビニールハウスのような形に、数キロ平方単位で覆ってくれるという。

「カコ先生が〜、言うには〜、初期被毒を避けられると〜、予後がかなり違くと〜...？」

「一ヶ月ほどで幕は自然に融けて消えるそうです。素材はトウモロコシの茎とジャガイモの皮なので、生分解性は高く、環境負荷は少ないはずと」

子ブータ号の真田運転士が比較的専門的に説明を補足してくれる。

「想定される副被害としては、融けるまでの約一ヶ月のあいだに日照と呼吸を妨げて、植物を枯らしてしまうかも知れないこと。それでも推奨したい理由は、葉と表皮と土壌を、直接の汚染

から護れる可能性があること。...だそうです。」

森林関係者一同、三分間ほどだけ、額を集めて協議した。

ウマシカ先生が言うことだ... 試作品でも、トライする価値はある...

なにより日暮れがもうすぐで。飛空車は飛べない時間になるし、それまでに一人でも、人命救助に向かってほしいし...

「お願いします！」

「ぶい〜ん！」

かっこいいとは、こういうことさ♡

とか、ポーズを決めてにやっと笑って、空飛ブータ親子号は、元気に発進して、無事に任務を果たした。

第五話・大地讃頌

「パサミカワ農場のドームハウスは無事だそうです」

カコ先生が言った。ああ良かった。

「作業所はちょっと損壊したそうですが、人は無事。資材も無傷。」

ヨシノさんがぼやいた。

「ツキパタも素直にドーム化しておけばよかった...」

「今からします。」

「へ？」

「とりあえず応急の仮設措置なので、台風級の強風が来たら破れますが」

「ほえ??」

あくまでも「天然の太陽と雨と風」で、有機栽培...になるべく近い...農法がやりたいとこだわったヨシノ以下主要メンバーが反対していたせいで、いままでパベル塔の周辺に広がるプキパタ農場の田畑と林野は雨ざらしで吹きさらしの、天然の大地の上、空の下にあった。

「冬季休業中の収益性が~★」とか、副社長ら主要経営陣との間では喧々諤々の応酬が繰り返されてきた。

「このままドームハウスで定着するかどうかは、今回のポーシャ毒災害の騒ぎが一段落してから、また落ち着いて話し合うということで... いい？」

「...っす。」

雨が降って農地と生育中の作物すべてがポーシャ毒にまみれてからでは遅い。

ヨシノさんは少し哀し気な眼をして、覚悟を決めて潔く頷いた。

(ああ... オトコらしいわ...♡)

心の奥で呟くのは、自称「心はオトメ」系だけど見た眼はハードゲイだと勘違いされている、本名は鷹野王也だ。

彼女?の恋路と農場の明日は、前途多難だ...。

もたえる彼女?のわかりやすい仕種を横目で眺めて苦笑したり鳥肌たてたり、しつつ。

施設整備班は無事だった電動農作業車を借り集めて来て予定の機材を着々と積み上げ、素早く展開した。

消防出初式のホースの色シャワーのような水の柱が立ったかと思うとすぐに固まって、それなりに強度のある風船の柱のようなものが出来上がる。

そのアーチを畑から畑へと、何本もかけてまわる。

そのアーチの上を中型のドロドロロンがぶんぶんと飛び回って泡あわ膜幕とやらを噴射する。

固まる。

「ほえ〜...」

ヨシノとタカノの名物コンビは、並んで呆然と作業を観ていた。

「こんなこともあるのかと。」

カコ先生は、定番の科白を呟いた...

地下ダンジョンへは着々と、避難の地元住民が、車で詰めかけて来ている。

第四部 (結) ・ パンプキンパイで賜なもんティー。

第一話 ・ F I F S、発動。

ついに【F I F S】が発動した。リアル発動だ。

いままでの、ネット上の意見交換や、あくまでも「架空の」事態を想定しあった上での、机上の空論的な対策問答の発表会では...ない。

【F I F S】とは【S F & I F】のアナグラム...というか、「悪魔的な」逆読みだ。

その実態は、元をただせば【S F 作家と I F 設定愛好家による世界救済計画検討会】なる、いわゆる単なる『同人 (ファンジン) 活動』に端を発する。

ただし、参加メンバーはハンパじゃなかった。

不滅の名著『パリー・ホーター』シリーズの作者とその子孫たちや、名だたるハリウッド映画の監督やら脚本家らを初めとして、S F ・ F T 界の大御所やら重鎮やら長老やらと呼ばれる超人気クリエイターたちや、はたまた S F (フィクション) とは無関係に実際的な政治的発言を続けてきた著名なポーベル文学賞受賞者らや、政治的関心は低いのかと思われていた各国の人気エンタメ作家や、アニメ監督やら漫画家やらが。

早期から、錚々たる名前を連ねて検討会に参加していた。

もちろん、われらがウマシカ先生が末端に籍を置いていたのは、言うまでもない。

議題はひたすら、「今のまま放置していたら、人類と地球は、どうなるのか。我々はどこから来て、どこへ行くのか。何が出来るのか。...いや、するべきか? なさざるべきか? はたはまた...??』という...遠大な、もので。

机上の空論だと、実際に命を張った活動が続ける環境保護活動家や人権活動家、反政府武装闘争を闘う独立運動やら非暴力直接行動を続けて殴られ殺され続けている...市井の人々からは、当初は嘲笑された。

しかし。

リアル発動した。

クラウド (雲) ファンディングの向うを張って、計画名は『ネビュラ (星雲) ファンド』と発表された。

人類救済計画だ。生命と文化と尊厳の。

できれば、全生態系の。せめて、健全な個体が生きているうちに...

遺伝子情報を。

はじめ、ハッカショ村が海に沈んだ当初。

世界人類はそれを『史上最悪の人的震災』と名づけて嘆き悲しんだ。

ポーシャ毒の雨や風で甚大な被害を蒙った各国政府はポンニ島国政府を激烈に非難し糾弾し、「地球に対する罪」として国際法廷で欠席裁判を行い、天文学的数字にのぼる損害賠償請求を突きつけた。

国際司法警察が鼻息も荒く乗り込んだ時。

ポンニ政府首脳陣は、すでにすべて遁走した後で、国会はもぬけの殻だった。

軍部が速やかに後を引き継ぎ実権を掌握し、「賠償支払い義務はない！」と、世界を敵に回した。

大紛糾した。

しかし。

後に『炎の七年間』と呼ばれる悪夢の日々が、突如として始まった。

数々の小隕石が飛来し。あるものは地表に衝突し。

衝突回避のために集まった技能集団は悪魔教だの魔女呼ばわりされて一般人類から排斥され。

各地でありとあらゆる民族紛争と人種対立と階級闘争と独裁弾圧と反政府闘争と武装革命と無政府『逃散』運動が激突し。

地震と噴火と津波と異常気象と幻発電機の連鎖的事故多発と次々の発生するポーシャ毒霧の雲の、さらにさらにさらに濃縮された汚染竜巻や汚染海域が、全地球上を、ところ狭しと席捲し

...

悪夢の泥沼。としか言いようのない世界になった。

不思議と一部の世界通信システムだけはかろうじて生きていた。

生命への災害！と非難糾弾され続けた既存の大企業主導の6G通信網に対抗して、『無我システム』と呼ばれる全く新しい通信技術の民間ボランティア開発チームを、FIFSが資本支援して、密かに立ち上げ、普及させていた...

おかげだ。

FIFSに賛同する者らに無我システムを通じて『ネビュラ・ファンド』への全力支援が要請された。

世界が動いた。

無能無策な上に庶民を苦しめる役にしか立っていない各国政府や国連にはもう任せておけない！

人類、サバイバルのために、あらゆる国境も人種も経済力も超えて...

手を、つなごう。

リアル異世界な、おとぎ話だと、みんなは喜んだ。

それしか、もはや、希望が無かった。

持てる者は全私財を投じて資金援助した。

持たざる者はそれぞれなりに出来ることをして動いた。

すでに定着していた『宇宙旅行』（無重力高度まで往復二泊三日程度の娯楽体験だ）用の飛宙機生産技術が、全権利を放棄して開放された。

世界中から技術者がボランティアで集まった。

企業は資材を放出した。

訓練を受けた人々が次々に宇宙へ上り、急ピッチで巨大宇宙港が建設された。

名前を、『ポート・オブ・ピープルズ・パワー』

...『3 P S』（スリーピース）と称した。

最大二万人ほどが、収容可能だった。

続々と移住した。

そして次々と、宇宙移住希望者のための受け入れ居住施設の建設が...

続いた。

ポックル+ポンニ+ポキナワ列島（ほぼ同一言語使用圏内）からの移住者団の初代代表は、パペル社とは何やかやと縁の深い、アサヒガモリ学園出身の高原リツコが務めた。

美味賜香子を筆頭として、パペル社からも首脳陣の多くが初期移住に参加した。

第二話・ プウパリ補完計画

パペル社のすべてが宇宙へ移住したわけではない。

「あたし高所恐怖症だし。骨も弱いし。打ち上げのGに内臓が耐えられない気がするし」

という理由で残留希望を最初に公式表明したのは、原作アニメ化の際にメイン原画を担当していた、アルノ涼子だ。

「地底に潜っても宇宙との通信網は生き残るって聞いたし、コンテンツ産業って意味では通信網さえ生きてれば、今は少人数でもアニメ動画は制作可能だし。

...カコ先生やみんなとお別れするのは寂しいけど～。

...母なる地球とお別れしてまで、宇宙で生きていきたくない。気が、するし? ...」

同調する者は、案外多かった。

パペル社独自のプロジェクトとしては資材と人材不足で頓挫しかけていた『プウパリ炭鉱遺跡巨大地下城掘削開発計画』に、F I F Sからの公式支援がついた。

実際問題として、宇宙空間に全地球人類と生態系を短期間ですべて移住させきるというのは、無理だ。

穴を掘った。掘った。掘った。

掘っては岩石を溶かして壁を造成しながら掘り進める、『ミミズ型』掘削機が大量生産されてポックル島の頑丈な土台岩盤の上を掘り彫りしまくった。

いずれ何万年か後には、大陸移動に伴って、海底に沈むけど。

それまでの間には、地表に戻れるような環境再生技術が開発されることを、信じて...

プウパリの地下は、ポックル島民の希望の聖洞となった。

ポーシャ毒と有害紫外線と溶岩と噴石と隕石と宇宙デブリが、雨あられと降りまくる地表を避けて。

地下交通網がポックル島内に張り巡らされた。

植物の育成に必要な不可欠な波長の太陽光だけ、反射孔を通じて地下街に導入され拡散される。
地下通路沿いに街路樹のようにして長く幅広い森林帯が育成された。
有機、林業で。原生態系と土壌と土壌菌をそっくり、保全して。
農場と牧場も、地下に移った。
今は公認の恋人同士？となったらしいヨシノとタカノは、地底に残留組を、選んだ。

第三話・ パンプキンパイで死なもんティー。

「...ETか、ヨーダ様のような、外見になってしまった...」

カコさんはそう呟いては周囲の笑いを取る。

宇宙移住の際に腰を痛めて、自室外に外出する祭にはもっぱら自走式車椅子が頼りだが、まだまだ頭も心も健在で、若い人たちからはそのまんま「マスター・カーコ」と呼ばれてけっこう喜んでいる。

月の重力に釣られて移動する『3PS』では、真上から見下ろせる地表のポイントもそれにつれて移動する。

母国の真上を通過する時には、民族系飲食店ではリアルタイムで画像を床に投影して皆で集まって懐かしむのが新しい習慣になった。

月面にも転送された。時差はものともせずに。

月面では天上に投影された。

津波と土石流に幾度もさらされて洗われて地表になかば剥き出しに現われたその姿の全景は、何やらどこぞのアニメの船の姿に似ていた。

パペル塔は、艦橋のような位置に突き立っていた。

今もその構造物は無事で、地表放浪者のビバーク場所として活用されている、らしい。

その玄関には、刻印された銘板が張り付けてある。

=====

パペル緊急避難支援チームは本年2222年2月2日をもって解散し、

本社機能は軌道上L-1ポイント『3PS』内に移転しました。

御用のあるかたは無我チャンネル *****

までご連絡下さい。

弊社地表活動のすべてを支えて下さった皆様に感謝を捧げます。

引き続き避難希望者の受け入れは、プウパリ基地にて行っております。

(方角を示す⇒と地図)

=====

これを眺めるたびにカコさんは、「しまった！いま月に移転済みって追加しないと！」と呟く。

。

終 話・ ここより永久に。

享年143歳。

驚異的な長寿と若々しい外見を保った。

眠るように身まかった。

宇宙空間でフリーズドライにして粉砕処理をした後、

小さなカプセルに詰められて、カコさんは地表に帰還した。

墓碑銘がわりの銘板には、パペルの月面事務所連絡先が、しっかりと刻まれていた。

宇宙人類の大半が故星・地球を遠く離れてしまった今でも。

それらは今もそこにある。

...たぶん。ね...

(設定資料)

(設定資料)

(借景資料集)

『前世ネタ』仕立て。

<https://85358.diarynote.jp/201912191526191390/>

(地震につき仮保存) (15:23) (転記@12月19日)

2019年12月19日 [リステラス星圏史略](#) (創作) [コメント \(1\)](#)

なおん @UllfCsUxm1TwBeB · 7月11日

失礼ですが、お子さんは何回目の人生なのでしょうか…。

<https://twitter.com/campanella2058/status/1149152058794053632>

↑

カンパネラ @campanella2058

返信先: @UllfCsUxm1TwBeBさん、@negaihakanauuさん

前に聞いた時は、「????、わかんない。どう云う事？」と。

輪廻の話をざっくりしたところ、

「あたしは、またあたしになりたい」って言ってたので意外と初回かもしれません。

↑

アラハバキ @arahabaki_666 · 7月11日

返信先: @campanella2058さん

それも悟ってる人の言葉やん…

=====

トラウマケア専門『こころのえ』相談室 @e98SnMZJchlqjt

#解離性同一性障害 や複雑性PTSDの人は、本来の自分が闘争・逃走反応するよりも、必死で自分を抑えたり、恐ろしい感情や感覚を切り分けてきました。

日常生活でピンチになると、体が凍りつきますが、そのとき、

自分の背後にいる悪魔的人物や守護者人格が自分の背中を引っ張って交代しようとしてきます。

<https://twitter.com/e98SnMZJchhlqjt/status/1149348347649482752>

↑

《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 · 7月11日

《歌いながら大地を歩く》霧樹里守さんがトラウマケア専門『こころのえ』相談室をリツイートしました

ついでにそいつらに名前をつけてキャラ立ててストーリー組み込んで、『前世ネタ』仕立てにしちゃったりもしてますが... なにか? (¯ _ ¯)

<https://twitter.com/MasakoTsuchiya2/status/1149365179366252544>

=====

《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 · 7月11日

《歌いながら大地を歩く》霧樹里守さんがトラウマケア専門『こころのえ』相談室をリツイートしました

私。(_ _)

<https://twitter.com/MasakoTsuchiya2/status/1149250244183392257>

↓

トラウマケア専門『こころのえ』相談室 @e98SnMZJchhlqjt

トラウマ持ちや発達障害の人は、人間集団の中にいる自分の身体に問題が出ます。例えば、他者の視線にさらされたり、人に悪く思われると、体が石のように固まるか、逃げたくなります。人との距離が近づくと、過敏に反応し、硬直したり、不快感が出るため、社会生活や異性関係に悩むようになります。

<https://twitter.com/e98SnMZJchhlqjt/status/1149244544895995904>

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2019年12月19日17:06



...あ、日付が今日になっちゃった...w w

《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2・7月11日

《歌いながら大地を歩く》霧樹里守さんがビルケランドⅡ世をリツイートしました

...その発想はなかった...。(@@;)。

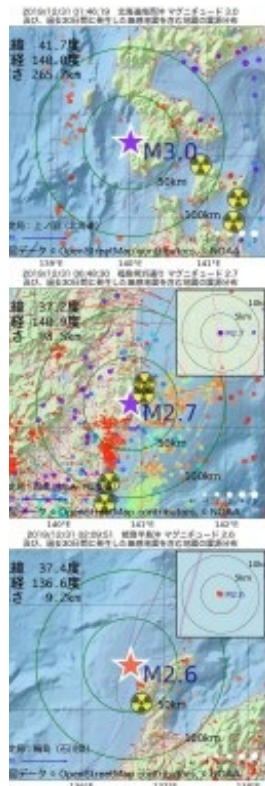
<https://twitter.com/MasakoTsuchiya2/status/1149142124199215104>

(2019年12月31日) りあるネタが有り過ぎる! (><p)!

<https://85358.diarynote.jp/201912310852035158/>

(借景資料集)

2019年12月31日 [リステラス星圏史略](#) (創作) [コメント\(1\)](#)



中津川 昂 @subaru2012 · 23時間23時間前

民間ロケット「MOMO」発射延期 31日以降に打ち上げへ

<https://twitter.com/subaru2012/status/1211443293138997248>

<https://twitter.com/subaru2012/status/1211442938095357953>

=====

震源マップ@地震くん @jisin_kun · 7時間7時間前

【地震情報】 2019年12月31日 01時46分

#北海道南西沖 でM3.0の地震。

https://twitter.com/jisin_kun/status/1211696290884534275

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたら句きあり\)](#)

2019年12月31日8:52

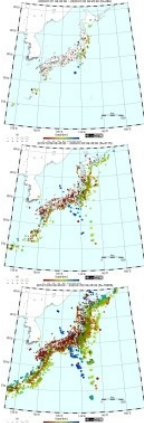
りあるネタが有り過ぎる！ (><p) !

(2020年1月2日) 「ミッシングリンク」が埋まった！

<https://85358.diarynote.jp/202001020852403507/>

[生活に困っている方が食事ができて生活相談もできる場所です。](#)

2020年1月2日 [リステラス星圖史略](#) (創作) [コメント \(3\)](#)



<https://www.youtube.com/watch?v=Wxn1Hk0TQ3I&list=RDKCyk5j8cDyM&index=27>

耳をすませば「カントリーロード」歌詞つき "TAKE ME HOME, COUNTRY ROADS" covered by Miho Kuroda

=====

...ネタには事欠かねえ...w

↓

大沼安史さんがリツイート

雨宮処凛 @karin_amamiya · 2019年12月31日

四谷の年越し大人食堂へ。

生活に困っている方が食事ができて生活相談もできる場所です。

なんと料理を作っているのは枝元なほみさん！美味しい手料理をご馳走になりました☆

https://twitter.com/karin_amamiya/status/1211932573242286082

まつふじさんがリツイート

弁護士 亀石倫子 認証済みアカウント @MichikoKameishi · 1時間1時間前

「もちろん売名です。でも、ひとつ付け加えていいですか
私はいままで、これだけのことをやってきました。あなた、私がやってきたこと全部やってから、もういっぺん同じ質問をしてくれますか」

<https://twitter.com/MichikoKameishi/status/1212496164685111296>

=====

<https://www.youtube.com/watch?v=RSx31uutIQE&list=RDKCyk5j8cDyM&index=27>

空と君のあいだに / 中島みゆき (Cover) [高音質] フル

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたら句きあり\)](#)

2020年1月2日23:44

...第二稿！

終わった—————い♪！(^o^)！

毎度あいかわらずの「予想外のエピソード」(というか裏設定?)が！

勝手に加わってきて！ かねて謎だった「ミッシングリンク」が埋まった！

w (^ w ^ ;) w''''''''

ご飯たべて寝ます！

推敲して、アップするのは、明日～☆☆

<https://www.youtube.com/watch?v=r3JkWiVQPOs&list=RDmxG8uofQ8Jw&index=4>

Kokia - Yasashii Shirabe [Sub Español]



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたらけきあり\)](#)

2020年1月3日5:56

～069...2022...☆

⇒0692113。



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたらけきあり\)](#)

2020年1月3日6:09

...クォクだ～！ w w w

<https://www.yodobashi.com/product/100000001003592703/?>

[gad1=&gad2=d&gad3=&gad4=383319353685&gad5=7665805361164670199&gad6=none&gclid=EA1aIQobChMI97XoenI5gIVW8KWCh34rwMwEAEYASAGEgK0tvD_BwE&xfr=dyn](https://www.yodobashi.com/product/100000001003592703/?gad1=&gad2=d&gad3=&gad4=383319353685&gad5=7665805361164670199&gad6=none&gclid=EA1aIQobChMI97XoenI5gIVW8KWCh34rwMwEAEYASAGEgK0tvD_BwE&xfr=dyn)

(執筆関連日誌)

(執筆関連日誌)

(2019年11月16日) 「スターツ出版 キャラクター小説大賞」

<https://85358.diarynote.jp/201911170026183325/>

[【明日のために！】 その位置。 \(⇒1月7日。文字数8万字以上\)](#)

2019年11月16日 [リステラス星圏史略 \(創作\) コメント\(1\)](#)

明日の作業はここから。(メモ)

⇒<https://85358.diarynote.jp/201905280600074970>

=====

投稿先！ エンジン炎神... 始動！

...これ、毎月？やってるんだ...?? (⇔10月10日のは、応募済み。)

↓

<http://cobalt.shueisha.co.jp/write/newface-award-apply/>

「短編小説新人賞」(集英社コバルト)

第205回 2019年12月10日 ※当日消印有効

応募内容 日本語で書かれた、自作未発表の作品。

応募原稿 400字詰め原稿用紙25~30枚。

応募方法 郵送応募またはWeb応募

↑

問題は「集英社」...w(^^;)w...

=====

...待て。(もう間に合わないけど!)...なんで「コレは捨てた」んだっけ...??

↓

https://www.ucatv.ne.jp/hoshinosuna/prize_2019.html

「第1回スターダスト ノベル大賞」

「ネット文庫星の砂」はAmazon Kindle専門の電子書籍レーベルです。コンテストを経て受賞に至った作品を電子書籍化し出版しています。

このブログでは「ネット文庫星の砂」の新刊情報や作品の紹介を行っていきます。

あわせて、姉妹サービスの小説投稿サイト「小説家のたまご星の砂」のコンテスト情報等も更新していきます。

↑

...ま、いっか... 「合いそうにない」感じだ...

=====

☆新発見☆

<https://www.ganganonline.com/award/gensakusyaaudition.html>

テキストネーム限定! マンガ原作者オーディション

10月7日～11月6日までの投稿作品：11月21日

11月7日～12月6日までの投稿作品：12月19日

12月7日～1月6日までの投稿作品：1月20日

募集内容 少年マンガの原作になりうる内容の作品のマンガ原作プロット

=====

...え～と...あれ??

肝心の! 「明日から書こう!」と思ってたやつの応募要項は... どこだ...??

=====

代理?

キャラもの https://estar.jp/official_contests/159405

百合文芸?! (^^;)! <https://www.pixiv.net/novel/contest/yuribungei2>

カドクァワ... <https://www.pixiv.net/artworks/77680610>

=====

！【創元SF】！ <http://www.tsogen.co.jp/award/sfss/11th/#awardKitei>

(短編) (1月14日)

=====

...一迅社はこないだ社長に喧嘩を売った...w

http://www.ichijinsha.co.jp/special/iris/neof_award6/

=====

あった！これだ？

<https://novema.jp/article/contest/starts-chara>

スターツ出版が主催する「スターツ出版 キャラクター小説大賞」

ターゲットは大人！

恋愛から、お仕事、あやかし、飯モノ、ご当地、ミステリー、ホラー…。ジャンルは様々です。

登場するキャラクターたちの魅力が満載、かつストーリー性があり、ワクワクドキドキできる、エンターテインメント小説を募集します。

次のスターツ出版文庫を担うのはアナタです！ご応募お待ちしております。

(1月7日)「ノベマ！」上で、文字数8万字以上

↑

<https://starts-pub.jp/profile/profile>

...電通、博報堂...w (一一;) w

...ま、まず、「はねられる」覚悟だな...www

(でも「嫌いじゃない」会社だ... ソレ大事!)

=====

【本命】 <https://qdopp.co.jp/campaign-worldnovelproject-announcement>

(1月31日)

=====

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守⇨畑楽希有 \(はたらけきあり\)](#)

2019年11月17日0:27

...寝ます...★

(2019年11月17日) 前途多難だこれはw

<https://85358.diarynote.jp/201911171954429224/>

[【会員登録】が...出来ないッ！？](#) [www](#)

2019年11月17日 [リステラス星圏史略](#) (創作) [コメント\(3\)](#)

<https://www.youtube.com/watch?v=XYoTrI5RE-k>

2-Hours Epic Music Mix | Most Beautiful & Emotional Music - Emotional Mix Vol. 2

=====

【再掲】とりあえずコレの「2019年5月末」まで転載作業終了。(未編集)

⇒<http://p.booklog.jp/book/127522/read>

=====

おばんです。19:20。ようやく原稿脳が再起動！

...までたどり着いたところで、今週末が終了。(^^;)

さて！

とりあえず「年内に」これ！⇒ <https://novema.jp/article/contest/starts-chara>

とりあえず「冬休み」は、がっつりカクホしたから...時間はある！（はず！？）

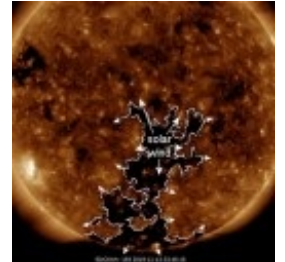
スターツ出版：キャラクター小説大賞

スターツ出版が主催する「スターツ出版 キャラクター小説大賞」

ターゲットは大人！

恋愛から、お仕事、あやかし、飯モノ、ご当地、ミステリー、ホラー...。ジャンルは様々です。

登場するキャラクターたちの魅力が満載、かつストーリー性があり、ワクワクドキドキできる、エンターテインメント小説を募集します。



次のスタート出版文庫を担うのはアナタです！ご応募お待ちしております。

・「ノベマ！」にて書かれた作品のキーワードに『キャラ大賞』と設定してください。

・本文の最終ページに「400字程度のあらすじ」を記載してください。あらすじの内容を元に審査を進めさせていただきます。

※あらすじとは、ストーリーの全容、登場人物の設定や大きな流れを簡潔に明記したものです。

「ノベマ！」上で、文字数8万字以上

・複数のエントリー可とします。

・新作を推奨いたしますが、テーマに沿った作品であれば、既存作品での応募も可能です。

・2020年1月7日(火)13:00 エントリー及び完結締め切り

...あれ？ >「ノベマ！」上で、文字数8万字以上<

って...、「原稿用紙換算200枚」（以上）...！？

...少ない（短い）じゃん...（^^；）...★

=====

そして無駄に時間経過...「会員登録」しようとする、

「パスワードが違います」

「パスワードを忘れた」を押すと「まだ登録されていません」...

これ、「登録拒否」ってことかな...???

wwwwwwwwwwwwwwww (一一#)★

ひみつ日記

【月・女神・1】

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたら句きあり\)](#)

2019年11月17日20:28

年齢をサバ読んで入力したら受理されたwww

サイテーだなこの会社！ 中高年サベツ設定かよッ??



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたら句きあり\)](#)

2019年11月17日20:59

とりあえずここまで書いて力尽きた。(^^;)

前途多難だこれはw

<https://novema.jp/member/n1126692>



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたら句きあり\)](#)

2019年11月17日23:22

0682...123.

(2019年11月17日) 構成が固まらない。(^_^;)

<https://85358.diarynote.jp/201911172326379651/>

純白の、なまえ。(メモ)

2019年11月17日 リステラス星圏史略 (創作)

エピの質と量は足りてるんだけど、構成が固まらない。(^_^;)

洗濯してたらネタが出たので、先にコバルトの短編を書く。

今週終わり！



(2019年12月5日) (書き出し直前の) 「ネタ差し替え」発生！w

<https://85358.diarynote.jp/201912052207221755/>

[まさかの（書き出し直前の）「ネタ差し替え」発生！w](#)

2019年12月5日 [リステラス星圏史略](#) (創作) コメント (2)



さて。(^^;)

...あ、良かった。締切6日じゃなくて10日か...w



<http://cobalt.shueisha.co.jp/write/newface-award-apply/>

応募原稿400字詰め原稿用紙25～30枚。

第205回 2019年12月10日 ※当日消印有効

まさかの（書き出し直前の）「ネタ差し替え」発生！w



スターツ出版：キャラクター小説大賞

ターゲットは大人！

恋愛から、お仕事、あやかし、飯モノ、ご当地、ミステリー、ホラー…。

ジャンルは様々です。

登場するキャラクターたちの魅力が満載、かつストーリー性があり、ワクワクドキドキできる、エンターテインメント小説を募集します。

「ノベマ！」上で、文字数8万字以上（※「原稿用紙換算200枚」）

・2020年1月7日(火)13:00 エントリー及び完結締め切り

↑

...まで確認して、本日限界w

=====

ネタだってばw

↓

中津川 昴 @subaru2012・10時間10時間前

贈り物って結局、この世界にくる時、全員もれなく「命」という形で貰っているから、後天的に「足りてない世界」を教え込まれるんだらうね。もし全ての所有欲を取り除く強権的なシステム（共産主義や社会主義）を押し付けたらどうだろう、国が全責任を持って与え続けると命が担保される世界だ。

<https://twitter.com/subaru2012/status/1202415998193651712>

中津川 昴 @subaru2012・10時間10時間前

みんな何もせず無限に供給される幸せな世界が手に入ったはずなのに、なぜ足りなくなるのか、それはシステムが所有欲と一緒に生きる欲も奪ってしまったからなのか、誰も生産しなくなると、結局物資は有限となって、一瞬でなくなってしまい、とてつもない格差が生じて争いが始まり自滅へ突進する。

<https://twitter.com/subaru2012/status/1202417629429809152>

⇒リスタルラーナ（後期）

あれ？トリガーない...（^^；）...☆

=====

中津川 昴 @subaru2012・10時間10時間前

そういう「自分は全て足りている」という状態に到達できれば、この世界での体験は終えてもいい。むしろ「どうぞぞ持って行ってください、所有欲が満たされるまで

いくらでも」と言いたいけれど、結局、所有欲は物質では満たされないと言う所に気づいて、人に与え続ける事で所有欲から卒業できる

<https://twitter.com/subaru2012/status/1202413664390635521>

⇒<https://85358.diarynote.jp/201410011027044038/>

=====

中津川 昂 @subaru2012・12月4日

準惑星エリスが、予想より大きく、しかも褐色矮星（恒星）だった場合、太陽の伴星になるかも知れない。

<https://twitter.com/subaru2012/status/1202092501026443265>

エリス... (^ ^ ;) ...

エリスウェサ...

エイリス...

ええ、リスですが、何か...??

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたら句きあり\)](#)

2019年12月5日22:08

画像 2.

⇒「簡単です。速い！」

と読んじゃったのは、私だけではないはずだ...w



[霧木里守⇄畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2019年12月5日22:09

寝まーす！

(2019年12月15日) さくさく「第一部」までざっくり書けて！

<https://85358.diarynote.jp/201912151621562302/>

『 ターゲットは大人！ 』

2019年12月15日 [リステラス星圏史略](#) (創作) [コメント\(1\)](#)

<https://www.youtube.com/watch?v=FpQXJlyUmhQ>

海行かば 山行かば 踊るかばね / SOUL FLOWER UNION NO NUKES 2012

=====

さあてと！

(参照

⇒ <https://85358.diarynote.jp/201912150548138199/>

⇒ <https://85358.diarynote.jp/201912052207221755/>)

あれこれかれそれ多事多難！

ようやく！

予定より半月？遅れで～！ これに！ 辿り着きました！

「年内に」これ！⇒ <https://novema.jp/article/contest/starts-chara>

とりあえず「冬休み」は、がっつりカクホしたから...時間はある！（はず！？）

スターツ出版：キャラクター小説大賞

スターツ出版が主催する「スターツ出版 キャラクター小説大賞」

ターゲットは大人！

「ノベマ！」上で、文字数8万字以上

・ 2020年1月7日(火)13:00 エントリー及び完結締め切り

...さて... (^ ^ ;) ...。

今んとこまだ、「ざっくりプロット」が頭ン中にあるだけ～...ツwww

間に合うのか??

=====

あっやべえ！ これ（書きかけで）忘れかけてた...ッ！

↓

☆第11回 創元SF短編賞 応募規定

<http://www.tsogen.co.jp/award/sfss/11th/#awardKitei>

意気込みに溢れた新時代のSF短編の書き手の出現を熱望します。
未発表の“広義”のSF短編をお寄せください。

枚数：40字×40行換算で10～25枚。

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2019年12月15日19:41

さくさく「第一部」までざっくり書けて！

（原稿用紙換算40枚）でした。

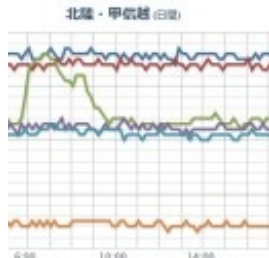
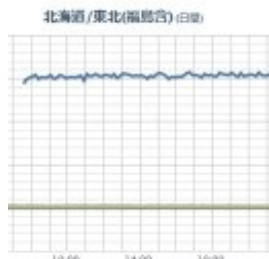
とりあえず休憩！

(2019年12月28日) ちょっとだけ、進みました...★

<https://85358.diarynote.jp/201912282209592707/>

祝！閲覧数 3,000！♡

2019年12月28日 [リステラス星圏史略](#) (創作)



<https://www.youtube.com/watch?v=zA-aQRpstE4>

Música Épica Instrumental de Batalla Legendaria | Música Motivadora Heroica de Guerra 2017

↑

原稿とも下の情報ともあんまり関係ありませんw

↓

リステラス星圏史略 古資料ファイル Ω-X-0

(霧樹りすはアルパカ狼さんの夢を視るか?) (前史) (~2014)

無料 小説・ノンフィクション (ファンタジー, 恋愛) 67ページ

2ダウンロード コメント (0)

閲覧数 : 3,000

<http://p.booklog.jp/book/117103/read>

w (^ w ^) w

んで、今やってる原稿は、ちょっとだけ、進みました...★

本日終了！

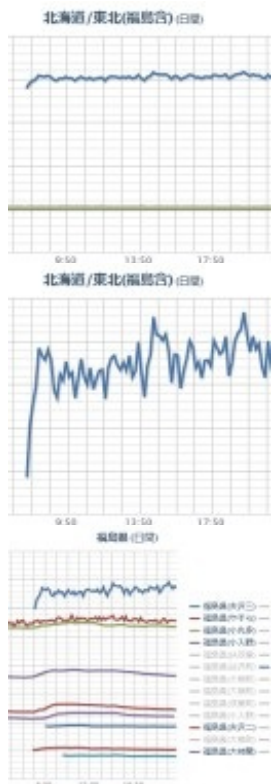
(2019年12月30日) とりあえず第一稿の四分の三まで書けたー！

<https://85358.diarynote.jp/201912300040115535/>

予定時間大幅オーバー！ (現在00:37)

。

2019年12月30日 リステラス星圏史略 (創作)



<https://www.youtube.com/watch?v=dONb5CBs>

Best Of Christmas Music Mix | Greatest Christmas Orchestral Music - Epic Christmas Music

↑

(タイミングずれててすみませんw)

=====

予定時間大幅オーバー！ (現在00:37) したけど、

とりあえず第一稿の四分の三まで書けたー！

(楽しかった！)

本日終了！

(現實無視！)

(2019年12月30日)

<https://85358.diarynote.jp/201912301908428474/>

(沙戯世宇宙)。

2019年12月30日 [リステラス星圏史略 \(創作\) コメント \(3\)](#)

<https://www.youtube.com/watch?v=45wVtiJAzjk>

Celtic Fantasy Music – The Druid of Spider Forest | Fantasy, Magical, Enchanted

=====

ごめん。(先に謝っておく。)

⇒https://twitter.com/FiFS_PR

...まあ、カキコミ停止しているから、いいか...w

...活動は、してるのかな...??

⇒<https://fifs.jp/>

なにをって? いま書いている原稿w

とある秘密組織(?)と、名前が被ったww

(まあ、悪の組織じゃないし、むしろ名誉な? 「偶然の一致」ということで...w)

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたら句きあり\)](#)

2019年12月30日22:22

22:22。



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2019年12月30日23:26

年末12月30日の23:23の、

外気温が...+5...℃...!! (--;) !!

「猛吹雪」の予報だったのに、「雨嵐」が降っている...

雪はぜんぶ融けてしまった。

異常気象。

異常気象。

まあいま書いてるハナシの気分にはぴったりなんだけどねえ...★

根性つきた。(^^;)

まだ終わってないけど、第一稿、これにて放棄!

(明日の夜、大晦日に、第二稿「やりながら越年」して、

元旦1月1日の夜に、第三稿仕上げて「初夢企画! ?お年玉??」として

アップしましょうかね...w)



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2019年12月30日23:26

猛吹雪...ならぬ、

大・暴風雨...が、始まりました...!!!!!!!

(寝ます!)

『！ 越年 ！』（w 投稿用 原稿 執筆中 w）

<https://85358.diarynote.jp/201912312225546079/>

[『！ 越年 ！』（w 投稿用 原稿 執筆中 w）](#)

2019年12月31日 [リステラス星圏史略](#) [（創作）](#) [コメント \(2\)](#)

<https://www.youtube.com/watch?v=mxG8uofQ8Jw&list=RDmxG8uofQ8Jw&index=1>

Kokia - Yume no Tochuu [Sub Español]

=====

ひみつ日記

【 目次 】

起： パペルの塔

- 一・ 小説家： 美味賜 香子（うまし・かこ）の日常。
- 二・ 調理師： 佐藤和子（さとう・かずこ）の仕事。
- 三・ 清掃員： 円藤美奈和（えんどう・みなわ）の業務。
- 四・ 漫画家： 宝剣 聖鉦（ほうけん・せいな）の本音。
- 五・ 管理人： 置田多恵子（おきた・たえこ）の観察。

承： かけこみTERA。

- 六・ 運転手： 富田都美子（とんだ・とみこ）の日課。
- 七・ 支店長： 滝川明子（たきがわ・あきこ）の業務報告。
- 八・ 副社長： 長野 緑（ながの・みどり）の嘆息。
- 九・ 農業者： 吉野清次（よしの・せいじ）の来歴。
- 一〇・ 校閲者： 佐賀 野絵瑠（さが・のえる）の陰謀。

転・ 本日沈没。

- 十一・ 秘書嬢： 細沼甲斐子（ほそぬま・かいこ）の青天霹靂。
- 十二・ 統括長： 嵯峨野 景（さかの・けい）の驚天動地。
- 十三・ 技術者： 田中真理（たなか・まり）の阿鼻叫喚。
- 十四・ 林業者： 狩野愛子（かのう・あいこ）の決断。
- 十五・ 牧場主： 鷹野王也（たかの・おうや）の煩悶。

結・ 天国への会談。

- 十六・ 通訳業： 高原リツコ（たかはら・りつこ）の呼びかけ。
- 十七・ 原画家： アルノ涼子（あるの・りょうこ）の宣言。
- 十八・ 発明家： 土岐真扉（とき・まさと）の救済。
- 十九・ 大統領： 豪田 行（ごうだ・ゆく）の統一。
- 二十・ 移住者： 過去 美味史（かこ・うまし）の墓碑銘。

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたら句きあり\)](#)

2020年1月1日0:54

てなことで、

あけましておめでとうございます！

(?) (めでたいのか??)

予定時間大幅オーバーしつつも、

第二稿の『起』の推敲&加筆まで、楽しく終わりました！

新年まずまずの滑り出しだと思います！ (個人的には。)

納豆2倍がけ白飯(贅沢♡)食べて寝まーす♪



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたら句きあり\)](#)

2020年1月1日1:34

はぁ美味しかった～♪

おなかいっぱい～い♪

今年も(?)

マメに動けて、

キムチ良く原稿が書けて、

適度にニンニクが効いた、

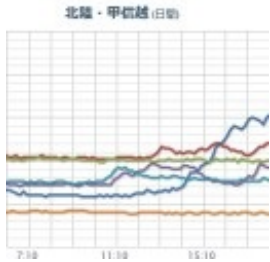
良い年でありますように～☆

(2020年1月1日) エルさんがまたもやぶっちぎりで大乱入しましたw w

<https://85358.diarynote.jp/202001012330011916/>

[2020年1月7日\(火\)13:00 エントリー及び完結締め切り。](#)

2020年1月1日 [リステラス星圏史略](#) (創作) [コメント \(3\)](#)



<https://www.youtube.com/watch?v=nrTu7BAjjCA&list=RDKCyk5j8cDyM&index=27>

Castle in the Sky Theme

(承前w)

第二稿の2の推敲&書き足し部分まで終わりましたw

なぜ6時間+3時間も?昼寝?してたのかは謎w w w

エルさんがまたもやぶっちぎりで大乱入しましたw w

続きはまた明日! (^_^ ;) !

(...ま、間に合うのかな...??)

↓

「ノベマ！」上で、文字数8万字以上

2020年1月7日(火)13:00 エントリー及び完結締め切り

<https://novema.jp/article/contest/starts-chara>

...まあ、内容がアレなので、「絶対！入選しない！」自信はあるw

んですけど。ね...www

<https://www.youtube.com/watch?v=qNxu5Q7FuBc&list=RDKCyk5j8cDyM&index=27>

手寫葵 - 時の歌 (歌集バージョン)

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたら句きあり\)](#)

2020年1月1日23:31

23 : 30.



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたら句きあり\)](#)

2020年1月1日23:32

23 : 32...w



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたら句きあり\)](#)

2020年1月2日5:50

↑
0 6 9 1 9 3 0

↓
0

6
9
1
9
6

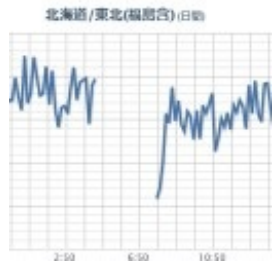
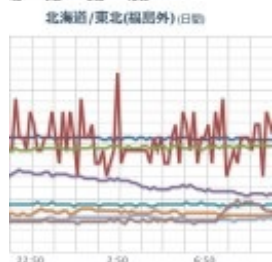
3...☆

(2020年1月2日)

<https://85358.diarynote.jp/202001030619043498/>

(12月03日朝の転記)。 (...『 おわ?!』の、後の作業)

2020年1月2日 [リステラス星圏史略 \(創作\) コメント \(1\)](#)



コメント

霧木里守≡畑楽希有 (はたら句きあり)

2020年1月2日23:44

...第二稿!

終わった—————い♪ ! (^o^)!

毎度あいかわらずの「予想外のエピ」(というか裏設定?)が!

勝手に加わってきて! かねて謎だった「ミッシングリンク」が埋まった!

w (^ w ^ ;) w''''''''''

ご飯たべて寝ます！

推敲して、アップするのは、明日～☆☆

<https://www.youtube.com/watch?v=r3JkWiVQPOs&list=RDmxG8uofQ8Jw&index=4>

Kokia - Yasashii Shirabe [Sub Español]

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたらけきあり\)](#)

2020年1月3日6:20

ゆうべ原稿に「現実逃避」のあまり、

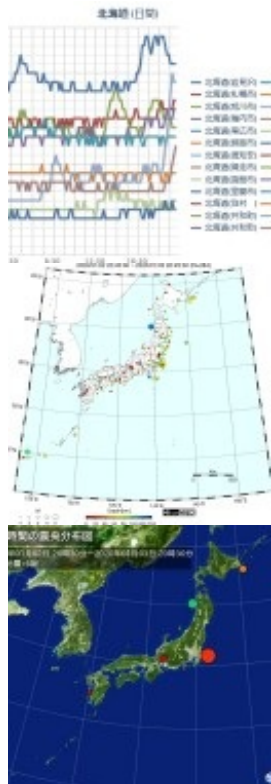
りある貼るの忘れて寝落ちしてた...w

(2020年1月4日) 第三稿！無事？に終わったーーーー！！！！

<https://85358.diarynote.jp/202001040346237486/>

十六・ 通訳業： 高原リツコ（たかはら・リツコ）の呼びかけ。

2020年1月4日 [リステラス星圏史略](#) (創作)



【 任務完了！ 】。(??)。(！03:30！)

オワッター！

おわったー！

第三稿！無事？に終わったーーーー！！！！

で。03:40ですw

ネット上にアップして【投稿完了】するのは、仮眠？してからにします...www

=====

【 目次 】

起： パペルの塔

- 一・ 小説家： 美味賜 香子（うまし・かこ）の日常。
- 二・ 調理師： 佐藤和子（さとう・かずこ）の仕事。
- 三・ 清掃員： 円藤美奈和（えんどう・みなわ）の業務。
- 四・ 漫画家： 宝剣 聖鈍（ほうけん・せいな）の本音。
- 五・ 管理人： 置田多恵子（おきた・たえこ）の観察。

承： かけこみ T E R A。

- 六・ 運転手： 富田都美子（とんだ・とみこ）の日課。
- 七・ 支店長： 滝川明子（たきがわ・あきこ）の業務報告。
- 八・ 副社長： 長野 緑（ながの・みどり）の嘆息。
- 九・ 農業者： 吉野清次（よしの・せいじ）の来歴。
- 一〇・ 校閲者： 佐賀 野絵瑠（さが・のえる）の陰謀。

転： 本日沈没。

- 十一・ 秘書嬢： 細沼甲斐子（ほそぬま・かいこ）の青天霹靂。

十二・ 統括長： 嵯峨野景（さかの・けい）の驚天動地。

十三・ 技術者： 田中真理（たなか・まり）の阿鼻叫喚。

十四・ 林業者： 狩野愛子（かのう・あいこ）の決断。

十五・ 牧場主： 鷹野王也（たかの・おうや）の煩悶。

結・ 天国への会談。

十六・ 通訳業： 高原リツコ（たかはら・りつこ）の呼びかけ。

十七・ 原画家： アルノ涼子（あるの・りょうこ）の宣言。

十八・ 発明家： 土岐真扉（とき・まさと）の救済。

十九・ 大統領： 豪田行（ごうだ・ゆく）の統一。

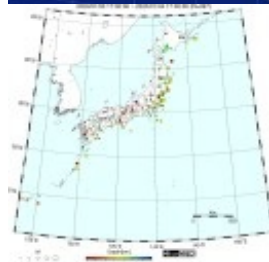
二十・ 移住者： 過去美味史（かこ・うまし）の墓碑銘。

(2020年1月4日) 不戦敗ッ！！！！

<https://85358.diarynote.jp/202001042022141437/>

「...そ、...そ、...そ、...そんなこともあろう
かと...ッ！」 ...w w w w w (涙目) w w w w
w

2020年1月4日 [リステラス星圏史略 \(創作\) コメント \(3\)](#)



(前項)

(さて。「投稿原稿アップ作業！」やってまいります...☆)

コメント

霧木里守≡畑楽希有 (はたら句きあり)

2020年1月4日19:49

>本文の最終ページに「400字程度のあらすじ」を記載してください。あらすじの内容を元に審査を進めさせていただきます

>※あらすじとは、ストーリーの全容、登場人物の設定や大きな流れを簡潔に明記したものです。

...難航中...w

霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）

2020年1月4日19:53

うわ...w w w w

不戦敗ッ！！！！

独身女が 集団で

総文字数/46,974

>「ノベマ！」上で、文字数8万字以上

w w w w w 「枚数換算」だと、「もう余裕」だったのに...ッ！

w w w

霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）

2020年1月4日19:58

...え〜と...w w w w w

...あたまを冷やしてくる...w w w w w w

現在、20:14。(--;)

https://www.youtube.com/watch?v=pj2WS_vZJoY&list=PLySqDLFir8lyheX7y-JzAgzBLzwMt5zoD

【PS3】 El Shaddai -エルシャダイ- (ルシフェルver) 高画質版

> 「...神は言っている。そこで死ぬ定めではないと。」...!!

...どお〜りで!

色々と! 「書いてて楽しい!」話なのに、妨害が?入りまくって!

難航した。わけだ...ッ! w w w w w

「エルさんの陰謀」ね...ッ! ??? (責任転嫁)。

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守≡畑楽希有 \(はたらけきあり\)](#)

2020年1月4日20:26

<https://www.youtube.com/watch?v=715mQbm2qmc&list=PLySqDLFir8lyheX7y-JzAgzBLzwMt5zoD&index=4>

【ルシフェルさん】 そんなガード形態で大丈夫か? 【MMD】

...あほや...www



霧木里守≡畑楽希有 (はたら句きあり)

2020年1月4日20:30

...そして「作中ネタ」が、

「そのまんまりアル」化しつつある...



震源マップ@地震くん @jisin_kun · 5時間5時間前

【地震情報】 2020年01月04日 14時44分

#苫小牧沖 でM3.2の地震。

https://twitter.com/jisin_kun/status/1213342115419148288

https://www.youtube.com/watch?v=-HZ_OYeGS48&list=PLySqDLFir8lyheX7y-JzAgzBLzwMt5zoD&index=6

天界ウォッチ



霧木里守≡畑楽希有 (はたら句きあり)

2020年1月4日20:35

<https://www.youtube.com/watch?v=SIH7IYxF19c&list=PLySqDLFir8lyheX7y-JzAgzBLzwMt5zoD&index=8>

そんな千本桜で大丈夫か？【エルシャダイ発売祭】

www

(2020年1月4日)

<https://85358.diarynote.jp/202001042118014677/>

「学習するは、我にありッ！」 (?)

2020年1月4日 [リステラス星圏史略](#) (創作) コメント (1)



とりあえずメモ。

【文字数 8, 0000字 (以上)】 ≠ 【400字詰め原稿用紙 200枚分】

(※むしろ【400枚分】の、【正味文字数!】)

と、心得るべきだった...www)

=====

さて。

毎度の知恵の神～☆

↓

https://textfield.net/contest#toc_id_1_2

次に読みたいファンタジーコンテスト

「時を越えて」のシチュエーションが入っていれば、
どのような世界/時代設定のファンタジー小説でも応募可能です。

- ・文字数は5,000文字以上
- ・募集期間：～2020年1月5日(日) 27:59:59

https://estar.jp/official_contests/159423

【集英社ノベル大賞】

- ・幅広く楽しめるエンターテインメント作品であれば、どんなジャンルも大歓迎!!
- ・締切：2020年1月10日23時59分まで

■400字詰め縦書き原稿100～400枚。

<http://orangebunko.shueisha.co.jp/novel-award/outline>

↑

【集英社が主催する公募文学賞で、受賞作は集英社オレンジ文庫から刊行されます。
ライト文芸が好きな人は、自分が読みたいと思う作品を応募してみては？】

キューダップワールドノベルプロジェクト

応募締め切り：令和2年1月31日23:59

最低でも5万文字「程」の分量を目安にご応募ください。

また、既に投稿サイトやブログなどに掲載している場合はそのURLお知らせください。
。

<https://qdopp.co.jp/campaign-worldnovelproject-announcement>

=====

あ。こんなものあった☆

↓

Webから応募できる小説新人賞まとめ

<https://monokaki.everystar.jp/column/pickup/3126/>

：第8回 ネット小説大賞

2月4日（火）〆切

ジャンル：不問

文字数・枚数：制限なし

短編から大長編まで長さは自由なので、文字数が気になって応募できなかった自信作
を応募するのもいいかもしれません。

過去には8,000文字から300万文字までの受賞作があり、前回の第7回では26作品が書籍
化されています。

グランプリは賞金100万円。メディアミックス賞は賞金30万円＋アニメ化・ゲーム化・
遊戯機化が検討されます。

<https://www.cg-con.com/novel/vol8/prerequisite/>

=====

第3回 文芸社文庫NEO小説大賞

締め切り 2020年2月29日（土）

<https://www.bungeisha.co.jp/neo/?>

[utm_source=google&utm_medium=cpc&utm_campaign=main&gclid=CjwKCAiAzanuBRAZEiwA5yf4ujRXh8r92IRq-GCe5ePR3EVMNWgWH5K8jdwLWIPZbNFOjC00-53P1hoCpYoQAvD_BwE](https://www.bungeisha.co.jp/neo/?utm_source=google&utm_medium=cpc&utm_campaign=main&gclid=CjwKCAiAzanuBRAZEiwA5yf4ujRXh8r92IRq-GCe5ePR3EVMNWgWH5K8jdwLWIPZbNFOjC00-53P1hoCpYoQAvD_BwE)

↑

（むしろこれは「今からもうひとつ」書いても間に合うw）

さて...

どうする？！

（とりあえず、ごはん食べて...、お風呂と洗濯！）

[Tweet 編集する](#)

（関連商品）

コメント



[霧木里守≡畑楽希有（はたらけきあり）](#)

2020年1月4日22:01

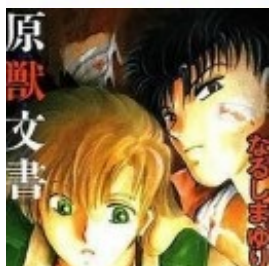
0692360

(2020年1月5日) 「あらすじ」再、というか、最終？チャレンジ中...w

<https://85358.diarynote.jp/202001042204439553/>

開き直りました。(^^;)

2020年1月4日 [リステラス星圏史略](#) (創作) [コメント](#) (5)



(承前)

開き直りました。(^^;)

↓

『 独身女が 集団で 』

<https://novema.jp/book/n1585991>

『キャラ大賞』 #キャラ大賞

#農林 牧畜 海産業

#幻視毒発電所

#障碍・障害者

#性的少数者

#介護・老後

#働く女性

#SF

#IF設定

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2020年1月4日22:05

あとの作業は明日～ッ！



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2020年1月5日14:53

【作者名と作者プロフィールが表示されない！】

！（><p）！

という基本的な設定ミスは、修正してきました...w



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2020年1月5日15:21

...あッ！ こんなものあったんじゃん！？

ノベマ！キャラクター短編小説コンテスト第2回

<https://novema.jp/article/contest/novema-chara-1912>

...ちよっともうちよっとちゃんと！（？）

情報チェックしないとダメだな～...★ w w w



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2020年1月5日19:41

のじれん @shibuyanojiren · 2時間2時間前

一人用テントを利用できます。夜間も利用できる誰でもトイレは近くの公園にあります。

ジェンダーを尋ねることはないですが、シス男性が多いという現状はあります。

行政の野宿者排除と炊き出し潰しに抗する中、一人ひとりできるだけ安心して野営や食事ができるような場作りを考えています。

<https://twitter.com/shibuyanojiren/status/1213744712755994624>



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2020年1月5日20:54

「あらすじ」再、というか、最終？チャレンジ中...w

↓

=====

エンタメ作家・美味賜香子（うまし・かこ）は筆がノッていて今夜も御機嫌だった。

（すいません。あとでまた書きます...w）（2020年01月4日22:23）

(2020年1月5日) ... 「任務完了！」

<https://85358.diarynote.jp/202001052137399946/>

『 独身女が 集団で 』 ... 「任務完了！」

2020年1月5日 [リステラス星圏史略](#) (創作) [コメント \(8\)](#)



『 独身女が 集団で 』

霧樹 里守 (きりぎ・りす) /著

ヒューマンドラマ

6ページ

総文字数/46,986

<https://novema.jp/book/n1585991>

本日 21 : 12 分 !

難航していた「あとがき」じゃなくて「あらすじ！」も含め。

作業完了、【完結】マークにしてきました。

ご笑読いただければ幸いです☆

=====

勝手に『借景BGM』集。

<https://www.youtube.com/watch?v=e3tyFhO-5c4>

谷山浩子／猫のみた夢

<https://www.youtube.com/watch?v=HhP0s1-eme4>

zabadak 私は羊(live)

<https://www.youtube.com/watch?v=odXANj740tQ>

【東日本大震災】決死の放水×福島原発

<https://www.youtube.com/watch?v=LqDzZKWG7wg>

「君は歌うことが出来る」(MV フルサイズ)／さだまさし

パンプキンパイとシナモンティー／夢供養収録曲 # さだまさし

<https://www.youtube.com/watch?v=qQasnxggKp4>

[Tweet 編集する](#)

(関連商品)

コメント



[霧木里守⇄畑楽希有 \(はたら句きあり\)](#)

2020年1月6日5:42

あ、これも「ラストエンディングテーマ」に、

借景びったり♪

<https://www.youtube.com/watch?v=w90u40MGSMU>

【グリムノーツ】忘れじの言の葉 60分ループ



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2020年1月6日22:52

中津川 昂 @subaru2012 · 5時間5時間前

新年早々、香港で「SARSと似た謎の感染症」がアウトブレイク。

そして、世界の流行キーワード第一位は「第三次世界大戦」である

2020年1月4日に

[https://indeep.jp/mysterious-sars-like-diseases-suddenly-outbreak-hongkong-and-china/ ...](https://indeep.jp/mysterious-sars-like-diseases-suddenly-outbreak-hongkong-and-china/)

中津川 昂 @subaru2012 · 5時間5時間前

そういう意味では2020年は終末の年であるのかもしれないし

[https://indeep.jp/is-2020-the-end-of-the-world/ ...](https://indeep.jp/is-2020-the-end-of-the-world/)

<https://twitter.com/subaru2012/status/1214101326377803777>



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2020年1月9日15:08

...りあるネタだらけ... w w w



中津川 昂 @subaru2012 · 1月7日

中津川 昂さんがReutersをリツイートしました

【韓国の現代自動車が、ウーバーの航空タクシー・プロジェクトに参入した最初の自動車メーカーです。

<https://twitter.com/subaru2012/status/1214687926828666880>



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2020年1月9日18:05

...ほんとにネタだらけ... (一一;) ...★

↓

まつふじさんがリツイート

沢村直樹「民主主義を取り戻す市民の会」（仮称） @iminnhantai · 1月5日

バベルの塔の絵画を見ると、ダンテの神曲の地獄の図を逆さにした形状になっている。

そして欧州連合・本部ビルはバベルの塔のイメージで建設されている。

そして欧州連合ビルの左側には、三角と目がある。

<https://twitter.com/iminnhantai/status/1213685094558224384>



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2020年1月9日18:16

まつふじさんがリツイート

Green Pepper @r2d2c3poacco · 1月4日

今朝の新聞に、岡山県玉野市の高台に「ニコニコ岩」と言う高さ7mの花崗岩が有ると言う記事が載ってた。確かにニコニコしてる。まるでモアイ像のようだ。

2万年前には既にここで瀬戸内の自然を見つめながらニコニコ岩はあったと言う。良い眺めだのうなんて考えてるうちにこんな顔になったのか...

<https://twitter.com/r2d2c3poacco/status/1213609766183825414>



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2020年1月9日18:16

0 ... 6 9 3 ...

0 0 0 ... !

☆彡



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2020年1月9日18:19

【善野】だw



まつふじさんがリツイート

Koichi Kawakami @koichi_kawakami · 1月5日

断然支持します。

「リニアか南アルプスかどちらを優先するのかとなった時、迷わず南アルプスだ」

川勝平太・静岡知事「リニアか南アルプスかといえば、迷わず」 - 毎日新聞

https://twitter.com/koichi_kawakami/status/1213688973660323840



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2020年1月9日19:20

うわ...飛仙の郷だ...w



<https://twitter.com/XHJapanese/status/1214351080194052096>

<https://twitter.com/r2d2c3poacco>

『独身女が 集団で』

<http://p.booklog.jp/book/129821>

著者：霧樹 里守（きりぎ・りす）

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/129821>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：デザインエッグ株式会社